

ボランティアに関する授業科目又は  
ボランティアを取り入れた授業科目一覧

## 【Ⅱ.短期大学】

○ 神奈川県立外語短期大学

|                |  |              |       |
|----------------|--|--------------|-------|
| 授業科目名          | ボランティア論  |              |       |
| 担当教員（学内又は学外）   | 学外教員   | 授業期間         | 半期    |
| 担当教員の専門分野      | 社会福祉   | 共通・専門等の別     | 共通    |
| 開設学部（学科）及び年次   | 英語科1・2年次   | 授業のレベル       | 初級・入門 |
| 平成20年度履修者数     | 計52名   | 授業区分         | 講義    |
| 単位数            | 2  | ボランティア体験の時間数 | なし    |
| 必修・選択の別        | 選択   |              |       |
| 授業目的           | 現代社会におけるボランティア活動の意義を考え、実践への手がかりを提供する。  |              |       |
| 授業内容           | <p>具体的な活動事例の考察を通して、ボランティア活動の歴史的背景、現状、課題、特質、意義などへの理解を深めます。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ボランティア活動の歴史的背景</li> <li>2. ボランティアの基本的特質</li> <li>3. ボランティアの現状             <ol style="list-style-type: none"> <li>(1)ハンディを持つ人びとに</li> <li>(2)高齢者を支える</li> <li>(3)子どもたちの未来を考える</li> <li>(4)コミュニティ形成に向けて</li> <li>(5)国際ボランティアの現状</li> </ol> </li> <li>4. ボランティアの課題</li> <li>5. 現代社会におけるボランティアの意義</li> </ol> |              |       |
| 教科書            | なし   |              |       |
| 授業の工夫点         |  |              |       |
| 授業の評価方法        | レポート   |              |       |
| 授業のサポート体制      | ない   |              |       |
| 学外の関係機関・団体との連携 | ない   |              |       |
| 今後の授業の継続       | 今後も継続  |              |       |

○ 大分県立芸術文化短期大学

|                |  |              |       |
|----------------|--|--------------|-------|
| 授業科目名          | サービスマーケティング I  |              |       |
| 担当教員（学内又は学外）   | 学内教員   | 授業期間         | 半期    |
| 担当教員の専門分野      | 社会学  | 共通・専門等の別     | 専門    |
| 開設学部（学科）及び年次   | 情報コミュニケーション学科1、2年<br>（他学科の受講可）   | 授業のレベル       | 初級・入門 |
| 平成20年度履修者数     | 計110名（男子学生5名 女子学生105名）   | 授業区分         | 実習    |
| 単位数            | 1  | ボランティア体験の時間数 | 30時間  |
| 必修・選択の別        | 選択   |              |       |
| 授業目的           | 短大での学習や特技を生かし、地域社会に貢献する活動を行うプログラムです。自信力(自尊感情)やコミュニケーション能力を高め、学習と社会とのつながりを理解し、社会を変えようことを知り、何ができ何をしたいかをわけることができることを目的にします。これによって、アイデンティティーの確立・他者を理解する能力・学習への動機付け・社会的責任や役割の自覚・進路選択や目標の自覚を促すことを課題とします。   |              |       |
| 授業内容           | <p>本学教職員が指導する社会活動へ参加します。その都度、参加者を募集し、活動の企画段階から参加していきます。その都度、課題やレポートなどを提出してもらい評価をします。</p> <p>予定している活動：<br/>         鶴崎サエモン二十三夜祭り：市民参加型のお祭りにチームを作って参加します。踊り子やチームの支援（音楽や振り付け・衣装など）への参加もできます。<br/>         NPO法人ABC野外教育センターでのリーダー養成研修：野外教育リーダー養成研修に参加し、学内外での活動に参加できるよう学習します。<br/>         スローカフェ：エコロジカルでヒトに優しい生活を提案するスローカフェの支援や企画に参加します。<br/>         大分市内の商店街やNPO法人等のホームページの作成などに参加します。キャンパス・カフェなどの学内外で情報発信。学内の環境整備活動やキャンドルナイトなどへの参加。その他、いろんな企画を用意して、その都度、募集をします。</p> |              |       |
| 教科書            | 特に用いない。  |              |       |
| 授業の工夫点         | サービスマーケティング。教職員の参加するボランティア活動に30時間以上参加  |              |       |
| 授業の評価方法        | 活動時間・活動の内容・発表会・レポートなどで評価します。   |              |       |
| 授業のサポート体制      | ない   |              |       |
| 学外の関係機関・団体との連携 | 大分青年会議所、鶴崎商工青年部、NPO法人ABC野外教育センターなど   |              |       |
| 今後の授業の継続       | 今後も継続  |              |       |

| 授業科目名          |  | サービ斯拉ーニングⅡ   |       |
|----------------|--|--------------|-------|
| 担当教員（学内又は学外）   | 学内教員   | 授業期間         | 半期    |
| 担当教員の専門分野      | 社会学  | 共通・専門等の別     | 専門    |
| 開設学部（学科）及び年次   | 情報コミュニケーション学科1、2年<br>（他学科の受講可）   | 授業のレベル       | 初級・入門 |
| 平成20年度履修者数     | 計91名（男子学生4名 女子学生87名）   | 授業区分         | 実習    |
| 単位数            | 1  | ボランティア体験の時間数 | 30時間  |
| 必修・選択の別        | 選択   |              |       |
| 授業目的           | 短大での学習や特技を生かし、地域社会に貢献する活動を行うプログラムです。自信力(自尊感情)やコミュニケーション能力を高め、学習と社会とのつながりを理解し、社会を変えようことを知り、何ができ何をしたいかをわけることができることを目的にします。これによって、アイデンティティーの確立・他者を理解する能力・学習への動機付け・社会的責任や役割の自覚・進路選択や目標の自覚を促すことを課題とします。   |              |       |
| 授業内容           | <p>本学教職員が指導する社会活動へ参加します。その都度、参加者を募集し、活動の企画段階から参加していきます。その都度、課題やレポートなどを提出してもらい評価をします。</p> <p>予定している活動：<br/>鶴崎サエモン二十三夜祭り：市民参加型のお祭りにチームを作って参加します。踊り子やチームの支援（音楽や振り付け・衣装など）への参加もできます。<br/>NPO法人ABC野外教育センターでのリーダー養成研修：野外教育リーダー養成研修に参加し、学内外での活動に参加できるよう学習します。<br/>スローカフェ：エコロジカルでヒトに優しい生活を提案するスローカフェの支援や企画に参加します。<br/>大分市内の商店街やNPO法人等のホームページの作成などに参加します。キャンパス・カフェなどの学内外で情報発信。学内の環境整備活動やキャンドルナイトなどへの参加。その他、いろんな企画を用意して、その都度、募集をします。</p> |              |       |
| 教科書            | 特に用いない。  |              |       |
| 授業の工夫点         | サービ斯拉ーニング。教職員の参加するボランティア活動に30時間以上参加  |              |       |
| 授業の評価方法        | 活動時間・活動の内容・発表会・レポートなどで評価します。   |              |       |
| 授業のサポート体制      | ない   |              |       |
| 学外の関係機関・団体との連携 | 大分青年会議所、鶴崎商工青年部、NPO法人ABC野外教育センターなど   |              |       |
| 今後の授業の継続       | 今後も継続  |              |       |

| 授業科目名          |  | サービ斯拉ーニングⅢ   |       |
|----------------|--|--------------|-------|
| 担当教員（学内又は学外）   | 学内教員   | 授業期間         | 半期    |
| 担当教員の専門分野      | 社会学  | 共通・専門等の別     | 専門    |
| 開設学部（学科）及び年次   | 情報コミュニケーション学科1、2年<br>（他学科の受講可）   | 授業のレベル       | 初級・入門 |
| 平成20年度履修者数     | 計27名（男子学生2名 女子学生25名）   | 授業区分         | 実習    |
| 単位数            | 1  | ボランティア体験の時間数 | 30時間  |
| 必修・選択の別        | 選択   |              |       |
| 授業目的           | 短大での学習や特技を生かし、地域社会に貢献する活動を行うプログラムです。自信力(自尊感情)やコミュニケーション能力を高め、学習と社会とのつながりを理解し、社会を変えようことを知り、何ができ何をしたいかをわけることができることを目的にします。これによって、アイデンティティーの確立・他者を理解する能力・学習への動機付け・社会的責任や役割の自覚・進路選択や目標の自覚を促すことを課題とします。   |              |       |
| 授業内容           | <p>本学教職員が指導する社会活動へ参加します。その都度、参加者を募集し、活動の企画段階から参加していきます。その都度、課題やレポートなどを提出してもらい評価をします。</p> <p>予定している活動：<br/>鶴崎サエモン二十三夜祭り：市民参加型のお祭りにチームを作って参加します。踊り子やチームの支援（音楽や振り付け・衣装など）への参加もできます。<br/>NPO法人ABC野外教育センターでのリーダー養成研修：野外教育リーダー養成研修に参加し、学内外での活動に参加できるよう学習します。<br/>スローカフェ：エコロジカルでヒトに優しい生活を提案するスローカフェの支援や企画に参加します。<br/>大分市内の商店街やNPO法人等のホームページの作成などに参加します。キャンパス・カフェなどの学内外で情報発信。学内の環境整備活動やキャンドルナイトなどへの参加。その他、いろんな企画を用意して、その都度、募集をします。</p> |              |       |
| 教科書            | 特に用いない。  |              |       |
| 授業の工夫点         | サービ斯拉ーニング。教職員の参加するボランティア活動に30時間以上参加  |              |       |
| 授業の評価方法        | 活動時間・活動の内容・発表会・レポートなどで評価します。   |              |       |
| 授業のサポート体制      | ない   |              |       |
| 学外の関係機関・団体との連携 | 大分青年会議所、鶴崎商工青年部、NPO法人ABC野外教育センターなど   |              |       |
| 今後の授業の継続       | 今後も継続  |              |       |

|                |   |              |       |
|----------------|---|--------------|-------|
| 授業科目名          | サービスラーニングⅣ  |              |       |
| 担当教員(学内又は学外)   | 学内教員  | 授業期間         | 半期    |
| 担当教員の専門分野      | 社会学   | 共通・専門等の別     | 専門    |
| 開設学部(学科)及び年次   | 情報コミュニケーション学科1、2年<br>(他学科の受講可)  | 授業のレベル       | 初級・入門 |
| 平成20年度履修者数     | 計19名(男子学生1名 女子学生18名)  | 授業区分         | 実習    |
| 単位数            | 1   | ボランティア体験の時間数 | 30時間  |
| 必修・選択の別        | 選択  |              |       |
| 授業目的           | 短大での学習や特技を生かし、地域社会に貢献する活動を行うプログラムです。自信力(自尊感情)やコミュニケーション能力を高め、学習と社会とのつながりを理解し、社会を変えることを知り、何ができ何をしたいかをわかることができることを目的にします。これによって、アイデンティティの確立・他者を理解する能力・学習への動機付け・社会的責任や役割の自覚・進路選択や目標の自覚を促すことを課題とします。  |              |       |
| 授業内容           | <p>本学教職員が指導する社会活動へ参加します。その都度、参加者を募集し、活動の企画段階から参加していきます。その都度、課題やレポートなどを提出してもらい評価をします。</p> <p>予定している活動:<br/> 鶴崎サエモン二十三夜祭り:市民参加型のお祭りにチームを作って参加します。踊り子やチームの支援(音楽や振り付け・衣装など)への参加もできます。<br/> NPO法人ABC野外教育センターでのリーダー養成研修:野外教育リーダー養成研修に参加し、学内外での活動に参加できるように学習します。<br/> スローカフェ:エコロジカルでヒトに優しい生活を提案するスローカフェの支援や企画に参加します。<br/> 大分市内の商店街やNPO法人等のホームページの作成などに参加します。キャンパス・カフェなどの学内外で情報発信。学内の環境整備活動やキャンドルナイトなどへの参加。その他、いろんな企画を用意して、その都度、募集をします。</p> |              |       |
| 教科書            | 特に用いない。   |              |       |
| 授業の工夫点         | サービスラーニング。教職員の参加するボランティア活動に30時間以上参加   |              |       |
| 授業の評価方法        | 活動時間・活動の内容・発表会・レポートなどで評価します。  |              |       |
| 授業のサポート体制      | ない  |              |       |
| 学外の関係機関・団体との連携 | 大分青年会議所、鶴崎商工青年部、NPO法人ABC野外教育センターなど  |              |       |
| 今後の授業の継続       | 今後も継続   |              |       |

|                |   |              |       |
|----------------|---|--------------|-------|
| 授業科目名          | 地域社会特講Ⅰ   |              |       |
| 担当教員(学内又は学外)   | 学内教員  | 授業期間         | 半期    |
| 担当教員の専門分野      | 社会学   | 共通・専門等の別     | 専門    |
| 開設学部(学科)及び年次   | 情報コミュニケーション学科1、2年<br>(他学科の受講可)  | 授業のレベル       | 初級・入門 |
| 平成20年度履修者数     | 計219名(男子学生11名 女子学生208名)   | 授業区分         | 講義    |
| 単位数            | 2   | ボランティア体験の時間数 | なし    |
| 必修・選択の別        | 必修  |              |       |
| 授業目的           | 今日の地域社会の理解の理解のために、地域で地域社会のために活躍されている方々に実際に来て話をしてもらいます。社会学・心理学・情報科学・メディアの各領域から話をお願いします。講演を聴くだけでなく、イベントに参加したりボランティアに参加するきっかけとして、学生の皆さんの活動を拡大するためにも役立っています。情報コミュは専門科目の必修です。その他の学科は共通教育科目となります。 |              |       |
| 授業内容           | 1.まちづくり 青年会議所・商工青年部・湯布院映画祭・行政機関・NPO法人<br>2.情報メディア 映画・インターネットなど<br>3.国際交流 ホームステイ・青少年海外交流<br>講師の都合で順番は変わります。  |              |       |
| 教科書            | そのつど、関連文献などを示します。   |              |       |
| 授業の工夫点         | 地域で活躍されている方の講演  |              |       |
| 授業の評価方法        | 出席がまず基本です。その他、授業態度やレポートなどによります。   |              |       |
| 授業のサポート体制      | ない  |              |       |
| 学外の関係機関・団体との連携 | 大分青年会議所、鶴崎商工青年部、NPO法人ABC野外教育センターなど  |              |       |
| 今後の授業の継続       | 今後も継続   |              |       |

|                |  |              |       |
|----------------|--|--------------|-------|
| 授業科目名          | 地域社会特講Ⅱ  |              |       |
| 担当教員(学内又は学外)   | 学内教員   | 授業期間         | 半期    |
| 担当教員の専門分野      | 社会学  | 共通・専門等の別     | 専門    |
| 開設学部(学科)及び年次   | 情報コミュニケーション学科1、2年<br>(他学科の受講可)   | 授業のレベル       | 初級・入門 |
| 平成20年度履修者数     | 計167名(男子学生8名 女子学生159名)   | 授業区分         | 講義    |
| 単位数            | 2  | ボランティア体験の時間数 | なし    |
| 必修・選択の別        | 必修   |              |       |
| 授業目的           | 今日の地域社会の理解の理解のために、地域で地域社会のために活躍されている方々に実際に来て話をしてもらいます。社会学・心理学・情報科学・メディアの各領域から話をお願いします。講演を聴くだけではなく、イベントに参加したりボランティアに参加するきっかけとして、学生の皆さんの活動を拡大するためにも役立っています。情報コミュは専門科目の必修です。その他の学科は共通教育科目となります。 |              |       |
| 授業内容           | 1.社会福祉 ハンディーキャップと生きる<br>2.人権 子どもを守る、女性の人権<br>3.心のケア<br>4.環境と社会 住居・エネルギー<br>順番は変わります。   |              |       |
| 教科書            | そのつど、関連文献などを示します。  |              |       |
| 授業の工夫点         | 地域で活躍されている方の講演   |              |       |
| 授業の評価方法        | 出席がまず基本です。その他、授業態度やレポートなどによります。  |              |       |
| 授業のサポート体制      | ない   |              |       |
| 学外の関係機関・団体との連携 | 大分青年会議所、鶴崎商工青年部、NPO法人ABC野外教育センターなど   |              |       |
| 今後の授業の継続       | 今後も継続  |              |       |

|                |  |              |       |
|----------------|--|--------------|-------|
| 授業科目名          | 地域づくり論   |              |       |
| 担当教員(学内又は学外)   | 学内教員   | 授業期間         | 半期    |
| 担当教員の専門分野      | 現代社会論  | 共通・専門等の別     | 専門    |
| 開設学部(学科)及び年次   | 情報コミュニケーション学科1、2年<br>(他学科の受講可)   | 授業のレベル       | 初級・入門 |
| 平成20年度履修者数     | 計45名(男子学生2名 女子学生43名)   | 授業区分         | 講義    |
| 単位数            | 2  | ボランティア体験の時間数 | なし    |
| 必修・選択の別        | 選択   |              |       |
| 授業目的           | 近年、日本では、コミュニティ・ビジネスや地域通貨など、新しい地域づくりの取り組みが広がっています。この授業では、地域づくりの多様なあり方を学ぶなかで、みずから地域の主体となりうるための知識の習得を目指します。   |              |       |
| 授業内容           | 1.ガイダンス<br>2.地域社会の諸問題(1)<br>3.地域社会の諸問題(2)<br>4.地域社会の諸問題(3)<br>5.地域社会の諸問題(4)<br>6.地域づくりの担い手<br>7.地域づくりとNPO(1)<br>8.地域づくりとNPO(2)<br>9.地域づくりと企業<br>10.コミュニティ・ビジネス(1)<br>11.コミュニティ・ビジネス(2)<br>12.地域通貨<br>13.地域づくりの新しいかたち<br>14.まとめ |              |       |
| 教科書            | 教科書はありません。参考文献はそのつど授業のなかで紹介します。  |              |       |
| 授業の工夫点         |  |              |       |
| 授業の評価方法        | 出席・平常点(30%)とレポート(70%)を総合して評価します。   |              |       |
| 授業のサポート体制      | ない   |              |       |
| 学外の関係機関・団体との連携 | ない   |              |       |
| 今後の授業の継続       | 今後も継続  |              |       |

## 私立・短期大学

### ○ 函館短期大学

|                |  |              |                                 |
|----------------|--|--------------|---------------------------------|
| 授業科目名          | レクリエーション現場実習   |              |                                 |
| 担当教員（学内又は学外）   | 学外教員   | 授業期間         | 通年                              |
| 担当教員の専門分野      |  | 共通・専門等の別     | その他<br>(レクリエーションインストラクター資格必修科目) |
| 開設学部(学科)及び年次   | 食物栄養学科1年次  | 授業のレベル       | 初級・入門                           |
| 平成20年度履修者数     | 計29名（男子学生2名 女子学生27名）   | 授業区分         | 実習                              |
| 単位数            | 1  | ボランティア体験の時間数 | 3回以上                            |
| 必修・選択の別        | 選択必修   |              |                                 |
| 授業目的           | レクリエーションインストラクター資格取得者の必修科目である。<br>レクリエーション関係の各種大会、講習会等に実際参加し、レク事業の内容や流れを理解することを目的とする。レク支援者の活動の姿勢やレク自体の楽しさを実感してほしい。   |              |                                 |
| 授業内容           | 函館市内近郊で開催されるレクリエーション関連の大会に参加し、レポートを提出することで単位の取得ができる。<br>単位を修得するための参加数は最低3回である。年に実施される大会の回数が少ないため、最初に紹介する大会から積極的に参加することが望ましい。<br>大会の開催については、その都度掲示板で連絡する。見忘れの無いように。<br>また参加数のレポートは参加後1週間以内にフィットネスセンターに提出すること。 |              |                                 |
| 教科書            | なし   |              |                                 |
| 授業の工夫点         |  |              |                                 |
| 授業の評価方法        | 指定されたレクの大会には全て出席し、レポートを提出することが条件。それら全てに出ると100点となり、欠席分は減点となる。   |              |                                 |
| 授業のサポート体制      | ない   |              |                                 |
| 学外の関係機関・団体との連携 | レクリエーション協会   |              |                                 |
| 今後の授業の継続       | 今後も継続  |              |                                 |

### ○ 函館大谷短期大学

|                |   |              |       |
|----------------|---|--------------|-------|
| 授業科目名          | ボランティア活動論   |              |       |
| 担当教員（学内又は学外）   | 学内教員  | 授業期間         | 半期    |
| 担当教員の専門分野      | 介護福祉  | 共通・専門等の別     | 専門    |
| 開設学部(学科)及び年次   | コミュニティ総合学科、こども学科  | 授業のレベル       | 初級・入門 |
| 平成20年度履修者数     | 計24名（男子学生7名 女子学生17名）  | 授業区分         | 講義    |
| 単位数            | 2   | ボランティア体験の時間数 | 4時間   |
| 必修・選択の別        | 選択  |              |       |
| 授業目的           | ボランティア活動を定義すること自体、困難があり定義の仕方も様々であるが、講義・演習・実体験を通じ、自分にとっての新たな価値を発見していく。   |              |       |
| 授業内容           | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2. ボランティアの意味・始まり</li> <li>3. ボランティアと社会</li> <li>4. ボランティアとNPO</li> <li>5. ボランティアの活動状況と課題</li> <li>6. ボランティアの活動形態</li> <li>7. 活動の実践①</li> <li>8. 活動の実践②</li> <li>9. 日常生活介護①</li> <li>10. 日常生活介護②</li> <li>11. 日常生活介護③</li> <li>12. これからのボランティア活動①</li> <li>13. これからのボランティア活動②</li> <li>14. まとめ</li> <li>15. レポート</li> </ol> |              |       |
| 教科書            | 資料・レジュメ   |              |       |
| 授業の工夫点         |   |              |       |
| 授業の評価方法        | 授業態度、レポート   |              |       |
| 授業のサポート体制      | ない  |              |       |
| 学外の関係機関・団体との連携 | ない  |              |       |
| 今後の授業の継続       | 今後も継続   |              |       |

## ○ 北翔大学短期大学部

|                |  |              |       |
|----------------|--|--------------|-------|
| 授業科目名          | ボランティア介護論  |              |       |
| 担当教員(学内又は学外)   | 学外教員   | 授業期間         | 半期    |
| 担当教員の専門分野      |  | 共通・専門等の別     | 専門    |
| 開設学部(学科)及び年次   | 人間総合学科1年次  | 授業のレベル       | 初級・入門 |
| 平成20年度履修者数     | 計16名(男子学生6名 女子学生10名)   | 授業区分         | 講義    |
| 単位数            | 2  | ボランティア体験の時間数 | なし    |
| 必修・選択の別        | 選択   |              |       |
| 授業目的           | 最近では幼稚園から高等学校においてもボランティア的活動が取り入れられ豊かな体験学習が展開されている。もちろん短大部においても学生生活の中でボランティア活動が多彩に展開されている。また、教員免許を取得するためには「介護等体験」が必修になっている。教員免許を取得するしないに関わらず実際の介護等体験の裏付として実践的学問の構築をめざしてこの科目が設定されている。本論では取り敢えず学域をしばり特別支援学校・社会福祉施設での介護の実際等の体験を通してボランティア介護を見つめることにした。そしてボランティア活動の歴史的経過や現在の展開状況、意義等を理論的に整理してみることによってボランティア介護の実践的な知識・理解を深めることを目的とする。   |              |       |
| 授業内容           | <p>(1)★オリエンテーション:まちで障害者と出会ったら</p> <p>(2)★ボランティアって何:ボランティア活動の変遷・意義・種類、国際ボランティア年</p> <p>(3)★障害って何だろう:WHOの障害の定義★課題レポートⅠ</p> <p>(4)★介護とは何か:介護の変遷・障害種別と介護の要点</p> <p>(5)★介護体験でな—に:介護体験の必要性・心構え。★小論文テストⅠ</p> <p>(6)★障害のある子どもが学ぶ学校:特別支援学校の概要<br/>★特殊教育から特別支援教育へ:大きく変わった教育の体制</p> <p>(7)★目の不自由な子どもの学校:盲学校の教育と介護支援</p> <p>(8)★ボランティアって何するの:北海道では具体的にどんな団体・活動があるのかな<br/>★ボランティアをしてみませんか?★課題レポートⅡ</p> <p>(9)★耳の不自由な子どもの学校:聾学校の教育と介護支援<br/>★肢体の不自由な子どもの学校:肢体不自由養護学校の教育と介護支援<br/>★からだの弱い子どもの学校:病弱養護学校の教育と介護支援</p> <p>(10)★知的発達遅れのある子どもの学校:知的障害養護学校の教育と介護支援</p> <p>(11)★心身に障害のある人々の生活の場である施設での療育:社会福祉施設の概要<br/>★身体に障害のある人々の施設での療育:社会福祉施設での介護支援<br/>★こんなスケールの大きなボランティアもあるヨ。★課題レポートⅢ</p> <p>(12)★知的発達遅れのある人々の施設での療育:社会福祉施設での介護支援<br/>★精神障害者への介護支援。<br/>★高齢者への介護支援 ★小論文テストⅡ</p> <p>(13)★バリアフリーのまちづくり<br/>★知っておきたい福祉制度(1):年金・補装具・日常生活用具、介護保険・障害者自立支援法</p> <p>(14)★知っておきたい福祉制度(2):障害者自立支援法・後期高齢者医療制度</p> <p>(15)★まとめ:さあ—はじめようボランティア活動。★小論文テストⅢ</p> |              |       |
| 教科書            | なし   |              |       |
| 授業の工夫点         | VTR等の視聴覚教材を毎時間使用し講義する。   |              |       |
| 授業の評価方法        | 小論文テスト(6割)、課題レポート(3割)・出席率(1割)を総合的に評価し成績を査定する。  |              |       |
| 授業のサポート体制      | ない   |              |       |
| 学外の関係機関・団体との連携 | ない   |              |       |
| 今後の授業の継続       | 今年度のみ  |              |       |

## ○ 釧路短期大学

|                |   |              |       |
|----------------|---|--------------|-------|
| 授業科目名          | 実習内容研究 I  |              |       |
| 担当教員 (学内又は学外)  | 学内教員  | 授業期間         | 通年    |
| 担当教員の専門分野      | 教育学他  | 共通・専門等の別     | 専門    |
| 開設学部(学科)及び年次   | 幼児教育学科1年次   | 授業のレベル       | 初級・入門 |
| 平成20年度履修者数     | 計44名 (男子学生8名 女子学生36名)   | 授業区分         | 実習    |
| 単位数            | 1   | ボランティア体験の時間数 | なし    |
| 必修・選択の別        | 必修  |              |       |
| 授業目的           | <ul style="list-style-type: none"> <li>・保育における対象および施設の姿を体験的に学ぶ。</li> <li>・保育の実践的な方法を学習する。</li> <li>・保育に必要な記録、計画立案などの基本的な技能を身につける。</li> <li>・教育実習および保育実習に必要な事前学習および準備、事後の振り返りなどをおこなう。</li> </ul>   |              |       |
| 授業内容           | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス</li> <li>2. 観察準備(1)</li> <li>3. 観察準備(2)</li> <li>4. 5. 保育観察(1)・観察記録</li> <li>6. 福祉施設実習の概要と施設研修旅行</li> <li>7. 研修旅行の内容と心得</li> <li>8. 観察準備(3)</li> <li>9. 10. 保育観察(2)・観察記録</li> <li>11～16. 施設研修旅行</li> <li>17. 18. 保育観察(3)・観察記録</li> <li>19. 20. 研修旅行反省会</li> <li>21. 22. 保育観察(4)観察記録</li> <li>23. 実習事前準備</li> <li>24. 25. 保育観察(5)・観察記録</li> <li>26. 27. 指導案作成と模擬指導(1)</li> <li>28. 実習事前準備(2)</li> <li>29. 30. 指導案作成と模擬指導(2)</li> <li>31. 32. 保育観察(6)・観察記録</li> <li>33. 34. 幼稚園見学実習の事前準備(1)</li> <li>35. 36. 幼稚園見学実習の事前準備(2)</li> <li>37. 幼稚園見学実習反省会</li> <li>38. 保育所見学実習の事前学習</li> <li>39. 保育所見学実習反省会</li> </ol> |              |       |
| 教科書            | 『実習の手引き』(本学作成)  |              |       |
| 授業の工夫点         |   |              |       |
| 授業の評価方法        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・観察記録、実習記録等の提出物</li> <li>・授業内で行う活動の事前準備状況</li> <li>・実習に行くための重要な指導を含んでいるので、欠席の多いものは実習を取りやめる扱いとする。</li> </ul>  |              |       |
| 授業のサポート体制      | ない  |              |       |
| 学外の関係機関・団体との連携 | ない  |              |       |
| 今後の授業の継続       | 今後も継続   |              |       |



| 授業科目名          |  | 実習内容研究Ⅱ      |       |
|----------------|--|--------------|-------|
| 担当教員（学内又は学外）   | 学内教員   | 授業期間         | 通年    |
| 担当教員の専門分野      | 教育学他   | 共通・専門等の別     | 専門    |
| 開設学部（学科）及び年次   | 幼児教育学科2年次  | 授業のレベル       | 中級・応用 |
| 平成20年度履修者数     | 計47名（男子学生5名 女子学生42名）   | 授業区分         | 実習    |
| 単位数            | 1  | ボランティア体験の時間数 | なし    |
| 必修・選択の別        | 選択   |              |       |
| 授業目的           | <ul style="list-style-type: none"> <li>・保育における対象および施設の姿を体験的に学ぶ。</li> <li>・保育の実践的な方法を学習する。</li> <li>・保育に必要な記録、計画立案などの基本的な技能を身につける。</li> <li>・教育実習および保育実習に必要な事前学習および準備、事後の振り返りなどをおこなう。</li> <li>・専門職に就く社会人になるという意識を高める。</li> </ul>   |              |       |
| 授業内容           | 1. ガイダンス<br>2～4. 個人面談と実習に役立つ情報収集<br>5. 実習講演会（幼稚園）<br>6～8. 実習の準備作業および事前学習<br>9. 幼稚園実習反省会<br>10. 実習の準備作業および事前学習<br>11. 実習講演会（保育施設）<br>12. 実習講演会（福祉施設）<br>13. 14. 実習の準備作業および事前学習<br>15. 保育実習反省会<br>16. 実習体験を語る会<br>17～19. 実習体験のまとめ・進路選択のための情報収集<br>20～24. 保育場面での対応<br>25. 施設実習報告会<br>26～29. 保護者への対応・進路選択のための情報収集<br>30. まとめ |              |       |
| 教科書            | なし   |              |       |
| 授業の工夫点         |  |              |       |
| 授業の評価方法        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・観察記録、実習記録等の提出物</li> <li>・授業内で行う活動の事前準備状況</li> <li>・実習に行くための重要な指導を含んでいるので、欠席の多いものは実習を取りやめる扱いとする。</li> </ul>   |              |       |
| 授業のサポート体制      | ない   |              |       |
| 学外の関係機関・団体との連携 | ない   |              |       |
| 今後の授業の継続       | 今後も継続  |              |       |

| 授業科目名          |  | レクリエーション実技   |       |
|----------------|--|--------------|-------|
| 担当教員（学内又は学外）   | 学内教員   | 授業期間         | 半期    |
| 担当教員の専門分野      | 体育学  | 共通・専門等の別     | 専門    |
| 開設学部（学科）及び年次   | 幼児教育学科1年次  | 授業のレベル       | 初級・入門 |
| 平成20年度履修者数     | 計23名（男子学生8名 女子学生15名）   | 授業区分         | 実習    |
| 単位数            | 1  | ボランティア体験の時間数 | なし    |
| 必修・選択の別        | 選択必修   |              |       |
| 授業目的           | <ul style="list-style-type: none"> <li>・参加者が気持ちよく参加できるようレクリエーション支援者としての対応の仕方や表現力を磨く。</li> <li>・より円滑なコミュニケーションを生むための技法を習得する。</li> <li>・各種レクリエーション種目の活動のねらい、ルールを理解し、技術を身につけ、様々な場面で提供できるよう指導方法を習得する。</li> </ul> |              |       |
| 授業内容           | 1. オリエンテーション、コミュニケーションワーク<br>2～5. コミュニケーションワーク<br>6～11. レクリエーション種目の実際<br>12～14. 支援実習<br>15. まとめ  |              |       |
| 教科書            | 『やさしいレクリエーション実践』『楽しいアイスブレイキングゲーム集』   |              |       |
| 授業の工夫点         |  |              |       |
| 授業の評価方法        | ロールプレイ観察評価 50%、レポート 50%  |              |       |
| 授業のサポート体制      | ない   |              |       |
| 学外の関係機関・団体との連携 | ない   |              |       |
| 今後の授業の継続       | 今後も継続  |              |       |

## ○ 北海道武蔵女子短期大学

|                |   |              |       |
|----------------|---|--------------|-------|
| 授業科目名          | 公共の思想   |              |       |
| 担当教員（学内又は学外）   | 学内教員  | 授業期間         | 半期    |
| 担当教員の専門分野      | 経済学   | 共通・専門等の別     | 共通    |
| 開設学部（学科）及び年次   | 教養学科2年次・経済学科2年次   | 授業のレベル       | 初級・入門 |
| 平成20年度履修者数     | 計236名（男子学生0名 女子学生236名）  | 授業区分         | 講義    |
| 単位数            | 2   | ボランティア体験の時間数 | なし    |
| 必修・選択の別        | 選択必修  |              |       |
| 授業目的           | 私たちの生活の中で、公共性がどのように関わっているかを、多面的に考察します。「わたくし プライベート」に対する「おおよけパブリック」の言葉の意味をおさえ、経済や法律において、公と私がどのように扱われているかを学び、それとの関連で、今日盛んなNPOやボランティア活動の意義、位置づけを考えます。その上で公共の思想を整理して、理解を深めます。 |              |       |
| 授業内容           | I. 「公と私、公共性」の語義、用法について<br>II. 経済活動と公共性<br>III. NPOと新しい公共性<br>IV. 環境問題から考える公共性<br>V. 法律から考える公と公共性<br>VI. 思想史における公と私の問題   |              |       |
| 教科書            | 単元ごとにプリントを配布。   |              |       |
| 授業の工夫点         |   |              |       |
| 授業の評価方法        | 講義単位ごとの受講レポート(40%)+授業最後の課題レポート(30%)+出席の状況(30%)  |              |       |
| 授業のサポート体制      | ない  |              |       |
| 学外の関係機関・団体との連携 | ない  |              |       |
| 今後の授業の継続       | 今後も継続   |              |       |

|                |  |              |       |
|----------------|--|--------------|-------|
| 授業科目名          | 政治と生活  |              |       |
| 担当教員（学内又は学外）   | 学外教員   | 授業期間         | 半期    |
| 担当教員の専門分野      | 政治学  | 共通・専門等の別     | 共通    |
| 開設学部（学科）及び年次   | 教養学科2年次・経済学科2年次  | 授業のレベル       | 初級・入門 |
| 平成20年度履修者数     | 計158名（男子学生0名 女子学生158名）   | 授業区分         | 講義    |
| 単位数            | 2  | ボランティア体験の時間数 | なし    |
| 必修・選択の別        | 選択必修   |              |       |
| 授業目的           | 「市民が創る公共」がテーマ。政治は政治や行政の専門家(政治家、自治体職員…)だけが行うものではなく、その中心には常に市民の存在があります。「政治には興味がない」と信じて疑わないあなたのために、「市民が中心の政治」の具体的な事例を紹介しながら、楽しい授業運営を工夫したいと思います。   |              |       |
| 授業内容           | 1) オリエンテーション<br>2) 自発する市民①<br>3) 自発する市民②<br>4) アソシエーションの政治学<br>5) NPO(非営利組織)とは何か①<br>6) NPO(非営利組織)とは何か②<br>7) NPO(非営利組織)とは何か③<br>8) 市民起業と企業の社会的責任①<br>9) 市民起業と企業の社会的責任②<br>10) 市民起業と企業の社会的責任③<br>11) NPO・企業・行政の協働を考える<br>12) 行政的公共性から市民的公共性へ<br>13) 成績講評授業 |              |       |
| 教科書            |  |              |       |
| 授業の工夫点         |  |              |       |
| 授業の評価方法        | 出席状況:20%・平常点:30%・定期試験:50%  |              |       |
| 授業のサポート体制      | ない   |              |       |
| 学外の関係機関・団体との連携 | ない   |              |       |
| 今後の授業の継続       | 今後も継続  |              |       |

## ○ 専修大学北海道短期大学

|                |  |              |       |
|----------------|--|--------------|-------|
| 授業科目名          | ボランティア活動   |              |       |
| 担当教員（学内又は学外）   | 学内教員   | 授業期間         | 半期    |
| 担当教員の専門分野      | 農学及び社会学  | 共通・専門等の別     | 専門    |
| 開設学部（学科）及び年次   | みどりの総合科学科・商経社会総合学科<br>1・2年次  | 授業のレベル       | 初級・入門 |
| 平成20年度履修者数     | 計96名（男子学生69名 女子学生27名）  | 授業区分         | 演習    |
| 単位数            | 2  | ボランティア体験の時間数 | 45時間  |
| 必修・選択の別        | 選択   |              |       |
| 授業目的           | ボランティア活動を通し、活動家の精神に学び、地域社会に即応できる人材を育成すること。   |              |       |
| 授業内容           | 1. 社会福祉関係－高齢者福祉、障害者福祉など<br>2. 自然・環境保全関係－自然・環境保全、環境復元活動、植樹祭への参加、リサイクル活動など<br>3. レクリエーション・スポーツ－レクリエーション活動、障がい者スポーツの協力など<br>4. 国際協力－国際交流、国際協力、友好植樹など<br>5. 芸術・文化－伝統の継承、文化支援、フラワーフェスティバルの参加支援<br>6. 防災－災害の防止、災害時の支援<br>7. その他－地域社会、交通安全活動、道路沿線の花壇整備、修景緑化活動など |              |       |
| 教科書            | 特になし   |              |       |
| 授業の工夫点         | 多方面に渡る活動内容   |              |       |
| 授業の評価方法        | 活動内容及び提出レポート   |              |       |
| 授業のサポート体制      | ない   |              |       |
| 学外の関係機関・団体との連携 | 地方自治体（道・市）   |              |       |
| 今後の授業の継続       | 今後も継続  |              |       |

## ○ 札幌国際大学短期大学部

|                |   |              |       |
|----------------|---|--------------|-------|
| 授業科目名          | ボランティア活動  |              |       |
| 担当教員（学内又は学外）   | 学内教員  | 授業期間         | 半期    |
| 担当教員の専門分野      |   | 共通・専門等の別     | 専門    |
| 開設学部（学科）及び年次   | 幼児教育保育学科1年次   | 授業のレベル       | 中級・応用 |
| 平成20年度履修者数     | 計141名（男子学生0名 女子学生141名）  | 授業区分         | 演習    |
| 単位数            | 1   | ボランティア体験の時間数 |       |
| 必修・選択の別        | 選択  |              |       |
| 授業目的           | 現代社会におけるボランティアの必要性およびボランティアの位置付けと意義を学び、新たな生きがいとしての自己学習の側面を理解する。   |              |       |
| 授業内容           | 授業 ①オリエンテーション<br>②実習として参加する音楽療育ワークショップについて理解する（ビデオ鑑賞・配布資料）<br>③実習ガイダンス（役割分担など）<br>実習 ④「札幌国際大学音楽療育ワークショップ」にボランティアとして参加<br>⑤ 同上<br>⑥ 同上<br>⑦ 同上<br>⑧ 同上<br>⑨ 同上<br>⑩ 同上<br>⑪ 同上<br>⑫ 同上<br>⑬ 同上<br>⑭「特別講演」「セミナー」受講<br>⑮まとめとしての講義<br>ワークショップの「学生ステージ」に、5グループに分かれて取り組んだものを参加発表する。 |              |       |
| 教科書            |   |              |       |
| 授業の工夫点         |   |              |       |
| 授業の評価方法        | ワークショップ参加後のレポート（アンケート形式）5回分 → 70%<br>「学生ステージ」への取り組み → 20%<br>授業および実習の出席・参加態度 → 10%  |              |       |
| 授業のサポート体制      |   |              |       |
| 学外の関係機関・団体との連携 |   |              |       |
| 今後の授業の継続       | 今後も継続   |              |       |

|                |   |              |       |
|----------------|---|--------------|-------|
| 授業科目名          | ボランティア論   |              |       |
| 担当教員（学内又は学外）   | 学内教員  | 授業期間         | 半期    |
| 担当教員の専門分野      |   | 共通・専門等の別     | 専門    |
| 開設学部（学科）及び年次   | 総合生活学科1年次   | 授業のレベル       | 中級・応用 |
| 平成20年度履修者数     | 計54名（男子学生3名 女子学生51名）  | 授業区分         | 講義    |
| 単位数            | 2   | ボランティア体験の時間数 |       |
| 必修・選択の別        | 選択  |              |       |
| 授業目的           | 現代社会におけるボランティアの必要性およびボランティアの位置付けと意義を学び、新たな生きがいとしての自己学習の側面を理解する。   |              |       |
| 授業内容           | <p>ボランティアはそれを必要とする社会の変化によって増加しつつあり、重要な役割を担うようになっているが、けして強いものが弱いものを一方的に助ける行為ではなく、ボランティアを行う本人が、より成長し新たな生きがいを見出す限らない自己学習と認識されつつある。この授業では、ボランティアの誕生から発展までを様々な角度から概観することで、ボランティアの意義を理解する。</p> <p>①ボランティアの意味と原則 ②ボランティアの心理的側面③宗教とボランティア ④高齢化社会とボランティア ⑤ノーマライゼーションの思想 ⑥企業活動のグローバル化 ⑦阪神大震災大震災に見るボランティア活動 ⑧国際貢献と海外ボランティア ⑨NPO、NGOの役割 ⑩地球環境保護の役割その1 ⑪地球環境保護の役割その2 ⑫社会福祉政策とボランティア ⑬ボランティア活動の実態 ⑭アメリカのボランティア活動に学ぶ ⑮まとめ、新たな生きがい、魅力と活力ある社会の創設に向けて</p> |              |       |
| 教科書            |   |              |       |
| 授業の工夫点         |   |              |       |
| 授業の評価方法        | 出席状況20%、授業中の小レポート(宿題を含む)20%、ディスカッションを含む授業参加の意欲20%、最終レポート40%   |              |       |
| 授業のサポート体制      |   |              |       |
| 学外の関係機関・団体との連携 |   |              |       |
| 今後の授業の継続       | 今後も継続   |              |       |

|                |   |              |       |
|----------------|---|--------------|-------|
| 授業科目名          | ボランティア実習  |              |       |
| 担当教員（学内又は学外）   | 学内教員  | 授業期間         | 半期    |
| 担当教員の専門分野      |   | 共通・専門等の別     | 専門    |
| 開設学部（学科）及び年次   | 総合生活学科1年次   | 授業のレベル       | 中級・応用 |
| 平成20年度履修者数     | 計3名（男子学生0名 女子学生3名）  | 授業区分         | 講義    |
| 単位数            | 2   | ボランティア体験の時間数 |       |
| 必修・選択の別        | 選択  |              |       |
| 授業目的           | ボランティアの意義(自らの意志で、自分の知識、技術、労力、経験、時間等を提供する)を理解したうえで、実際に活動することにより単位が与えられる。単に時間数を満たすだけの活動や、対象者への理解を欠く活動等には単位を認められないので注意すること。  |              |       |
| 授業内容           | <p>ボランティアとは、利益を獲得したり、他から強制されたからではなく、人々のために自分を役立てようと望む自らの意志で、自分の知識、技術、労力、経験、時間等を提供することです。この授業では、そのようなボランティアの意義を理解したうえで、実際に活動することにより単位が与えられます。</p> <p>・学内における事前学習<br/> ①講義 ボランティア活動とは何か<br/> ②ボランティアの心得<br/> ③ボランティアの実践例<br/> ④ボランティア実習先の確定と事前挨拶<br/> ⑤実施計画の作成</p> <p>・ボランティアの実践<br/> ⑥、⑦、⑧、⑨<br/> 計画に沿った各自のボランティア活動<br/> ⑩中間報告会<br/> ⑪、⑫、⑬、⑭<br/> 中間報告会での反省をふまえた新たな実践<br/> ⑮最終報告会、レポート提出</p> |              |       |
| 教科書            |   |              |       |
| 授業の工夫点         |   |              |       |
| 授業の評価方法        | 学内における授業への出席率20%、実習計画の作成10%、ボランティア活動60%、最終レポート10%   |              |       |
| 授業のサポート体制      |   |              |       |
| 学外の関係機関・団体との連携 |   |              |       |
| 今後の授業の継続       | 今後も継続   |              |       |

## ○ 聖霊女子短期大学

|                |   |              |       |
|----------------|---|--------------|-------|
| 授業科目名          | 体験学習Ⅰ   |              |       |
| 担当教員（学内又は学外）   | 学内教員  | 授業期間         | 通年    |
| 担当教員の専門分野      |   | 共通・専門等の別     | 共通    |
| 開設学部（学科）及び年次   | 生活文化科、文化コミュニケーション科1年次   | 授業のレベル       | 初級・入門 |
| 平成20年度履修者数     | 計162名（男子学生0名 女子学生162名）  | 授業区分         | 実習    |
| 単位数            | 1   | ボランティア体験の時間数 | 45時間  |
| 必修・選択の別        | 必修  |              |       |
| 授業目的           | 体験をとおして、多くの社会問題に気づき、よりよい社会、世界づくりのために「学び」の必要性と重要性に目覚める。良き社会人になるために求められている資質・態度などを実践的に理解し、身につける機会を得る。 |              |       |
| 授業内容           | 建学の精神に基づいて、学内外の種々の体験をとおして、神から与えられている能力に気づき、それを伸ばし、人々のしあわせのために生かしかされることを実践的に学ぶ。                      |              |       |
| 教科書            | なし  |              |       |
| 授業の工夫点         |   |              |       |
| 授業の評価方法        | レポート・出席状況・参加態度を総合的に評価   |              |       |
| 授業のサポート体制      | ない  |              |       |
| 学外の関係機関・団体との連携 | ない  |              |       |
| 今後の授業の継続       | 今後も継続   |              |       |

|                |   |              |       |
|----------------|---|--------------|-------|
| 授業科目名          | 体験学習Ⅱ   |              |       |
| 担当教員（学内又は学外）   | 学内教員  | 授業期間         | 通年    |
| 担当教員の専門分野      |   | 共通・専門等の別     | 共通    |
| 開設学部（学科）及び年次   | 生活文化科、文化コミュニケーション科<br>1・2年次   | 授業のレベル       | 中級・応用 |
| 平成20年度履修者数     | 計0名（男子学生0名）   | 授業区分         | 実習    |
| 単位数            | 1   | ボランティア体験の時間数 | 45時間  |
| 必修・選択の別        | 選択  |              |       |
| 授業目的           | 体験をとおして、多くの社会問題に気づき、よりよい社会、世界づくりのために「学び」の必要性と重要性に目覚める。良き社会人になるために求められている資質・態度などを実践的に理解し、身につける機会を得る。 |              |       |
| 授業内容           | 建学の精神に基づいて、学内外の種々の体験をとおして、神から与えられている能力に気づき、それを伸ばし、人々のしあわせのために生かしかされることを実践的に学ぶ。                      |              |       |
| 教科書            | なし  |              |       |
| 授業の工夫点         |   |              |       |
| 授業の評価方法        | レポート・出席状況・参加態度を総合的に評価   |              |       |
| 授業のサポート体制      | ない  |              |       |
| 学外の関係機関・団体との連携 | ない  |              |       |
| 今後の授業の継続       | 今後も継続   |              |       |

## ○ 山形短期大学

|                |  |              |       |
|----------------|--|--------------|-------|
| 授業科目名          | 社会活動の基本理念  |              |       |
| 担当教員（学内又は学外）   | 学内教員   | 授業期間         | 半期    |
| 担当教員の専門分野      | 地域社会学  | 共通・専門等の別     | 共通    |
| 開設学部（学科）及び年次   | 総合文化学科   | 授業のレベル       | 初級・入門 |
| 平成20年度履修者数     | 計7名（男子学生0名 女子学生7名）   | 授業区分         | 講義    |
| 単位数            | 2  | ボランティア体験の時間数 | 0時間   |
| 必修・選択の別        | 選択   |              |       |
| 授業目的           | 様々な社会活動を支える理念と必要性について理解し、卒業後も社会貢献活動に携われる人材の育成を目指す。   |              |       |
| 授業内容           | <p>1.講義ガイダンス:講義の全体像を説明し、各講義のポイントを予告する</p> <p>2.社会活動とは何か?:「社会活動」とは何かについて学び、その理念と意義を理解する</p> <p>3.社会活動の歴史を振り返る:社会活動が誕生した背景とその歴史を学ぶ</p> <p>4.何故、今、社会活動が必要なのか?:社会活動が現在、特に必要である理由を学ぶ</p> <p>5.様々な社会活動レポート(1) 様々な社会活動についての概観する:<br/>第4回までの講義をもとに、社会活動についての自らの考えをまとめる</p> <p>6.様々な社会活動の考え方(1)企業の社会貢献活動(1):企業の社会貢献活動について、事例をもとにその考え、根底にある理念を学ぶ</p> <p>7.様々な社会活動の考え方(2)企業の社会貢献活動(2):企業の社会貢献活動について、事例をもとにその考え、根底にある理念を学ぶ</p> <p>8.様々な社会活動の考え方(3)町内会・自治会等の活動(1):町内会・自治会の活動について、事例をもとにその考え、根底にある理念を学ぶ</p> <p>9.様々な社会活動の考え方(4)町内会・自治会等の活動(2):町内会・自治会の活動について、事例をもとにその考え、根底にある理念を学ぶ</p> <p>10.様々な社会活動の考え方(5)NPO・ボランティア団体の活動(1):NPO・ボランティア団体の活動について、事例をもとにその考え、根底にある理念を学ぶ</p> <p>11.様々な社会活動の考え方(6)NPO・ボランティア団体の活動(2):NPO・ボランティア団体の活動について、事例をもとにその考え、根底にある理念を学ぶ</p> <p>12.様々な社会活動の考え方(7)特殊法人の活動:特殊法人の活動について、事例をもとにその考え、根底にある理念を学ぶ</p> <p>13.様々な社会活動の考え方(8)学校法人の活動:学校法人の活動について、事例をもとにその考え、根底にある理念を学ぶ</p> <p>14.様々な社会活動の考え方(9)その他の活動:その他の多種多様な社会活動を紹介し、その考え方を学ぶ</p> <p>15.講義のまとめ:講義を振り返り、ポイントを整理することで理解を深める</p> <p>16.期末試験:期末試験</p> |              |       |
| 教科書            | なし   |              |       |
| 授業の工夫点         | 少人数クラスのため、対話型の授業を実施。   |              |       |
| 授業の評価方法        | 授業内レポート(毎回)、期末レポート   |              |       |
| 授業のサポート体制      | ない   |              |       |
| 学外の関係機関・団体との連携 | ない   |              |       |
| 今後の授業の継続       | 今後も継続  |              |       |

|                |   |              |       |
|----------------|---|--------------|-------|
| 授業科目名          | 地域社会とボランティア   |              |       |
| 担当教員（学内又は学外）   | 学内教員  | 授業期間         | 半期    |
| 担当教員の専門分野      | 地域社会学   | 共通・専門等の別     | 共通    |
| 開設学部（学科）及び年次   | 総合文化学科  | 授業のレベル       | 初級・入門 |
| 平成20年度履修者数     | 計8名（男子学生0名 女子学生8名）  | 授業区分         | 講義    |
| 単位数            | 2   | ボランティア体験の時間数 | 0時間   |
| 必修・選択の別        | 選択  |              |       |
| 授業目的           | 地域社会とボランティアの成り立ちと、現代社会における意義を理解し、また地域社会と自発的に関わるための基礎的な知識・素養を身に付ける。  |              |       |
| 授業内容           | <p>1講義ガイダンス：講義の全体像について紹介し、各講義のポイントについての予告を行う</p> <p>2ボランティアとは何か：ボランティアの原点と、その基本的な考え方を学ぶ</p> <p>3ボランティアの現代的な意味：ボランティアが最近になって注目を集めていることを紹介しながら、その理由と意義、課題について学ぶ</p> <p>4様々なボランティアのあり方：様々なボランティアを紹介しながら、その活動の形態を類型化し、各々の特徴について整理・理解する。</p> <p>5地域社会と自治、ボランティア：地域社会とは何かを学ぶとともに、そこにおける自治とボランティアの関係について学ぶ</p> <p>6地域社会におけるボランティア(1)高齢者・障害者を支援する：<br/>高齢者・障害者支援のボランティアの事例から、地域社会とボランティアの関係について考える。</p> <p>7地域社会におけるボランティア(2)教育・子育てを支援する：<br/>教育・子育て支援のボランティアの事例から、地域社会とボランティアの関係について考える。</p> <p>8地域社会におけるボランティア(3)まちを中から元気にする：<br/>まちづくり活動の事例から、地域社会とボランティアの関係について考える。</p> <p>9地域社会におけるボランティア(4)まちを外から元気にする：<br/>複数の地域が連携したまちづくり活動の事例から、地域社会とボランティアの関係について考える。</p> <p>10地域社会におけるボランティア(5)自然を大切に：<br/>自然保護活動の事例から、地域社会とボランティアの関係について考える。</p> <p>11地域社会におけるボランティア(6)健康づくりを考える：<br/>健康づくり、医療ボランティア活動から、地域社会とボランティアの関係について考える。</p> <p>12地域社会におけるボランティア(7)体・心・人権を守る：<br/>人権擁護、食生活改善などのボランティア活動から、地域社会とボランティアの関係について考える。</p> <p>13地域社会におけるボランティア(8)海外の地域と交流する：<br/>国際ボランティアの事例から、地域社会とボランティアの関係について考える。</p> <p>14地域社会におけるボランティア(9)万が一に備えて日常的に活動する：<br/>災害ボランティアの事例から、地域社会とボランティアの関係について考える。</p> <p>15講義のまとめ：講義を振り返り、地域社会とボランティアの関係についてまとめ、理解を深める。</p> <p>16期末試験：期末試験</p> |              |       |
| 教科書            | なし  |              |       |
| 授業の工夫点         | 少人数クラスのため、対話型の授業を実施。ワークショップを実施する等、講義と演習の中間的な手法で授業を行なった。   |              |       |
| 授業の評価方法        | 授業内小レポート、期末レポート   |              |       |
| 授業のサポート体制      | ない  |              |       |
| 学外の関係機関・団体との連携 | ない  |              |       |
| 今後の授業の継続       | 今後も継続   |              |       |

|                |  |              |       |
|----------------|--|--------------|-------|
| 授業科目名          | ボランティアマネジメント   |              |       |
| 担当教員（学内又は学外）   | 学外教員   | 授業期間         | 半期    |
| 担当教員の専門分野      | NPO論、ボランティア論   | 共通・専門等の別     | 共通    |
| 開設学部（学科）及び年次   | 総合文化学科   | 授業のレベル       | 中級・応用 |
| 平成20年度履修者数     | 計4名（男子学生1名 女子学生3名）   | 授業区分         | 講義、演習 |
| 単位数            | 1  | ボランティア体験の時間数 | 4時間   |
| 必修・選択の別        | 選択   |              |       |
| 授業目的           | ボランティアやNPOの基礎的知識と実践を学び、自らの関心や興味を発展させるとともに活動のマネジメントの方法を学ぶ。  |              |       |
| 授業内容           | <p>1基礎知識の学習①：ボランティアについて（講義の概要説明を含む）</p> <p>2基礎知識の学習②：NPOについて</p> <p>3情報の収集：ボランティアやNPO活動の実例（インターネット等の検索による情報の収集）</p> <p>4意見発表：自分の気づきや自覚等について</p> <p>5小レポート：自分の活動原点を確認</p> <p>6より深い学習①：社会貢献の理念と意義</p> <p>7実習先の選定：さまざまな社会貢献の実際を知り、関心が持てる分野を定める</p> <p>8実習①：活動に参加し、実際に学ぶ①</p> <p>9実習②：活動に参加し、実際に学ぶ②</p> <p>10実習のまとめと発表：ボランティア体験から学んだことについて</p> <p>11より深い学習②：社会的な課題の解決への取り組み</p> <p>12グループワーキング①：取り組む課題をマネジメントする</p> <p>13グループワーキング②：課題解決の方法をマネジメントする</p> <p>14小レポート：ボランティアマネジメントと自分のかかわりについて</p> <p>15まとめのレポート作成：市民活動が社会を支えていく意義について</p> |              |       |
| 教科書            | なし   |              |       |
| 授業の工夫点         | 実習後にグループワークを行ないながら、成果を確認（サービスマネジメントの導入）  |              |       |
| 授業の評価方法        | グループワークでの活動、実習先での活動、期末レポート   |              |       |
| 授業のサポート体制      | ある   |              |       |
| 学外の関係機関・団体との連携 | ある   |              |       |
| 今後の授業の継続       | 今後も継続  |              |       |

|                |   |              |       |
|----------------|---|--------------|-------|
| 授業科目名          | ボランティア実習  |              |       |
| 担当教員(学内又は学外)   | 学内教員  | 授業期間         | 半期    |
| 担当教員の専門分野      | 地域社会学   | 共通・専門等の別     | 共通    |
| 開設学部(学科)及び年次   | 総合文化学科  | 授業のレベル       | 中級・応用 |
| 平成20年度履修者数     | 計6名(男子学生3名 女子学生3名)  | 授業区分         | 演習    |
| 単位数            | 1   | ボランティア体験の時間数 | 12時間  |
| 必修・選択の別        | 選択  |              |       |
| 授業目的           | NPO・ボランティア活動に参加し、ボランティアの実態、意義、社会的役割を学び、ボランティアについてのより深い理解を得る。  |              |       |
| 授業内容           | <p>1ガイダンス:講義・実習の全体像を紹介し、履修に際しての注意事項を学ぶ。</p> <p>2基本編(1)ボランティアに参加する心得:ボランティアに参加するにあたっての基本原則を学ぶ。</p> <p>3基本編(2)ボランティア参加へのプロセスを学ぶ:ボランティア参加への流れ、手続き、事後フォロー等の手段について学ぶ。</p> <p>4実習準備編(1)県内のボランティアの概況を学ぶ:県内のボランティア団体・活動の状況を学び、実習候補を検討する。</p> <p>5実習準備編(2)参加ボランティアを選ぶ:自らが参加するボランティア団体/活動を検討する。</p> <p>6実習編(1)ボランティアに参加・体験する:ボランティアに参加する(1)</p> <p>7実習編(1)ボランティアに参加・体験する:ボランティアに参加する(1)</p> <p>8体験報告編(1)体験を報告し課題を再発見する:体験をもとに課題を考え、次回参加時のテーマを決める。</p> <p>9実習編(2)ボランティアに参加・体験する:ボランティアに参加する(2)</p> <p>10実習編(2)ボランティアに参加・体験する:ボランティアに参加する(2)</p> <p>11実習編(2)ボランティアに参加・体験する:ボランティアに参加する(2)</p> <p>12実習編(2)ボランティアに参加・体験する:ボランティアに参加する(2)</p> <p>13体験をもとに考える(1):体験をもとにしたレポートを発表し、相互にコメントする。</p> <p>14体験をもとに考える(2):体験をもとにしたレポートを発表し、相互にコメントする。</p> <p>15講義と実習を振り返る:講義と実習を振り返り、体験のポイントを整理するとともに理解を深める。</p> |              |       |
| 教科書            | なし  |              |       |
| 授業の工夫点         | 事前の目標の設定、実習先を主体的に選択させる等の実習前段階の工夫及びサービラーニングの導入   |              |       |
| 授業の評価方法        | 授業ワークショップでの活動、実習先での活動(実習受け入れ先団体が評価)   |              |       |
| 授業のサポート体制      | ある  |              |       |
| 学外の関係機関・団体との連携 | ある  |              |       |
| 今後の授業の継続       | 今後も継続   |              |       |

## ○ 日本赤十字秋田短期大学

|                |   |              |       |
|----------------|---|--------------|-------|
| 授業科目名          | ボランティア活動論   |              |       |
| 担当教員(学内又は学外)   | 学内教員  | 授業期間         | 半期    |
| 担当教員の専門分野      | 基礎分野  | 共通・専門等の別     | 共通    |
| 開設学部(学科)及び年次   | 看護学科1年 介護福祉学科1年   | 授業のレベル       | 初級・入門 |
| 平成20年度履修者数     | 計107名(男子学生12名 女子学生95名)  | 授業区分         | 講義    |
| 単位数            | 1   | ボランティア体験の時間数 | 0時間   |
| 必修・選択の別        | 選択  |              |       |
| 授業目的           | 問題解決を図る手法としてのボランティア活動という視点から、経営学の手法も取り入れながら、より良く活動し、より良く組織を運営するための初歩的な技術である、人間と組織についての理解を深める。社会生活で役立つ知識を学ぶ。   |              |       |
| 授業内容           | <p>1. 問題解決手法としてのボランティア活動の異議</p> <p>2. 自己を知り、他者を知り、組織を知る。</p> <p>3. 赤十字基本原則と奉仕の原則とは</p> <p>4. 対人援助とより良いコミュニケーションの知恵</p> <p>5. 気づき、考え、実行するボランティア</p> <p>6. 問題解決のための手法</p> <p>7. ボランティア活動の留意点</p> <p>8. 試験</p> |              |       |
| 教科書            | ボランティアの理論と実際・ボランティア論  |              |       |
| 授業の工夫点         |   |              |       |
| 授業の評価方法        | 試験・レポート・出席状況  |              |       |
| 授業のサポート体制      | ない  |              |       |
| 学外の関係機関・団体との連携 | ない  |              |       |
| 今後の授業の継続       | 今後も継続   |              |       |



## ○ 千葉敬愛短期大学

|                |   |              |                               |
|----------------|---|--------------|-------------------------------|
| 授業科目名          | ボランティア介護論   |              |                               |
| 担当教員(学内又は学外)   | 学内教員  | 授業期間         | 半期                            |
| 担当教員の専門分野      | 教育学、道德研究  | 共通・専門等の別     | その他(基礎科目に分類(小学校2種免許状取得者のみ必修)) |
| 開設学部(学科)及び年次   | 初等教育科(1年次)  | 授業のレベル       | 初級・入門                         |
| 平成20年度履修者数     | 計51名(男子学生9名 女子学生42名)  | 授業区分         | 演習                            |
| 単位数            | 2   | ボランティア体験の時間数 | 特別支援学校:2日 社会福祉施設:5日           |
| 必修・選択の別        | 必修  |              |                               |
| 授業目的           | 平成10年4月1日に施行された「小学校及び中学校教諭の普通免許状授与」にかかる教育職員免許法の特例等に関する法律」によって教員免許状取得に義務づけられた「介護等体験」の事前及び事後指導を行うことを通して、ボランティア介護の精髓を学ぶことを目的とする。   |              |                               |
| 授業内容           | 「ボランティア活動」は、社会福祉分野、保健・医療分野、子どもの育成分野、環境・文化・スポーツ・国際交流分野等での活動があり、社会福祉分野だけでも、<br>①点字訳 ②手話<br>③在宅介護支援 ④食事サービス<br>⑤外出の介護等 ⑥福祉施設でのボランティア活動など、多様な活動があることを理解する。<br>またこれらの活動を通して様々な人と触れ合う中で、自分と異なる能力や価値観を認める心を醸成することが介護等体験の目的であることを理解する。そして、この介護等退園で醸成された他社受容の心は、小学校現場での多様な子どもたちを理解し、「子どもたちと共に生きる」という教育観につながることを認識する。 |              |                               |
| 教科書            | 必要に応じて、資料を配布  |              |                               |
| 授業の工夫点         | 外部講師を招いての講演、また、特別支援学校の参観の機会を織り込んでいる。  |              |                               |
| 授業の評価方法        | 出席状況、実習状況、課題等提出物により総合評価とする。   |              |                               |
| 授業のサポート体制      | ない  |              |                               |
| 学外の関係機関・団体との連携 | 特別支援学校教員  |              |                               |
| 今後の授業の継続       | 今後も継続   |              |                               |

## ○ 小田原女子短期大学

|                |  |              |         |
|----------------|--|--------------|---------|
| 授業科目名          | ボランティア活動   |              |         |
| 担当教員(学内又は学外)   | 学内教員   | 授業期間         | その他     |
| 担当教員の専門分野      | 心理・福祉  | 共通・専門等の別     | 共通(2年間) |
| 開設学部(学科)及び年次   | 保育学科1・2年   | 授業のレベル       | 初級・入門   |
| 平成20年度履修者数     | 計270名(男子学生0名 女子学生270名)   | 授業区分         | 演習      |
| 単位数            | 1  | ボランティア体験の時間数 | 21時間    |
| 必修・選択の別        | 必修   |              |         |
| 授業目的           | 保育士になるための人権意識を養う。  |              |         |
| 授業内容           | 授業計画(シラバス)<br>1.事前学習「学内授業90分2回」1年生前期①ボランティア論②福祉施設・地域などのボランティア活動の事例研究③ボランティアを受け入れる側の受け入れ体制④ボランティアマナーについて⑤ボランティア活動先に対応したオリエンテーション 2. ボランティア活動7日(自己開拓ボランティアの場合は1日3時間以上行うこと) 3.事後学習「学内授業90分1回」2年生後期①ボランティア活動記録及び体験レポート作成②体験報告と振り返り③保育現場におけるボランティア・コーディネートの方法 |              |         |
| 教科書            |  |              |         |
| 授業の工夫点         | 活動日誌を導入。実際の活動でも観察に使用   |              |         |
| 授業の評価方法        | レポートや体験日誌をもとに評価する。   |              |         |
| 授業のサポート体制      | ない   |              |         |
| 学外の関係機関・団体との連携 | ある   |              |         |
| 今後の授業の継続       | 今後も継続  |              |         |

## ○ 鶴見大学短期大学部

|                |  |              |             |
|----------------|--|--------------|-------------|
| 授業科目名          | ボランティア論  |              |             |
| 担当教員（学内又は学外）   | 学外教員   | 授業期間         | 半期          |
| 担当教員の専門分野      | ボランティア論  | 共通・専門等の別     | その他（選択必修分野） |
| 開設学部（学科）及び年次   | 歯科衛生科2年次   | 授業のレベル       | 初級・入門       |
| 平成20年度履修者数     | 計112名（男子学生0名 女子学生112名）   | 授業区分         | 講義          |
| 単位数            | 2  | ボランティア体験の時間数 | なし          |
| 必修・選択の別        | 選択必修   |              |             |
| 授業目的           | 地域社会の一人として、地球市民の一員として出来ることは何か。現代社会において、市民によるボランティア活動はなぜ期待されるようになってきたのか。NGO、NPOが第三セクターとして「行政」「企業」セクターと異なる価値観を行動原理としているのはなぜか。今世界にある貧困、環境破壊、武力紛争など平和を脅かす状況はなぜ起きてくるのか、ともに考えたい。 |              |             |
| 授業内容           | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ボランティア活動の基本的な知識と基礎力を身につける。</li> <li>・ワークショップやグループ討議を取り入れながら、問題点を探る。</li> <li>・来るべき未来社会をイメージし、自分自身の社会における役割に気づいていく。</li> </ul>      |              |             |
| 教科書            | なし   |              |             |
| 授業の工夫点         | 講義とグループによる討議ですすめていく。   |              |             |
| 授業の評価方法        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・試験はレポート形式+出席率 50%</li> <li>・ボランティア活動やNGO、NPO訪問体験レポート 25%</li> <li>・小テーマの感想文、独創性、社会への提案、批判的な検証力など 25%</li> </ul>                    |              |             |
| 授業のサポート体制      | ない   |              |             |
| 学外の関係機関・団体との連携 | ない   |              |             |
| 今後の授業の継続       | 今後も継続  |              |             |

## ○ 湘南短期大学

|                |  |              |       |
|----------------|--|--------------|-------|
| 授業科目名          | ボランティア論  |              |       |
| 担当教員（学内又は学外）   | 学外教員   | 授業期間         | 半期    |
| 担当教員の専門分野      |  | 共通・専門等の別     | 共通    |
| 開設学部（学科）及び年次   | ヒューマンコミュニケーション学科1・2年次  | 授業のレベル       | 中級・応用 |
| 平成20年度履修者数     | 計26名（男子学生2名 女子学生24名）   | 授業区分         | 講義、実習 |
| 単位数            | 2  | ボランティア体験の時間数 | なし    |
| 必修・選択の別        | 選択   |              |       |
| 授業目的           | 平成の時代になり、ボランティア活動は特に市民社会に身近になりました。このボランティアの意味や考え方をともに考えていく。  |              |       |
| 授業内容           | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ボランティアとは何か</li> <li>2. ボランティアとは何か</li> <li>3. ボランティアの歴史</li> <li>4. ボランティアの歴史</li> <li>5. ボランティアの歴史</li> <li>6. ボランティアセンターの見学</li> <li>7. 車椅子体験授業</li> <li>8. ボランティアの歴史</li> <li>9. ボランティアの歴史</li> <li>10. ボランティアの歴史</li> <li>11. ブラインドウォーク（盲人体験）</li> <li>12. ボランティアの歴史</li> <li>13. 災害ボランティア・環境ボランティア</li> <li>14. 企業のボランティア活動</li> <li>15. NPOとは</li> </ol> |              |       |
| 教科書            | 特になし   |              |       |
| 授業の工夫点         |  |              |       |
| 授業の評価方法        | 出席率・授業に取り組む態度・小レポートの内容、定期試験結果を総合的に勘案する。  |              |       |
| 授業のサポート体制      | ない   |              |       |
| 学外の関係機関・団体との連携 | ない   |              |       |
| 今後の授業の継続       | 未定   |              |       |

|                |  |              |       |
|----------------|--|--------------|-------|
| 授業科目名          | 社会福祉・ボランティア論   |              |       |
| 担当教員(学内又は学外)   | 学内教員   | 授業期間         | 半期    |
| 担当教員の専門分野      |  | 共通・専門等の別     | 共通    |
| 開設学部(学科)及び年次   | 歯科衛生学科2年次  | 授業のレベル       | 初級・入門 |
| 平成20年度履修者数     | 計18名(男子学生0名 女子学生18名)   | 授業区分         | 講義、実習 |
| 単位数            | 2  | ボランティア体験の時間数 | なし    |
| 必修・選択の別        | 選択必修   |              |       |
| 授業目的           | 地域社会で歯科衛生士が医療サービスを提供するには、保健医療福祉の統合された対応が求められます。教養として学んだ福祉の思想や知識をもとに、社会福祉の視点で医療が提供できるでしょうか。究極の社会福祉は良質な保健医療の提供であるとも言われます。講義を通じて、人々の暮らしと福祉のしくみについて理解することを目的とします。  |              |       |
| 授業内容           | 1.社会福祉の概念・人権<br>2.欧米の社会福祉<br>3.日本における社会福祉の発展<br>4.わが国の社会保障制度、社会保険と公的扶助<br>5.医療と社会福祉<br>6.貧困と社会福祉<br>7.身体障害者と福祉<br>8.母子と福祉<br>9.介護と高齢者福祉<br>10.精神障害者と福祉<br>11.犯罪者と社会福祉<br>12.児童と福祉・乳幼児の虐待<br>13.高齢者福祉の将来<br>14.福祉関係用語の理解、使ってはいけない用語<br>15.まとめ |              |       |
| 教科書            | 「これからの高齢者福祉論」水野喜代志著  |              |       |
| 授業の工夫点         |  |              |       |
| 授業の評価方法        | 提出されたレポートと出席日数、さらに社会参加等を評価とする。   |              |       |
| 授業のサポート体制      | ない   |              |       |
| 学外の関係機関・団体との連携 | ない   |              |       |
| 今後の授業の継続       | 未定   |              |       |

## ○ 山梨学院短期大学

|                |   |              |       |
|----------------|---|--------------|-------|
| 授業科目名          | 社会体験講座 I  |              |       |
| 担当教員(学内又は学外)   | 学内教員  | 授業期間         | 通年    |
| 担当教員の専門分野      | 社会福祉  | 共通・専門等の別     | 共通    |
| 開設学部(学科)及び年次   | 食物栄養科・保育科1・2年次  | 授業のレベル       | 初級・入門 |
| 平成20年度履修者数     | 計616名(男子学生37名 女子学生579名)   | 授業区分         | 演習    |
| 単位数            | 1   | ボランティア体験の時間数 | 8時間   |
| 必修・選択の別        | 必修  |              |       |
| 授業目的           | ボランティア活動を通して社会と関わり、自己形成に必要な良識的価値観を培う。また、様々な支援活動を通して、社会の一員としての自覚を養う。   |              |       |
| 授業内容           | 1. ボランティアの基本<br>2. ボランティア活動の内容<br>3. 活動時間と期間<br>4. ボランティア活動実施の手順<br>5. ボランティア活動報告書の提出<br>6. ボランティア活動レポートの提出 |              |       |
| 教科書            |   |              |       |
| 授業の工夫点         | 学生10～20名を受け持つ演習担当が、ボランティアコーディネーターとなって指導を行う。   |              |       |
| 授業の評価方法        | 報告書・レポート内容を中心に行う。   |              |       |
| 授業のサポート体制      | 演習担当が直接のサポートを行う。  |              |       |
| 学外の関係機関・団体との連携 | 山梨県ボランティア協会、山梨市社会福祉協議会等   |              |       |
| 今後の授業の継続       | 今後も継続   |              |       |

## ○ 高崎健康福祉大学短期大学部

|                |  |              |       |
|----------------|--|--------------|-------|
| 授業科目名          | ボランティア概論   |              |       |
| 担当教員（学内又は学外）   | 学内教員   | 授業期間         | 半期    |
| 担当教員の専門分野      | 保育実習・図画工作  | 共通・専門等の別     | 専門    |
| 開設学部（学科）及び年次   | 短期大学部（児童福祉学科1年次）   | 授業のレベル       | 初級・入門 |
| 平成20年度履修者数     | 計76名（男子学生3名 女子学生73名）   | 授業区分         | 講義    |
| 単位数            | 1  | ボランティア体験の時間数 | なし    |
| 必修・選択の別        | 選択   |              |       |
| 授業目的           | ボランティアの歴史と本質を理解した上でボランティアの実践につなげる。   |              |       |
| 授業内容           | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ボランティアの歴史（ボランティアとは何か）</li> <li>・ボランティアの種類</li> <li>・ボランティアの実践（身近な所から）</li> <li>・ボランティア活動の報告・反省・討論会等</li> </ul> |              |       |
| 教科書            | 使用せず   |              |       |
| 授業の工夫点         | ボランティア実践をしている外部講師を呼び講義をして頂く（学内講師を含む）。  |              |       |
| 授業の評価方法        | ボランティア実践・レポート・出席   |              |       |
| 授業のサポート体制      | 学内の公開講座を活用する。  |              |       |
| 学外の関係機関・団体との連携 | ない   |              |       |
| 今後の授業の継続       | 今後も継続  |              |       |

## ○ カリタス女子短期大学

|                |   |              |          |
|----------------|---|--------------|----------|
| 授業科目名          | 国際ボランティア論、海外ボランティア演習（＋実習）、キリスト教人間学Ⅰ・Ⅱ                               |              |          |
| 担当教員（学内又は学外）   | 学内教員、学外教員   | 授業期間         | 半期       |
| 担当教員の専門分野      | イスラム文化、コミュニケーション聖書他   | 共通・専門等の別     | 共通、専門    |
| 開設学部（学科）及び年次   | 全学科、一部はコミュニケーション文化専攻1・2年次対象   | 授業のレベル       | 初級・入門    |
| 平成20年度履修者数     | 計290名（男子学生0名 女子学生290名）  | 授業区分         | 講義、演習、実習 |
| 単位数            | 各2  | ボランティア体験の時間数 |          |
| 必修・選択の別        | 必修選択  |              |          |
| 授業目的           | ボランティア活動との出会い、人格的成長、弱者との関わりを学ぶ。                                     |              |          |
| 授業内容           | 国際ボランティア論の例：国際ボランティア活動と人間的関わり、イラク少年事例、活動に求められる資質、実践者体験談、今後の日本の使命など。 |              |          |
| 教科書            | 各種資料  |              |          |
| 授業の工夫点         | キリスト教人間学Ⅰでは学外合宿授業   |              |          |
| 授業の評価方法        | クラス参加度10%、小レポート20%、レポート70%（国際ボランティア論）                               |              |          |
| 授業のサポート体制      | ない  |              |          |
| 学外の関係機関・団体との連携 | ない  |              |          |
| 今後の授業の継続       | 今後も継続   |              |          |

## ○ 茨城女子短期大学

|                |  |              |       |
|----------------|--|--------------|-------|
| 授業科目名          | ボランティア活動論  |              |       |
| 担当教員(学内又は学外)   | 学内教員   | 授業期間         | 半期    |
| 担当教員の専門分野      | 社会福祉   | 共通・専門等の別     | 共通    |
| 開設学部(学科)及び年次   | 国文科、保育科、1年次  | 授業のレベル       | 初級・入門 |
| 平成20年度履修者数     | 計32名(男子学生0名 女子学生32名)   | 授業区分         | 講義    |
| 単位数            | 2  | ボランティア体験の時間数 | 6時間   |
| 必修・選択の別        | 選択   |              |       |
| 授業目的           | ボランティア理論・技術の習得、自主活動の支援   |              |       |
| 授業内容           | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 開講に当たって</li> <li>2. 現代社会と地域社会</li> <li>3. 地域福祉とボランティア</li> <li>4. ボランティアのあゆみと現状</li> <li>5. 阪神・淡路大震災とボランティア</li> <li>6. 高齢者福祉とボランティア</li> <li>7. 児童福祉とボランティア</li> <li>8. ゲームを覚えよう(実技)</li> <li>9. 障害者支援とボランティア</li> <li>10. 車いすを押してみよう(実技)</li> <li>11. 環境問題とボランティア</li> <li>12. 国際問題とボランティア</li> <li>13. 各種ボランティア活動</li> <li>14. ボランティアの心構えと活動に当たっての留意点</li> <li>15. 授業のまとめ・期末試験</li> <li>16. ボランティア体験と体験記提出</li> </ol> |              |       |
| 教科書            | 基礎から学ぶボランティアの理論と実際(中央法規出版)   |              |       |
| 授業の工夫点         |  |              |       |
| 授業の評価方法        | 試験およびボランティア活動体験レポート  |              |       |
| 授業のサポート体制      |  |              |       |
| 学外の関係機関・団体との連携 | 児童センター子どもの城へのボランティア派遣等   |              |       |
| 今後の授業の継続       | 今後も継続  |              |       |

## ○ 上田女子短期大学

|                |  |              |       |
|----------------|--|--------------|-------|
| 授業科目名          | ボランティア論  |              |       |
| 担当教員(学内又は学外)   | 学外教員   | 授業期間         | 半期    |
| 担当教員の専門分野      | 社会福祉   | 共通・専門等の別     | 専門    |
| 開設学部(学科)及び年次   | 総合文化学科2年   | 授業のレベル       | 初級・入門 |
| 平成20年度履修者数     | 計11名(男子学生0名 女子学生11名)   | 授業区分         | 講義    |
| 単位数            | 2  | ボランティア体験の時間数 | 0時間   |
| 必修・選択の別        | 選択   |              |       |
| 授業目的           | ボランティア活動の社会的役割を实践体験や見学実習、事例研究から学び、自らのボランティア活動参加の指針とする。   |              |       |
| 授業内容           | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ボランティア活動の歴史と活動領域</li> <li>2. 地域活動とNPO・ボランティア活動</li> <li>3. 課題発見ワークショップ(新聞の記事より)</li> <li>4. 生涯活動とボランティア活動</li> <li>5. 文化ボランティアの現状と課題</li> <li>6. 観光とボランティア活動</li> <li>7. 障害者の課題とボランティア活動</li> <li>8. 高齢者の課題とボランティア活動</li> <li>9. 子どもの課題とボランティア活動</li> <li>10. 子育て支援とボランティア活動</li> <li>11. 心のケアとボランティア活動</li> <li>12. 地域助け合いネットワーク</li> <li>13. 環境問題とボランティア活動</li> <li>14. 国際支援とボランティア活動</li> <li>15. まちづくりとボランティア活動</li> </ol> |              |       |
| 教科書            | 実践事例の資料配布  |              |       |
| 授業の工夫点         |  |              |       |
| 授業の評価方法        | 授業への出席状況50%、授業態度30%、レポート・期末試験20%等を総合して評価する。  |              |       |
| 授業のサポート体制      | ない   |              |       |
| 学外の関係機関・団体との連携 | ない   |              |       |
| 今後の授業の継続       | 今後も継続  |              |       |

## ○ 松本短期大学

|                |   |              |       |
|----------------|---|--------------|-------|
| 授業科目名          | 地域ボランティア演習  |              |       |
| 担当教員(学内又は学外)   | 学内教員  | 授業期間         | 半期    |
| 担当教員の専門分野      | 心理学   | 共通・専門等の別     | 専門    |
| 開設学部(学科)及び年次   | 幼児保育学科2年次   | 授業のレベル       | 初級・入門 |
| 平成20年度履修者数     | 計12名(男子学生2名 女子学生10名)  | 授業区分         | 演習    |
| 単位数            | 2   | ボランティア体験の時間数 | 25時間  |
| 必修・選択の別        | 選択  |              |       |
| 授業目的           | 地域、保育、短大という身近な所で、どのようなボランティアができるのかを考える。   |              |       |
| 授業内容           | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ボランティアとは何か、考える</li> <li>・ボランティアの定義を学習する</li> <li>・地域におけるボランティアを考える</li> <li>・保育におけるボランティアを考える</li> <li>・短大でできるボランティアを考える</li> </ul> |              |       |
| 教科書            | なし  |              |       |
| 授業の工夫点         | 保育に関するボランティアを中心に考えている。  |              |       |
| 授業の評価方法        | 出欠状況、授業態度、授業内外のボランティアについてのレポートにより評価   |              |       |
| 授業のサポート体制      | ない  |              |       |
| 学外の関係機関・団体との連携 | ない  |              |       |
| 今後の授業の継続       | 今後も継続   |              |       |

## ○ 上智短期大学

|                |  |              |       |
|----------------|--|--------------|-------|
| 授業科目名          | 児童英語教育演習   |              |       |
| 担当教員(学内又は学外)   | 学内教員   | 授業期間         | 半期    |
| 担当教員の専門分野      | 言語学、バイリンガル教育児童英語教育   | 共通・専門等の別     | 専門    |
| 開設学部(学科)及び年次   | 英語科2年次   | 授業のレベル       | 中級・応用 |
| 平成20年度履修者数     | 計46名(女子学生46名)  | 授業区分         | 演習    |
| 単位数            | 4  | ボランティア体験の時間数 | 13時間  |
| 必修・選択の別        | 選択   |              |       |
| 授業目的           | 児童英語教師にとって必要な理論的、実践的知識について学び、地域保育園、小学校等でボランティア授業を行う。   |              |       |
| 授業内容           | 教育学、児童心理学、言語習得論、英語教育法などの多岐に渡る分野の知識を得て、同時に英語教育ボランティアとしての実践力も高めてゆく。ボランティア教員としての技術向上のため、レズンプラン作成、教授法、さらに地域貢献の重要性について学ぶ。 |              |       |
| 教科書            | 「アルク児童英語教師養成コース」 文部科学省「小学校英語活動実践の手引」   |              |       |
| 授業の工夫点         | 授業で学んだ英語教育の知識を地域の学校で実践するが、実践によって学んだ内容を授業へフィードバックし、ボランティア活動の質の向上を目指す。   |              |       |
| 授業の評価方法        | レズンプラン、デモレッスンと指導報告書 文法テスト  |              |       |
| 授業のサポート体制      | ボランティア担当部署による教育及び事務的サポート   |              |       |
| 学外の関係機関・団体との連携 | 神奈川県秦野市教育委員会、保育園、小学校等  |              |       |
| 今後の授業の継続       | 今後も継続  |              |       |

|                |  |              |       |
|----------------|--|--------------|-------|
| 授業科目名          | 日本語教授法   |              |       |
| 担当教員(学内又は学外)   | 学内教員   | 授業期間         | 半期    |
| 担当教員の専門分野      | 日本語教育  | 共通・専門等の別     | 専門    |
| 開設学部(学科)及び年次   | 英語科1・2年次   | 授業のレベル       | 中級・応用 |
| 平成20年度履修者数     | 計44名(女子学生44名)  | 授業区分         | 演習    |
| 単位数            | 4  | ボランティア体験の時間数 | 13時間  |
| 必修・選択の別        | 選択   |              |       |
| 授業目的           | 外国語として日本語を教える基本的な知識と技術を身につける。  |              |       |
| 授業内容           | 日本語を教える方法について、教授法、教材、レズンプランの立て方を具体的に学び、授業の中で全員が模擬授業を行うほか、日本語学習者(米国大学生)とのメール交換や、地域での日本語支援ボランティアに参加する。また、第二言語習得・多文化共生等、地域の日本語教育に深く関わる分野についても基礎を学ぶ。 |              |       |
| 教科書            | 小林ミナ「よくわかる教授法」アルク  |              |       |
| 授業の工夫点         | 学生は、地域の外国籍市民に対する日本語支援活動(家庭派遣、学校派遣)に、授業で学んだことを実践に活かすことを目標とする。   |              |       |
| 授業の評価方法        | 出席、模擬授業、レポートで総合的に評価する。   |              |       |
| 授業のサポート体制      | ボランティア担当部署による教育及び事務的サポート   |              |       |
| 学外の関係機関・団体との連携 | 神奈川県秦野市役所、教育委員会、小・中学校、公民館  |              |       |
| 今後の授業の継続       | 今後も継続  |              |       |

## ○ 秋草学園短期大学

| 授業科目名          |   | 地域ボランティア活動Ⅰ  |       |
|----------------|---|--------------|-------|
| 担当教員(学内又は学外)   | 学内教員  | 授業期間         | 通年    |
| 担当教員の専門分野      | 福祉  | 共通・専門等の別     | 専門    |
| 開設学部(学科)及び年次   | 地域保育学科1・2年次   | 授業のレベル       | 初級・入門 |
| 平成20年度履修者数     | 計99名(男子学生0名 女子学生99名)  | 授業区分         | 実習    |
| 単位数            | 2   | ボランティア体験の時間数 | 90時間  |
| 必修・選択の別        | 必修  |              |       |
| 授業目的           | <p>地域ボランティア活動Ⅰは、1年次を中心に、①. 学校周辺地域の、児童館・障害者関係施設・特別支援学校・行政等が主催する行事の中で、「学校が指定する行事」にボランティアとして活動参加、②. 居住地域で、福祉的な活動に自ら申し込み、活動参加、の2点の活動からなる。</p> <p>多様化する現代社会において、将来保育所・幼稚園・福祉施設等を目指す学生にとって、ボランティア活動を通じて様々な人々との出会い、人と人のつながり、多様な人との関係づけ、さらに行事への準備と実施、片付け等、多様な場での活動経験は、責任感、積極性、協調性といった社会性や人間力を育むいい機会であり、将来就職の範囲の広がり通じる活動でもある。</p> <p>実施期間は年間の、土・日・祝日と長期休暇中で、指定回数(概ね7～8回)の活動への参加と自ら開拓した活動参加(25時間以上)と、活動レポートの提出を行う。</p>  |              |       |
| 授業内容           | <p>4月に、個人毎に学校が指定する「ボランティア活動参加一覧」を配布する。実施期間は主として1年次の、土・日・祝日と長期休暇中で、一人の参加回数は、施設等からの依頼数により異なるが、概ね7～8回を予定し、個人毎に施設種別、参加日が年間で均一なるようにボランティア先を配置する。</p> <p>活動内容は、直接的に本人と関わる活動(お祭りと一緒に買い物をする、作品の制作、一緒に調理をする等)と、間接的(環境整備、バザーの販売担当)に関わる部分の参加で、現地までの交通費・食事は、一部補助のある行事もあるが、基本的には自己負担とする。</p> <p>ボランティアの基本は、「自ら活動への参加」という部分であろう。そこで自らの居住地域の社会資源の理解や、住民としての意識高揚のために各自自治体等が募集する活動に、自主的な参加を行う(活動内容の範囲については別途指示)。この部分は25時間以上の活動参加を基本に、レポートと、参加確認書(別途配布)の提出で、参加の確認を行うものとする。</p> <p>特別な理由が無い限り、欠席は認めない。</p> <p>学校が指定する行事参加は、学生個人への事故等の保証と、学生の行為による対物破損の保険に学校の方で一括加入するのでこれに対応するが、自らの活動については、この保険の対象外であるので、社会福祉協議会を窓口とする「ボランティア保険(300円程)」に自らが加入するものとする。</p> |              |       |
| 教科書            |   |              |       |
| 授業の工夫点         |   |              |       |
| 授業の評価方法        | 実習(90%)、レポート(10%)   |              |       |
| 授業のサポート体制      | ある  |              |       |
| 学外の関係機関・団体との連携 | ある  |              |       |
| 今後の授業の継続       | 今後も継続   |              |       |

| 授業科目名          |   | 地域ボランティア活動Ⅱ  |       |
|----------------|---|--------------|-------|
| 担当教員(学内又は学外)   | 学内教員  | 授業期間         | 通年    |
| 担当教員の専門分野      | 保育  | 共通・専門等の別     | 専門    |
| 開設学部(学科)及び年次   | 地域保育学科1・2年次   | 授業のレベル       | 中級・応用 |
| 平成20年度履修者数     | 計90名(男子学生0名 女子学生90名)  | 授業区分         | 実習    |
| 単位数            | 2   | ボランティア体験の時間数 | 90時間  |
| 必修・選択の別        | 必修  |              |       |
| 授業目的           | <p>地域ボランティア活動Ⅱは、「地域ボランティア活動Ⅰ」の実践を土台に、2年次に学校が指定する学校周辺地域の、保育所・児童館・学童クラブ・障害児・者関係施設・養護学校等にて行う。週1回、概ね8:30～17:00の時間帯で、施設日課・活動に参加し、各福祉現場の「仕事の実践」に参加する。</p> <p>学校での「学びを実際の場で実践する活動」を通して、対象児・者と直接的に触れ、自らの技術・技能を高め、実習の前段階としての意識・意欲付けと、さらに仕事の実践の理解を通して、将来の進路を考える土台ともする。</p> <p>毎回ボランティア活動記録(日誌)を作成することにより、より学びを深めて保育者の職務にたいしての理解をも深める。</p>   |              |       |
| 授業内容           | <p>I. オリエンテーション</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>* ボランティアの心構え、事前指導</li> <li>* 必要な書類の配布および回収</li> <li>* 各施設等の種別毎の活動概要説明</li> </ul> <p>II. ボランティア活動① 5回(5週)</p> <p>III. 活動記録のまとめ・ふりかえり</p> <p>IV. ボランティア活動② 5回(5週)</p> <p>V. 活動記録のまとめ・ふりかえり</p> <p>VI. ボランティア活動③ 5回(5週)</p> <p>VII. 活動記録のまとめ・ふりかえり</p> <p>VIII. 事後指導</p> <p>*事前・事後の指導等を除き、年間の授業期間である30週間の内、1施設に5回(5週間)、計15回、特定曜日に行い、活動時間は食事時間を除き8時間を基本とする。</p> <p>*指定されたボランティア活動日以外は授業を行う。</p> <p>*各施設等の種別毎に「1クール5週間の参加(5回参加)」を基本とする。</p> <p>*1クール終了時に、学校にて事後指導を受け、日誌およびレポートをまとめて提出する。</p> <p>*詳細は授業内で説明する。</p> |              |       |
| 教科書            |   |              |       |
| 授業の工夫点         |   |              |       |
| 授業の評価方法        | 参加回数・出席(50%)、活動レポート・課題(30%)、参加・授業態度(20%)<br>*ボランティア先からの服装、言葉使い、態度等の参加中の状態についても勘案する。   |              |       |
| 授業のサポート体制      | ある  |              |       |
| 学外の関係機関・団体との連携 | ある  |              |       |
| 今後の授業の継続       | 今後も継続   |              |       |

## ○ 国際学院埼玉短期大学

|                |   |              |       |
|----------------|---|--------------|-------|
| 授業科目名          | ボランティア論   |              |       |
| 担当教員(学内又は学外)   | 学内教員  | 授業期間         | 半期    |
| 担当教員の専門分野      | 児童福祉  | 共通・専門等の別     | 共通    |
| 開設学部(学科)及び年次   | 幼児保育学科1年次、健康栄養学科1年次   | 授業のレベル       | 初級・入門 |
| 平成20年度履修者数     | 計198名(男子学生8名 女子学生190名)  | 授業区分         | 講義    |
| 単位数            | 1   | ボランティア体験の時間数 | なし    |
| 必修・選択の別        | 選択  |              |       |
| 授業目的           | 国内や地球規模の大規模な災害が続く中で、ボランティア活動は今や一部の人々の活動ではなく、市民に身近な活動になった。さまざまな面からボランティア活動を学ぶことで視野を広げ、支援者となるための知識の獲得をめざす。  |              |       |
| 授業内容           | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ボランティアのすすめ</li> <li>2. 福祉とボランティア</li> <li>3. 災害とボランティア</li> <li>4. 企業とボランティア</li> <li>5. 国際社会とボランティア1</li> <li>6. 国際社会とボランティア2</li> <li>7. NPOとNGO</li> <li>8. ボランティアの今後</li> </ol> |              |       |
| 教科書            | 「いちばんはじめのボランティア」  |              |       |
| 授業の工夫点         | 講義だけでなく資料も活用  |              |       |
| 授業の評価方法        | 出席、筆記試験を総合評価  |              |       |
| 授業のサポート体制      | ない  |              |       |
| 学外の関係機関・団体との連携 | ない  |              |       |
| 今後の授業の継続       | 今後も継続   |              |       |

## ○ 埼玉女子短期大学

|                |  |              |       |
|----------------|--|--------------|-------|
| 授業科目名          | 福祉とボランティア  |              |       |
| 担当教員(学内又は学外)   | 学外教員   | 授業期間         | 半期    |
| 担当教員の専門分野      | ソーシャルワーク論  | 共通・専門等の別     | 共通    |
| 開設学部(学科)及び年次   | 商学科1・2年次、国際コミュニケーション学科1・2年次  | 授業のレベル       | 初級・入門 |
| 平成20年度履修者数     | 計73名(男子学生0名 女子学生73名)   | 授業区分         | 講義    |
| 単位数            | 2  | ボランティア体験の時間数 | なし    |
| 必修・選択の別        | 選択   |              |       |
| 授業目的           | 様々なボランティア実践から特に福祉分野に焦点化し、障害者・高齢者の施設におけるグループ活動、野外教育プログラム、福祉とコミュニティの課題等、グループワーク・コミュニティワーク(社会福祉の専門的援助方法)及び、ケースマネジメントの理論を基盤に、実際例を通して活動を分析する。積極的に社会貢献できる人間性と行動力を養う目的で授業展開をしていく。   |              |       |
| 授業内容           | <ol style="list-style-type: none"> <li>1 現代社会とボランティア 多様化するニーズとNPO(新しいボランティアの流れ)</li> <li>2 福祉の思想 援助原理の史的変遷(助け合いとボランティアの始まり)</li> <li>3 コミュニティ福祉の概念 地域支援と公私の役割(どこまでがボランティアの仕事なのか)</li> <li>4 社会福祉援助の方法 ケースマネジメントの概念(皆で支え合うネットワークづくり)</li> <li>5 福祉教育の研究 サービスラーニングの展開(今、求められるボランティア教育)</li> <li>6 グループ活動の理論(1) グループワークの概念(問題解決に向けたグループダイナミックスの活用)</li> <li>7 グループ活動の理論(2) プログラム活動の展開方法(どんな内容で実践すればよいのか)</li> <li>8 グループ活動の実際(1) 特別養護老人ホームのボランティア(ニーズに合わせた活動の選択)</li> <li>9 グループ活動の実際(2) 障害者施設のボランティア(レクリエーションの有効活用)</li> <li>10 グループ活動の実際(3) 子供達の野外活動(障害をもつ子供達との交流)</li> <li>11 コミュニティ活動の理論(1) コミュニティワークの概念(住民の団結と協力関係を考える)</li> <li>12 コミュニティ活動の理論(2) 活動のプロセスと原則(ニーズの発見と援助計画の策定)</li> <li>13 コミュニティ活動の実際(1) 地域住民の組織化(利害対立のコーディネートを図るには)</li> <li>14 コミュニティ活動の実際(2) 福祉対象者の権利擁護(福祉コミュニティの創造とは)</li> </ol> |              |       |
| 教科書            | なし   |              |       |
| 授業の工夫点         | 学生の自主性と相互理解を高め合う目的で事例に基づくディスカッションを行う。  |              |       |
| 授業の評価方法        | 出席、討論、小レポート、定期試験レポート   |              |       |
| 授業のサポート体制      | ない   |              |       |
| 学外の関係機関・団体との連携 | ない   |              |       |
| 今後の授業の継続       | 今後も継続  |              |       |



## ○ 佐野短期大学

|                |  |              |       |
|----------------|--|--------------|-------|
| 授業科目名          | ボランティア概論   |              |       |
| 担当教員(学内又は学外)   | 学内教員   | 授業期間         | 半期    |
| 担当教員の専門分野      |  | 共通・専門等の別     | 共通    |
| 開設学部(学科)及び年次   | 英米語学科、経営情報科、社会福祉学科<br>1年次  | 授業のレベル       | 初級・入門 |
| 平成20年度履修者数     | 計54名(男子学生13名 女子学生41名)  | 授業区分         | 講義    |
| 単位数            | 2  | ボランティア体験の時間数 | なし    |
| 必修・選択の別        | 選択   |              |       |
| 授業目的           | ボランティア活動の大切さを知り、自らボランティア実践できるその様な市民を育成する。  |              |       |
| 授業内容           | 1.ガイダンス<br>2.ガイダンス<br>3.ボランティアの今日的意味<br>4.ボランティア活動の分類<br>5.ボランティア活動の現状<br>6.NGOとNPO1、概念整理 世界のNGO<br>7.NGOとNPO2、日本のNGO、NPO<br>8.NPO法1<br>9.NPO法2<br>10.ボランティア・コーディネーターとボランティア・アドバイザー<br>11.ボランティア活動のマナー<br>12.企業のフィランソフィー(慈善事業)<br>13.ボランティア学習の楽しさ<br>14.これからの福祉社会<br>15.定期試験 |              |       |
| 教科書            | なし   |              |       |
| 授業の工夫点         | 講義形式で行うと共に、あるテーマについてのディスカッションを行い、自ら考え実践できるようにする。   |              |       |
| 授業の評価方法        | 定期試験70%、出席30%  |              |       |
| 授業のサポート体制      | ない   |              |       |
| 学外の関係機関・団体との連携 | ない   |              |       |
| 今後の授業の継続       | 未定   |              |       |

|                |   |              |       |
|----------------|---|--------------|-------|
| 授業科目名          | ボランティア活動  |              |       |
| 担当教員(学内又は学外)   | 学内教員  | 授業期間         | 半期    |
| 担当教員の専門分野      |   | 共通・専門等の別     | 専門    |
| 開設学部(学科)及び年次   | 社会福祉学科 社会福祉専攻1年次  | 授業のレベル       | 中級・応用 |
| 平成20年度履修者数     | 計11名(男子学生3名 女子学生8名)   | 授業区分         | 演習    |
| 単位数            | 1   | ボランティア体験の時間数 | なし    |
| 必修・選択の別        | 選択  |              |       |
| 授業目的           | <ul style="list-style-type: none"> <li>○ボランティア活動のいろいろな分野を知る。</li> <li>○自分のアタマで考え、自分に合った活動分野を選ぶ。</li> <li>○ボランティア活動の計画を立てることを学ぶ。</li> <li>○計画に沿って活動を実行し、実際の活動と計画との違いを理解する。</li> <li>○活動で得た感覚体験をまとめて発表する技術を学ぶ。</li> </ul>   |              |       |
| 授業内容           | 1.ガイダンス: シラバスに沿って授業のねらいと進め方、成績評価、ボランティア活動の意義、グループビング<br>2.活動前の講義(ボランティアの理念とその実践の心得)ボランティア活動の種類、ボランティアの見方、ボランティアの考え方、ボランティアの創造<br>3.活動前の講義(ボランティアの実践計画書の作成方法)ボランティアの設計と評価、ボランティアの個別化と集団化、ボランティアの対象と相互作用性<br>4.ボランティア活動(屋内清掃ボランティア)学内の各所をグループで計画的に選び清掃活動を行う。<br>5.ボランティア活動(業務支援ボランティア)学内の各部署を個人または仲間で計画的に選び支援活動を行う。<br>6.ボランティア活動(収集ボランティア)ジョイセフその他の機関への協力として磁気カード類収集等の意義を学ぶ<br>7.ボランティア活動(屋外清掃ボランティア)本学駐車場の清掃箇所を知り、ポイ捨て、吸殻投げ捨てるの対策を考える。<br>8.ボランティア活動(朗読ボランティア)佐野の「やまびこ」という朗読ボランティア団体の活動内容を理解し協力する。<br>9.ボランティア活動(学内学習用機器の美化ボランティア)車椅子等の清掃を行うことで、福祉用具の構造を理解し、利用者の気持ちかを推察する。<br>10.ボランティア活動報告とグループ討議1第4回の授業内容のボランティア活動について<br>11.ボランティア活動報告とグループ討議2第5回の授業内容のボランティア活動について<br>12.ボランティア活動報告とグループ討議3第6回の授業内容のボランティア活動について<br>13.ボランティア活動報告とグループ討議4第7回の授業内容のボランティア活動について<br>14.ボランティア活動報告とグループ討議5第8回の授業内容のボランティア活動について<br>15.ボランティア活動報告の総括とグループ討議の総括最終評価についての説明 |              |       |
| 教科書            | なし  |              |       |
| 授業の工夫点         | 最初は講義形式。その後実際の活動を行い、発表並びにグループ討議を掛け合わせた授業展開とする。  |              |       |
| 授業の評価方法        | 出席20%、課題レポート等40%、授業態度10%、その他30%   |              |       |
| 授業のサポート体制      | ない  |              |       |
| 学外の関係機関・団体との連携 | ない  |              |       |
| 今後の授業の継続       | 未定  |              |       |

## ○ 武蔵丘短期大学

|                |   |              |                  |
|----------------|---|--------------|------------------|
| 授業科目名          | ボランティア入門  |              |                  |
| 担当教員(学内又は学外)   | 学外教員  | 授業期間         | 半期               |
| 担当教員の専門分野      | ボランティア  | 共通・専門等の別     | その他(基礎教育科目の社会分野) |
| 開設学部(学科)及び年次   | 健康生活学科1年次   | 授業のレベル       | 初級・入門            |
| 平成20年度履修者数     | 計63名(男子学生12名 女子学生51名)   | 授業区分         | 講義               |
| 単位数            | 2   | ボランティア体験の時間数 | 一度は学外でボランティアを行う  |
| 必修・選択の別        | 選択必修  |              |                  |
| 授業目的           | ボランティアは誰でも気軽に参加でき、世界が広がる楽しい活動です。この授業では様々なボランティア・NPOについて学びます。この学習によって、学生が在学中あるいは卒業後にボランティアへ取り組むための基盤づくりと、自発的な「ボランティア精神」の養成を目指します。  |              |                  |
| 授業内容           | 1 オリエンテーション<br>2 ボランティアを始めよう<br>3 ボランティアを始めよう<br>4 障害者とボランティア<br>5 スポーツとボランティア<br>6 高齢者とボランティア<br>7 ボランティア教育<br>8 学校ボランティア<br>9 子どもとボランティア<br>10 災害ボランティア<br>11 国際ボランティア<br>12 企業の社会貢献<br>13 NPO<br>14 世界のボランティア・NPO<br>15 まとめ、期末試験 |              |                  |
| 教科書            | 参考文献<br>①『よくわかるNPO・ボランティア』ミネルヴァ書房<br>②金子郁容『ボランティア』岩波新書  |              |                  |
| 授業の工夫点         |   |              |                  |
| 授業の評価方法        | 期末試験(40%)＋ボランティア体験レポート(40%)＋出席(20%)を基本とし、授業態度・宿題・コメントペーパー等を平常点として加味します。   |              |                  |
| 授業のサポート体制      | ない  |              |                  |
| 学外の関係機関・団体との連携 | ボランティア派遣の候補先がいくつか存在します。   |              |                  |
| 今後の授業の継続       | 今後も継続   |              |                  |

## ○ 群馬社会福祉大学短期大学部

|                |  |              |       |
|----------------|--|--------------|-------|
| 授業科目名          | ボランティア活動 I   |              |       |
| 担当教員(学内又は学外)   | 学内教員   | 授業期間         | 通年    |
| 担当教員の専門分野      | 介護福祉   | 共通・専門等の別     | 共通    |
| 開設学部(学科)及び年次   | 介護福祉1年次  | 授業のレベル       | 初級・入門 |
| 平成20年度履修者数     | 計36名   | 授業区分         | 講義、演習 |
| 単位数            | 2  | ボランティア体験の時間数 | 150/年 |
| 必修・選択の別        | 必修   |              |       |
| 授業目的           | 介護福祉士取得のための基礎演習  |              |       |
| 授業内容           | 本学独自のボランティアハンドブックを利用し、本学のボランティア活動の取り組み方を実践を交えて学んでいく。社会福祉施設でのグループ活動、外部講師・卒業生を招いての講義も実施している。 |              |       |
| 教科書            | いちばんはじめのボランティア   |              |       |
| 授業の工夫点         | 学生の主体性を尊重し、実施する。   |              |       |
| 授業の評価方法        | 4領域のボランティア活動の状況(継続・依頼・行事・社会貢献)   |              |       |
| 授業のサポート体制      | 担当教員の支援  |              |       |
| 学外の関係機関・団体との連携 | 県・市町村社協、社会福祉施設等  |              |       |
| 今後の授業の継続       | 今後も継続  |              |       |

## ○ 東京福祉大学短期大学部

|                |   |              |       |
|----------------|---|--------------|-------|
| 授業科目名          | ボランティア論   |              |       |
| 担当教員(学内又は学外)   | 学内教員  | 授業期間         | 半期    |
| 担当教員の専門分野      | リハビリテーション   | 共通・専門等の別     | 共通    |
| 開設学部(学科)及び年次   | 短期大学部1年次  | 授業のレベル       | 初級・入門 |
| 平成20年度履修者数     | 計0名(男子学生0名 女子学生0名)  | 授業区分         | 講義    |
| 単位数            | 2   | ボランティア体験の時間数 | 0時間   |
| 必修・選択の別        | 選択  |              |       |
| 授業目的           | 1.ボランティア活動とは何かについて理解する。<br>2.ボランティア活動の自発性について理解する。<br>3.さまざまなボランティア活動を理解する。<br>4.ボランティア活動のコーディネート方法について学ぶ。                                    |              |       |
| 授業内容           | ボランティアについての基礎理論を学習した上で、現場でのニーズの把握、適切な組織構成などの実践理論を様々なボランティア活動例(災害援助活動、国際交流、社会福祉活動等)を取り上げながら学習する。また、より効果的な活動を行うためのコーディネート方法等を発表、ディスカッションしながら学ぶ。 |              |       |
| 教科書            | 東京福祉大学編「新・社会福祉要説」 ミネルヴァ書房<br>巡静一、早瀬昇編著「ボランティアの理論と実際」 中央法規   |              |       |
| 授業の工夫点         | グループディスカッション  |              |       |
| 授業の評価方法        | 出席状況20%、授業時の提出物・参加態度20%、試験レポート60%   |              |       |
| 授業のサポート体制      | オフィスアワーの設定  |              |       |
| 学外の関係機関・団体との連携 | ない  |              |       |
| 今後の授業の継続       | 今後も継続   |              |       |

## ○ 愛国学園短期大学

|                |  |              |       |
|----------------|--|--------------|-------|
| 授業科目名          | ボランティア活動   |              |       |
| 担当教員(学内又は学外)   | 学内教員   | 授業期間         | 半期    |
| 担当教員の専門分野      | 家政学  | 共通・専門等の別     | 専門    |
| 開設学部(学科)及び年次   | 家政科  | 授業のレベル       | 初級・入門 |
| 平成20年度履修者数     | 計10名(男子学生0名 女子学生10名)                                 | 授業区分         | 講義    |
| 単位数            | 2  | ボランティア体験の時間数 | 2時間   |
| 必修・選択の別        | 選択必修   |              |       |
| 授業目的           | 人間性豊かな日本人を育成するため。                                    |              |       |
| 授業内容           | ボランティア団体及び各種ボランティア活動の紹介、ボランティア体験の発表高齢者施設におけるボランティア体験 |              |       |
| 教科書            | 随時   |              |       |
| 授業の工夫点         |  |              |       |
| 授業の評価方法        | レポート及び出席状況等をもとに評価                                    |              |       |
| 授業のサポート体制      | ない   |              |       |
| 学外の関係機関・団体との連携 |  |              |       |
| 今後の授業の継続       | 未定   |              |       |

○ 昭和女子大学短期大学部

|                |  |              |       |
|----------------|--|--------------|-------|
| 授業科目名          | ボランティア論  |              |       |
| 担当教員(学内又は学外)   | 学外教員   | 授業期間         | 半期    |
| 担当教員の専門分野      | ボランティア   | 共通・専門等の別     | 共通    |
| 開設学部(学科)及び年次   | 一般教養科目全学部1年次、人間文化学部(日本語日本文学科、英語コミュニケーション学科、歴史文化学科)、人間社会学部(心理学科、福祉環境学科、現代教養学科、初等教育学科)、生活科学部(生活環境学科、生活科学科)、短期大学部(文化創造学科、食物科学科、子ども教育学科)   | 授業のレベル       | 初級・入門 |
| 平成20年度履修者数     | 計47名(男子学生0名 女子学生47名)   | 授業区分         | 講義    |
| 単位数            | 2  | ボランティア体験の時間数 | なし    |
| 必修・選択の別        | 選択   |              |       |
| 授業目的           | 21世紀は「ボランティアの世紀」といわれています。本講義は、グローバルな視野から、ボランティア・市民社会の理念や社会システムについて論じるとともに、未来の社会を育む「ボランティア・ネットワーク」の可能性、それを支援するための社会政策や環境づくりなどを、多様な視点から学ぶことを目標にします。  |              |       |
| 授業内容           | <ol style="list-style-type: none"> <li>『ボランティア学』を学ぶために</li> <li>出会いのワークショップ(討論グループづくり)</li> <li>人はなぜボランティアをするのか</li> <li>ボランティア・コミュニケーションへの考察</li> <li>世界のボランティア史と市民社会の誕生</li> <li>現代社会におけるボランタリズム理念</li> <li>統計にみるボランティア・NPOの世界</li> <li>ボランティアマナー・トレーニング①</li> <li>ボランティアマナー・トレーニング②</li> <li>グローバル社会におけるボランティアの展開</li> <li>国際協力NGOの歴史と課題</li> <li>生涯学習社会とボランティア活動の役割</li> <li>学校教育におけるボランティア学習の可能性</li> <li>ボランティア・NPOと行政とのパートナーシップ</li> <li>企業の社会的責任とフィランソロピー</li> </ol> |              |       |
| 教科書            | 『希望への力』-地球市民社会の「ボランティア学」(興梠寛著・光生館発行)   |              |       |
| 授業の工夫点         | 授業では、講義にとどまらず、話しあいや協働作業などをおとしたワークショップ、映像による実践の世界を探访するなどの“参画型学習”を展開していきます。  |              |       |
| 授業の評価方法        | 出席・受講態度・レポート論文をもとに評価する。論文の評価は、①テーマ設定の斬新さ、②講義成果の反映、③独創的な論点の展開、④批判的な目による検証力、⑤社会への提案性などを評価基準とする。  |              |       |
| 授業のサポート体制      |  |              |       |
| 学外の関係機関・団体との連携 |  |              |       |
| 今後の授業の継続       | 未定   |              |       |

| 授業科目名          |   |              |       |
|----------------|---|--------------|-------|
| 担当教員(学内又は学外)   | 学内教員  | 授業期間         | 半期    |
| 担当教員の専門分野      | ボランティア  | 共通・専門等の別     | 共通    |
| 開設学部(学科)及び年次   | 一般教養科目 全学部1・2年次<br>受講条件:一般教養科目の「ボランティア論」または人間社会学部専門科目の「福祉環境とボランティア」の単位を取得済みであること  | 授業のレベル       | 中級・応用 |
| 平成20年度履修者数     | 計3名(男子学生0名 女子学生3名)  | 授業区分         | 講義、実習 |
| 単位数            | 2   | ボランティア体験の時間数 | 20時間  |
| 必修・選択の別        | 選択  |              |       |
| 授業目的           | 「共生知」の世界にようこそ! コミュニティサービスラーニング『福祉環境とボランティア論』は、講義『福祉環境とボランティア論』を実証的に探求するために、理論学習で学んだ成果を公共の社会の発展のために役立てながら学ぶことを目的とした社会貢献型体験学習です。コミュニティサービスラーニングとは、教室で学んだ理論学習の成果を地域社会の課題に置き換えながら実践的に学ぶ教科学習方法です。学生が地域社会におけるニーズや課題を発見し、自分に可能な社会貢献活動をしなが問題を共有するとともにその成果と反省を理論学習にフィードバックさせることを目標としています。学習は、①オリエンテーション、②事前学習、③コミュニティサービスラーニングの実践、④総括学習の4つの学習プロセスによって構成されています。   |              |       |
| 授業内容           | 1. 授業概要の説明/コミュニティサービスラーニングへの理解<br>2. 実践のための情報の収集方法と計画立案の方法/安全学習/『コミュニティサービスラーニング計画 書』(同)報告書』の記入方法<br>3. 学習課題共有のためのワークショップ/実践のサポート体制と活用法<br>■コミュニティサービスラーニングの実践(20時間)<br>学びのキャンパスを地域社会に広げて、社会への貢献活動を行います。実践の方法としては、つぎの3つの方法があります。<br>●昭和女子大学プログラム<br>●ボランティアセンタープログラム<br>●自主企画プログラム<br>4~12. 実践活動<br>■総括学習(後期最終期3コマ・必修)<br>13. 学びのふりかえりのためのワークショップ<br>14. リポーティングセッション(実践報告会)<br>15. 『コミュニティサービスラーニング報告書』の提出と承認/総括講義 |              |       |
| 教科書            | 『希望への力』-地球市民社会の「ボランティア学」(興裕寛著・光生館発行)  |              |       |
| 授業の工夫点         |   |              |       |
| 授業の評価方法        | 『計画書』『報告書』を参考にレポートの提出によって評価する。評価の観点は①活動先理解②社会課題の分析③実践の検証④社会提案等  |              |       |
| 授業のサポート体制      |   |              |       |
| 学外の関係機関・団体との連携 | 大学設置のNPO法人運営施設でのサービスラーニングの実施。<br>世田谷ボランティアセンターとの連携により学生への活動プログラム提供、相談・助言、情報提供を行う。   |              |       |
| 今後の授業の継続       | 未定  |              |       |

| 授業科目名          |  |              |       |
|----------------|--|--------------|-------|
| 担当教員(学内又は学外)   | 学外教員   | 授業期間         | 通年    |
| 担当教員の専門分野      |  | 共通・専門等の別     | 共通    |
| 開設学部(学科)及び年次   | 一般教養科目 全学部2・3・4年次<br>受講条件:心理学科学生または教職課程履修者に限る。一般教養科目の「ボランティア論」または人間社会学部専門科目の「福祉環境とボランティア」を履修済みまたは履修中であること  | 授業のレベル       | 中級・応用 |
| 平成20年度履修者数     | 計3名(男子学生0名 女子学生3名)   | 授業区分         | 講義、実習 |
| 単位数            | 2  | ボランティア体験の時間数 | なし    |
| 必修・選択の別        | 選択   |              |       |
| 授業目的           | 一般教養科目「ボランティア論」、福祉環境学科専門科目「福祉環境とボランティア」を受講中または既習の学生のために、学校教育現場で特別支援教育対象児童生徒への援助を中心に、ボランティア活動を行う。特別支援教育について理解するとともに、心理学・教職課程などで履修したことを現場で活かしさらに理解を深めていくための実習を行う。  |              |       |
| 授業内容           | 【前期】<br>1.この授業についての説明<br>2.特別支援教育についての理解<br>3.対人コミュニケーションについての理解<br>4.リレーション作りの実習<br>5.現場における実習<br>6.中間報告ならびにスーパーバージョン(毎月)<br>7.前期のまとめ<br>【後期】<br>1.現場における実習<br>2.中間報告ならびにスーパーバージョン<br>3.1年のまとめ レポートおよび報告会 |              |       |
| 教科書            | 必要に応じて資料配布   |              |       |
| 授業の工夫点         |  |              |       |
| 授業の評価方法        | 授業への参加・実習・およびレポート提出を持って通年2単位とする。   |              |       |
| 授業のサポート体制      |  |              |       |
| 学外の関係機関・団体との連携 |  |              |       |
| 今後の授業の継続       | 未定   |              |       |

|                |   |              |       |
|----------------|---|--------------|-------|
| 授業科目名          | くらしとNPO(市民にできる社会貢献)   |              |       |
| 担当教員(学内又は学外)   | 学内教員  | 授業期間         | 半期    |
| 担当教員の専門分野      | ドイツ語圏文学   | 共通・専門等の別     | 専門    |
| 開設学部(学科)及び年次   | 短期大学部 文化創造学科1・2年次   | 授業のレベル       | 初級・入門 |
| 平成20年度履修者数     | 計38名(男子学生0名 女子学生38名)  | 授業区分         | 講義、実習 |
| 単位数            | 2   | ボランティア体験の時間数 | なし    |
| 必修・選択の別        | 選択  |              |       |
| 授業目的           | 住民が日常的に地域や社会に対し貢献していくあたらしい組織として脚光を浴びているNPOを概観し、そのサービスの仕組みや活動の意義を解説する。実際にNPOの活動に参加することも予定している。   |              |       |
| 授業内容           | 以下のトピックで講義するが、学生はできるかぎり、みずから課題を見つけ、調査し、考え、発表することが求められる。<br><ul style="list-style-type: none"> <li>・ 変革しつつある社会と時代</li> <li>・ NPOと市民</li> <li>・ NPOとボランティア</li> <li>・ NPOと行政</li> <li>・ NPOと企業</li> <li>・ NGOと国際協力</li> <li>・ 1999年シアトル</li> <li>・ 国際協力のあり方をめぐって</li> <li>・ 環境保全問題への取り組み</li> </ul> |              |       |
| 教科書            | 必要に応じて適宜プリントを配布   |              |       |
| 授業の工夫点         |   |              |       |
| 授業の評価方法        | 出席点+レポート+実習での取り組み   |              |       |
| 授業のサポート体制      |   |              |       |
| 学外の関係機関・団体との連携 |   |              |       |
| 今後の授業の継続       | 未定  |              |       |

|                |  |              |       |
|----------------|--|--------------|-------|
| 授業科目名          | 英語で地域貢献  |              |       |
| 担当教員(学内又は学外)   | 学内教員   | 授業期間         | 通年    |
| 担当教員の専門分野      | 高齢者福祉、生活経営   | 共通・専門等の別     | 共通    |
| 開設学部(学科)及び年次   | 一般教養科目 全学部1・2・3・4年次  | 授業のレベル       | 中級・応用 |
| 平成20年度履修者数     | 計22名(男子学生0名 女子学生22名)   | 授業区分         | 講義、実習 |
| 単位数            | 2  | ボランティア体験の時間数 | 30時間  |
| 必修・選択の別        | 選択   |              |       |
| 授業目的           | 英語を通してNPOやボランティア活動の意義や役割、リスクマネジメントを実践的に学ぶ。世田谷区を中心にボランティア団体と提携し、英語を用いてイベントの案内やパンフレットの翻訳、日本に住む外国人のボランティア活動の補助を行いながら、専門分野の仕事で生かせる英語力を養うための環境に慣れる。卒業後の生涯学習、社会参加への扉を開くことにもつなげたい。  |              |       |
| 授業内容           | 第1回 導入授業<br>第2回 NPO概論<br>第3回 ボランティア・プランニング<br>第4回 ボランティア・マナー<br>第5回～第8回 実習1～4<br>第9回 中間報告会1<br>第10回～第14回 実習5～9<br>第15回 前期のまとめ<br>第16回 後期導入<br>第17回 ボランティア・プランニング<br>第18回～22回 実習10～14<br>第23回 中間報告会2<br>第24回～29回 実習15～20<br>第30回 グループ・スーパービジョン及び体験報告会 |              |       |
| 教科書            | 指定せず。適宜プリントを配付。  |              |       |
| 授業の工夫点         |  |              |       |
| 授業の評価方法        | 出欠点、平常点、課題の提出による。  |              |       |
| 授業のサポート体制      |  |              |       |
| 学外の関係機関・団体との連携 |  |              |       |
| 今後の授業の継続       | 未定   |              |       |

| 授業科目名          | NGO概論   |              |       |
|----------------|---|--------------|-------|
| 担当教員(学内又は学外)   | 学内教員  | 授業期間         | 半期    |
| 担当教員の専門分野      | ドイツ語圏文学   | 共通・専門等の別     | 共通    |
| 開設学部(学科)及び年次   | 一般教養科目 全学部2年次   | 授業のレベル       | 初級・入門 |
| 平成20年度履修者数     | 計24名(男子学生0名 女子学生24名)  | 授業区分         | 講義    |
| 単位数            | 2   | ボランティア体験の時間数 | なし    |
| 必修・選択の別        | 選択  |              |       |
| 授業目的           | 最近注目を浴びる非営利セクターのなかでも、主に海外を活動対象にしていることで独特な領域を形成するNGOについて、その活動の意義や歴史的経緯について講義する。  |              |       |
| 授業内容           | <p>最近よく耳にする言葉にNGOがある。こうした非政府組織、非営利組織は以前から存在していたが、この講義では、なぜ今とりわけ脚光を浴びているのかについて考察する。まず非営利セクター一般の役割と機能を概観した後、NGOを次の点から解説していきたい。</p> <p>①NGOが脚光をあびる歴史的理由・国家の限界・市場の失敗・ボランティアの限界・グローバリズムと富の分配</p> <p>②NGOが実際におこなっていること・環境・平和・人権・開発</p> <p>③政府型援助との比較</p> <p>④NGOの政策提言</p> <p>⑤NGOの限界とその克服への取り組み</p> <p>⑥フェアトレードの仕組み</p> |              |       |
| 教科書            | 必要に応じてプリントを配布する。  |              |       |
| 授業の工夫点         |   |              |       |
| 授業の評価方法        | 出席点＋平常点＋レポート  |              |       |
| 授業のサポート体制      |   |              |       |
| 学外の関係機関・団体との連携 |   |              |       |
| 今後の授業の継続       | 未定  |              |       |

| 授業科目名          | コミュニティとまちづくり   |              |       |
|----------------|--|--------------|-------|
| 担当教員(学内又は学外)   | 学内教員   | 授業期間         | 半期    |
| 担当教員の専門分野      | 農村計画学、地域環境計画学、環境社会学、生活経営学  | 共通・専門等の別     | 共通    |
| 開設学部(学科)及び年次   | 一般教養科目 全学部1年次  | 授業のレベル       | 初級・入門 |
| 平成20年度履修者数     | 計89名(男子学生0名 女子学生89名)   | 授業区分         | 講義    |
| 単位数            | 2  | ボランティア体験の時間数 | なし    |
| 必修・選択の別        | 選択   |              |       |
| 授業目的           | 私たちの生活とコミュニティとの関係は不可欠である。人々が共に支えあい安心して生活できる豊かなコミュニティの形成、さらに今日的課題である環境問題も視野に入れて、コミュニティとまちづくりとの関係やまちづくりの実践方法、住民の主體的関わり等について、具体例を通じて考えていく。  |              |       |
| 授業内容           | <p>1. 導入授業2. Community の捉え方・定義</p> <p>3. 日本の Community の変容 Part1</p> <p>4. 日本の Community の変容 Part2</p> <p>5. 農村地域のCommunity と生活</p> <p>6. 都市のCommunity と生活</p> <p>7. 地域資源・地域の宝探しとまちづくり</p> <p>8. コミュニティ形成と住民主体、地域力</p> <p>9. 海外における Community 活動の事例 Part1</p> <p>10. 海外における Community 活動の事例 Part2</p> <p>11. 日本における多様な Community 活動の事例</p> <p>12. 日本におけるまちづくりの事例</p> <p>13. 試験</p> <p>14. 「コミュニティとまちづくりのまとめ」</p> |              |       |
| 教科書            | なし(参考図書は適宜推薦する)  |              |       |
| 授業の工夫点         |  |              |       |
| 授業の評価方法        | 出席点、課題レポート点、平常の受講状況を勘案して評価   |              |       |
| 授業のサポート体制      |  |              |       |
| 学外の関係機関・団体との連携 |  |              |       |
| 今後の授業の継続       | 未定   |              |       |

## ○ 女子美術大学短期大学部

|                |   |              |                              |
|----------------|---|--------------|------------------------------|
| 授業科目名          | サービス・ラーニング  |              |                              |
| 担当教員（学内又は学外）   | 学内教員  | 授業期間         | その他（長期休暇中を中心に集中で実施）          |
| 担当教員の専門分野      | デザイン、教育学  | 共通・専門等の別     | 専門                           |
| 開設学部（学科）及び年次   | 造形学科、専攻科、別科 全学年   | 授業のレベル       | その他<br>（各自のレベルに合わせた参加の仕方が可能） |
| 平成20年度履修者数     | 単位認定は年度末となるため、今年度は現在未定。（昨年度は22名）  | 授業区分         | 演習                           |
| 単位数            | 2   | ボランティア体験の時間数 | 30時間以上                       |
| 必修・選択の別        | 選択  |              |                              |
| 授業目的           | ボランティア活動を通じ、社会との連携を図る。  |              |                              |
| 授業内容           | この授業では、美術大学としての専門教育の特性を活かしながら、アートを通じて社会との共生をめざす学習を目的としたサービス・ラーニングを「ヒーリング・アートプロジェクト」の実践から学んでいく。<br>大学で学んでいる専門性を活かしながら、ボランティア活動を通じた社会との連携によって社会の現状を知り、またその解決方法を探ることにより、社会貢献に役立てていくことを目的とした学習活動である。              |              |                              |
| 教科書            | 特に定めない。必要に応じプリントを配布する。  |              |                              |
| 授業の工夫点         | 医療・福祉施設から依頼があった場合、掲示板を通じて通知する。（不定期）<br>主に休み期間を利用して進めるが、依頼された内容や規模によって単位取得に必要な時間数を要するプロジェクトであると判断された場合のみ、科目認定とする。<br>課題制作、提出、返却といった平常課題のプロセスとは異なり、ボランティア活動によって実際に社会に作品が設置されることを前提としていることを念頭に置いて、共同制作を基本に進めていく。 |              |                              |
| 授業の評価方法        | 企画、デザインプラン、アイデアスケッチ、原画、本制作といった一連の作品と共に、プロジェクト完了後（作品設置後）の自己評価のレポートを提出し、総合評価する。   |              |                              |
| 授業のサポート体制      | 企画、デザインプラン、アイデアスケッチ等作業毎に担当教授が参加者に対して具体的なアドバイスを行う。   |              |                              |
| 学外の関係機関・団体との連携 | 医療施設、福祉施設   |              |                              |
| 今後の授業の継続       | 今後も継続   |              |                              |

## ○ 星美学園短期大学

|                |  |              |      |
|----------------|--|--------------|------|
| 授業科目名          | ボランティア活動論・実習   |              |      |
| 担当教員（学内又は学外）   | 学外教員   | 授業期間         | 通年   |
| 担当教員の専門分野      |  | 共通・専門等の別     | 共通   |
| 開設学部（学科）及び年次   | 総合科目   | 授業のレベル       |      |
| 平成20年度履修者数     | 計8名（男子学生0名 女子学生8名）   | 授業区分         | 演習   |
| 単位数            | 2  | ボランティア体験の時間数 | 35時間 |
| 必修・選択の別        | 選択   |              |      |
| 授業目的           | ボランティアの意味を講義で学び、体験実習を通してボランティア精神を取得する。   |              |      |
| 授業内容           | 1) ボランティアとは何か（精神、種類等）<br>2) ボランティア体験方法の指導（個人、団体）<br>3) ボランティア経験の分かち合い<br>4) ボランティアの意義・精神についてのまとめ |              |      |
| 教科書            | なし   |              |      |
| 授業の工夫点         | VTR,体験談を通して、具体的なボランティア精神とボランティアの意義を知る。   |              |      |
| 授業の評価方法        | 出席回数・ボランティア体験の指定された条件を満たすこと・感想文と報告内容   |              |      |
| 授業のサポート体制      |  |              |      |
| 学外の関係機関・団体との連携 |  |              |      |
| 今後の授業の継続       | 今後も継続  |              |      |



## ○ 東京女子体育短期大学

|                |   |              |       |
|----------------|---|--------------|-------|
| 授業科目名          | 社会奉仕体験理論  |              |       |
| 担当教員（学内又は学外）   | 学内教員  | 授業期間         | 集中授業  |
| 担当教員の専門分野      | 野外運動  | 共通・専門等の別     | 共通    |
| 開設学部（学科）及び年次   | 保健体育学科及び児童教育学科 1年次  | 授業のレベル       | 初級・入門 |
| 平成20年度履修者数     | 計36名（男子学生0名 女子学生36名）  | 授業区分         | 講義    |
| 単位数            | 1   | ボランティア体験の時間数 | 0時間   |
| 必修・選択の別        | 選択  |              |       |
| 授業目的           | <p>大学が果たす社会貢献はその人的資源の豊富さから言って今後大きな期待が寄せられるところである。地域交流センターはその期待に応えるべく、本学学生が社会貢献を果たすための基本的学習「社会奉仕体験活動」を支援する。</p> <p>本授業では、集中講座（ボランティア講座）で高齢者福祉・児童福祉・障害者福祉に関して講義を通して学び、学生たちが実践活動を果たすための理論的理解を促進することをねらいとする。</p>  |              |       |
| 授業内容           | <p>オリエンテーション（フレッシュウィーク期間中）</p> <p>1 ボランティアとは</p> <p>① ボランティアの理念・組織・法制度とボランティア先での問題解決の技法について理解を図る。</p> <p>② ボランティア社会における学生の役割、国際交流・環境問題等への取組について歴史的経緯・活動の現状を学習する。</p> <p>2 障害者福祉</p> <p>① 障害とは何か、障害者と基本的人権等についての基本的理解を図る。</p> <p>② 障害者とスポーツ及びスポーツボランティアについての理論を学ぶ。</p> <p>③ 聴覚障害者の情報保障について理解を図り、ノートイクの基本を学ぶ。</p> <p>3 高齢者福祉</p> <p>① 高齢者福祉の現状と課題について理解を図る。</p> <p>4 児童福祉</p> <p>① 児童福祉の現状と課題について理解を図る。</p> |              |       |
| 教科書            | 資料を配付する。  |              |       |
| 授業の工夫点         | ボランティア講座として実習の一部と組み合わせることで、理論だけでなく実践に結び付けようとしている。   |              |       |
| 授業の評価方法        | 出席及び課題提出物を総合的に考慮して行う。   |              |       |
| 授業のサポート体制      | ない  |              |       |
| 学外の関係機関・団体との連携 | 「障害者福祉」の講義について、地域にある障害者スポーツセンターに会場提供と、講師として職員の派遣を依頼している。  |              |       |
| 今後の授業の継続       | 今後も継続   |              |       |

|                |   |              |                              |
|----------------|---|--------------|------------------------------|
| 授業科目名          | 社会奉仕体験実習  |              |                              |
| 担当教員（学内又は学外）   | 学内教員  | 授業期間         | その他（集中講座受講後、年間を通して随時体験活動を行う） |
| 担当教員の専門分野      | 野外運動  | 共通・専門等の別     | 共通                           |
| 開設学部（学科）及び年次   | 保健体育学科及び児童教育学科 2年次  | 授業のレベル       | 中級・応用                        |
| 平成20年度履修者数     | 計19名（男子学生0名 女子学生19名）  | 授業区分         | 実習                           |
| 単位数            | 1   | ボランティア体験の時間数 | 15時間                         |
| 必修・選択の別        | 選択  |              |                              |
| 授業目的           | <p>集中講座（ボランティア講座）で高齢者福祉・児童福祉・障害者福祉について6コマ分の演習・実習を行い、実践活動を行うための技術的理解を図る。残り9コマ分を8領域（高齢者福祉、児童福祉、障害者福祉、国際交流、学校教育活動支援、生涯学習活動支援、環境・災害ボランティア、その他）より2領域以上選択して活動することにより、本学学生が社会貢献を果たすための基本的学習を促進することをねらいとする。</p>   |              |                              |
| 授業内容           | <p>1 障害者福祉</p> <p>① 視覚障害者・聴覚障害者のスポーツ指導法について実践学習する。</p> <p>② 肢体不自由者・知的障害者のスポーツ指導法について実践学習する。</p> <p>③ 聴覚障害者に対するノートイクの技法について実践学習する。</p> <p>2 高齢者福祉</p> <p>① 介護法の実践・演習を行う。</p> <p>② 車椅子体験、高齢者介護の実技指導を行う。</p> <p>3 児童福祉</p> <p>① 子育て・保育のあり方についてその方法を学習する。</p> <p>② 子育て・保育のあり方について、実践・演習を行う。</p> <p>※ 実習単位の履修申請にあたり、理論の単位を修得していることを確認し、申請年度内に必要時間数の実習が完了するように予定を立てる。</p> <p>※ 必要時間数15コマ（1コマ90分）のうち、集中講座で6コマを行い、ボランティア先で9コマの実習を行う。</p> <p>※ 実習先は、地域交流センターで募集している活動の中から選択することを基本にする。</p> |              |                              |
| 教科書            | 資料を配付する。  |              |                              |
| 授業の工夫点         |   |              |                              |
| 授業の評価方法        | 集中講座への出席と課題提出物および社会奉仕体験活動報告書を総合的に評価する。  |              |                              |
| 授業のサポート体制      | ない  |              |                              |
| 学外の関係機関・団体との連携 | 「障害者福祉」の実習あたり、地域にある障害者スポーツセンターに会場提供と、講師として職員の派遣を依頼している。   |              |                              |
| 今後の授業の継続       | 今後も継続   |              |                              |

## ○ 和泉短期大学

|                |  |              |               |
|----------------|--|--------------|---------------|
| 授業科目名          | 教育実習(この教科の一部として、取り入れている)   |              |               |
| 担当教員(学内又は学外)   | 学外教員   | 授業期間         | 通年            |
| 担当教員の専門分野      | 教育や福祉  | 共通・専門等の別     | 専門            |
| 開設学部(学科)及び年次   | 児童福祉学科   | 授業のレベル       | 初級・入門         |
| 平成20年度履修者数     |  | 授業区分         | 演習            |
| 単位数            | 1  | ボランティア体験の時間数 | 約40時間(強制ではない) |
| 必修・選択の別        | 選択   |              |               |
| 授業目的           | 幼児教育現場における実習を有意義な学びの機会とするため、事前準備・事後の振り返りを行う。                       |              |               |
| 授業内容           | 教育実習に向けての事前準備・事後の振り返り(この授業の中の1コマにおいて、先輩が後輩へボランティア活動体験について報告を行っている。 |              |               |
| 教科書            |  |              |               |
| 授業の工夫点         | 20～30人で1クラスとなっており、担任が担当している。保育士養成の為の実習授業と連動した内容で進めている。             |              |               |
| 授業の評価方法        | 学内授業・現場実習・実習の記録を総合して評価している。  |              |               |
| 授業のサポート体制      | 実習・ボランティアセンター所属の教員   |              |               |
| 学外の関係機関・団体との連携 | 実習先との連携  |              |               |
| 今後の授業の継続       | 今後も継続  |              |               |

## ○ 富山短期大学

|                |  |              |      |
|----------------|--|--------------|------|
| 授業科目名          | ボランティア演習   |              |      |
| 担当教員(学内又は学外)   | 学内教員   | 授業期間         | 通年   |
| 担当教員の専門分野      | ボランティア   | 共通・専門等の別     |      |
| 開設学部(学科)及び年次   | 福祉学科   | 授業のレベル       |      |
| 平成20年度履修者数     | 計60名(男子学生17名 女子学生43名)  | 授業区分         | 演習   |
| 単位数            | 1  | ボランティア体験の時間数 | 5日以上 |
| 必修・選択の別        | 必修   |              |      |
| 授業目的           | 1. ボランティアの概念、意義、歴史と現状及び課題について理解する<br>2. ボランティア活動の組織、活動分野、発掘・養成・推進体制の現状と課題について理解する。<br>3. 地域の福祉施設・関係機関・各種団体などの日常活動及び主催行事などに、ボランティアとして参加させ、体験的に理解する。 |              |      |
| 授業内容           | 土・日の学外行事に参加しなければならない。  |              |      |
| 教科書            |  |              |      |
| 授業の工夫点         |  |              |      |
| 授業の評価方法        |  |              |      |
| 授業のサポート体制      |  |              |      |
| 学外の関係機関・団体との連携 | ボランティア・地域活動センター  |              |      |
| 今後の授業の継続       | 今後も継続  |              |      |

## ○ 東海学院大学短期大学部

|                |  |              |       |
|----------------|--|--------------|-------|
| 授業科目名          | ボランティア論  |              |       |
| 担当教員(学内又は学外)   | 学内教員   | 授業期間         | 半期    |
| 担当教員の専門分野      | 健康社会学  | 共通・専門等の別     | 専門    |
| 開設学部(学科)及び年次   | 福祉専攻科  | 授業のレベル       | 初級・入門 |
| 平成20年度履修者数     | 計0名(男子学生0名 女子学生0名)   | 授業区分         | 講義    |
| 単位数            | 2  | ボランティア体験の時間数 | 8時間   |
| 必修・選択の別        | 選択   |              |       |
| 授業目的           | ボランティア概念の構築  |              |       |
| 授業内容           | 1. 講義概要の詳細および成績評価方法について<br>2. ボランティアとは何か<br>3. ボランティア活動の歴史<br>4. ボランティア活動の内容<br>5. 社会福祉協議会とボランティア<br>6. 企業・労働組合のボランティア活動<br>7. NPOとボランティア<br>8. NGOとボランティア<br>9～12. ボランティア体験<br>13～15. ボランティア通信の作成 |              |       |
| 教科書            |  |              |       |
| 授業の工夫点         |  |              |       |
| 授業の評価方法        | ボランティア体験と通信の執筆   |              |       |
| 授業のサポート体制      | ない   |              |       |
| 学外の関係機関・団体との連携 | ない   |              |       |
| 今後の授業の継続       | 未定   |              |       |

## ○ 愛知大学短期大学部

|                |  |              |       |
|----------------|--|--------------|-------|
| 授業科目名          | ボランティア活動   |              |       |
| 担当教員（学内又は学外）   | 学外教員   | 授業期間         | 集中授業  |
| 担当教員の専門分野      |  | 共通・専門等の別     | 共通    |
| 開設学部（学科）及び年次   | 短期大学部（ライフデザイン総合学科）<br>1年次2セメ以降   | 授業のレベル       | 初級・入門 |
| 平成20年度履修者数     | 計35名（女子学生35名）  | 授業区分         | 講義    |
| 単位数            | 2  | ボランティア体験の時間数 |       |
| 必修・選択の別        | 選択必修   |              |       |
| 授業目的           | 「価値ある人生を生きるために」  |              |       |
| 授業内容           | 1) 幸せの三条件<br>2) みんなの力でみんなの一生の幸せを<br>3) 二十一世紀の日本社会の中で、価値ある人生を生きるために<br>4) ボランティア<br>理論と実際<br>1. ボランティアの思想<br>2. ボランティア活動の歴史<br>3. 教育とボランティア<br>4. ボランティア活動-国内<br>5. ボランティア活動-国際 |              |       |
| 教科書            |  |              |       |
| 授業の工夫点         |  |              |       |
| 授業の評価方法        | 実習終了後1週間以内にレポートを提出   |              |       |
| 授業のサポート体制      | ある   |              |       |
| 学外の関係機関・団体との連携 | ない   |              |       |
| 今後の授業の継続       | 今後も継続  |              |       |

## ○ 三重中京大学短期大学部

|                |  |              |       |
|----------------|--|--------------|-------|
| 授業科目名          | 特殊講義   |              |       |
| 担当教員（学内又は学外）   | 学内教員   | 授業期間         | 通年    |
| 担当教員の専門分野      | 教育学等   | 共通・専門等の別     | 共通    |
| 開設学部（学科）及び年次   | 全学科1・2年生対象   | 授業のレベル       | 初級・入門 |
| 平成20年度履修者数     | 計107名（男子学生14名 女子学生93名）   | 授業区分         | 講義、実習 |
| 単位数            | 2  | ボランティア体験の時間数 | 12時間  |
| 必修・選択の別        | 選択   |              |       |
| 授業目的           | 社会体験を通して、地域社会とのかかわりの中で、社会の一員であることを自覚すると共に、互いが支えあう社会の仕組みを考<br>えることと、自分自身を高める。   |              |       |
| 授業内容           | この講座の特色は社会の一端を知るために、本学の教員以外に三重県子ども部局、松阪教育委員会、三重県社会福祉協議<br>会、NPO（松阪市）から講師をお招きし、それぞれの分野の社会体験活動に関する講話を聞く機会を設けていることである。様々<br>な分野の講話の中で、社会貢献をする意義や、社会の一員として何をなすべきかを考え、その後、学生個々の専門分野を活か<br>した社会体験活動をおこなう。最後はまとめとして、個人の社会体験を発表しグループ討議をおこなう。この講座は変則的な日<br>程でおこなう。講義は前期（4月12日、19日、26日）体験活動は自由時間、発表は後期補講機関1月10日の予定である。 |              |       |
| 教科書            | なし   |              |       |
| 授業の工夫点         | 特に無し   |              |       |
| 授業の評価方法        | 社会体験活動実績、レポート、発表等から総合的に評価する。   |              |       |
| 授業のサポート体制      | ない   |              |       |
| 学外の関係機関・団体との連携 | 三重県子ども部局、松阪市教育委員会  |              |       |
| 今後の授業の継続       | 未定   |              |       |

## ○ 仁愛女子短期大学

|                |  |                         |           |     |         |           |           |    |   |   |    |      |    |   |   |          |   |   |    |   |      |                  |    |   |        |                         |    |   |        |                   |    |
|----------------|--|-------------------------|-----------|-----|---------|-----------|-----------|----|---|---|----|------|----|---|---|----------|---|---|----|---|------|------------------|----|---|--------|-------------------------|----|---|--------|-------------------|----|
| 授業科目名          | 音楽社会活動実践   |                         |           |     |         |           |           |    |   |   |    |      |    |   |   |          |   |   |    |   |      |                  |    |   |        |                         |    |   |        |                   |    |
| 担当教員（学内又は学外）   | 学内教員   | 授業期間                    | 通年        |     |         |           |           |    |   |   |    |      |    |   |   |          |   |   |    |   |      |                  |    |   |        |                         |    |   |        |                   |    |
| 担当教員の専門分野      | 音楽   | 共通・専門等の別                | 専門        |     |         |           |           |    |   |   |    |      |    |   |   |          |   |   |    |   |      |                  |    |   |        |                         |    |   |        |                   |    |
| 開設学部（学科）及び年次   | 音楽学科1・2年次  | 授業のレベル                  | その他       |     |         |           |           |    |   |   |    |      |    |   |   |          |   |   |    |   |      |                  |    |   |        |                         |    |   |        |                   |    |
| 平成20年度履修者数     | 計58名（男子学生0名 女子学生58名）   | 授業区分                    | 演習        |     |         |           |           |    |   |   |    |      |    |   |   |          |   |   |    |   |      |                  |    |   |        |                         |    |   |        |                   |    |
| 単位数            | 1  | ボランティア体験の時間数            | なし        |     |         |           |           |    |   |   |    |      |    |   |   |          |   |   |    |   |      |                  |    |   |        |                         |    |   |        |                   |    |
| 必修・選択の別        | 必修   |                         |           |     |         |           |           |    |   |   |    |      |    |   |   |          |   |   |    |   |      |                  |    |   |        |                         |    |   |        |                   |    |
| 授業目的           | 専門分野で学んだ技能と知識を生かし、学生の一人ひとりが、演奏や演奏スタッフまたは福祉現場に於けるボランティアなどへの参加等、地域社会と深くかかわる機会を積極的かつ主体的に取得して、社会の文化と発展に貢献する喜びを、実際の社会活動の現場を通して体験すること。   |                         |           |     |         |           |           |    |   |   |    |      |    |   |   |          |   |   |    |   |      |                  |    |   |        |                         |    |   |        |                   |    |
| 授業内容           | <p>(1) A、B、Cの3分野に渡って活動することが望ましいが、コース別に、下表を原則として2つの分野以上に渡ること。</p> <table border="1"> <tr> <td>コース</td> <td>A(演奏出演)</td> <td>B(演奏スタッフ)</td> <td>C(ボランティア)</td> </tr> <tr> <td>演奏</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>※1</td> </tr> <tr> <td>音楽療法</td> <td>※2</td> <td>○</td> <td>○</td> </tr> <tr> <td>デジタル音楽創作</td> <td>○</td> <td>○</td> <td>※1</td> </tr> </table> <p>※1 演奏、デジタル音楽創作コースに於いては、福祉関連での演奏活動はC分野とみなす。<br/>         ※2 音楽療法コースに於いては、福祉関連での演奏活動はA分野とみなす。</p> <p>(2) ABC各分野に渡って活動の回数は、下表を原則としてカウントする。</p> <table border="1"> <tr> <td>A</td> <td>演奏出演</td> <td>1回(1日以内)のコンサート出演</td> <td>1回</td> </tr> <tr> <td>B</td> <td>演奏スタッフ</td> <td>1回(1日以内)のコンサートやイベントでの活動</td> <td>1回</td> </tr> <tr> <td>C</td> <td>ボランティア</td> <td>1回(1日以内)のボランティア活動</td> <td>1回</td> </tr> </table> <p>(3) 活動後1週間以内に「音楽社会活動実践」履修ノートに記入・記録し、資料と共に学科長に提出して認印を受けること。(夏期、冬期等休暇中の活動報告は休暇明け1週間以内に提出)</p> |                         |           | コース | A(演奏出演) | B(演奏スタッフ) | C(ボランティア) | 演奏 | ○ | ○ | ※1 | 音楽療法 | ※2 | ○ | ○ | デジタル音楽創作 | ○ | ○ | ※1 | A | 演奏出演 | 1回(1日以内)のコンサート出演 | 1回 | B | 演奏スタッフ | 1回(1日以内)のコンサートやイベントでの活動 | 1回 | C | ボランティア | 1回(1日以内)のボランティア活動 | 1回 |
| コース            | A(演奏出演)  | B(演奏スタッフ)               | C(ボランティア) |     |         |           |           |    |   |   |    |      |    |   |   |          |   |   |    |   |      |                  |    |   |        |                         |    |   |        |                   |    |
| 演奏             | ○  | ○                       | ※1        |     |         |           |           |    |   |   |    |      |    |   |   |          |   |   |    |   |      |                  |    |   |        |                         |    |   |        |                   |    |
| 音楽療法           | ※2   | ○                       | ○         |     |         |           |           |    |   |   |    |      |    |   |   |          |   |   |    |   |      |                  |    |   |        |                         |    |   |        |                   |    |
| デジタル音楽創作       | ○  | ○                       | ※1        |     |         |           |           |    |   |   |    |      |    |   |   |          |   |   |    |   |      |                  |    |   |        |                         |    |   |        |                   |    |
| A              | 演奏出演   | 1回(1日以内)のコンサート出演        | 1回        |     |         |           |           |    |   |   |    |      |    |   |   |          |   |   |    |   |      |                  |    |   |        |                         |    |   |        |                   |    |
| B              | 演奏スタッフ   | 1回(1日以内)のコンサートやイベントでの活動 | 1回        |     |         |           |           |    |   |   |    |      |    |   |   |          |   |   |    |   |      |                  |    |   |        |                         |    |   |        |                   |    |
| C              | ボランティア   | 1回(1日以内)のボランティア活動       | 1回        |     |         |           |           |    |   |   |    |      |    |   |   |          |   |   |    |   |      |                  |    |   |        |                         |    |   |        |                   |    |
| 教科書            | なし。  |                         |           |     |         |           |           |    |   |   |    |      |    |   |   |          |   |   |    |   |      |                  |    |   |        |                         |    |   |        |                   |    |
| 授業の工夫点         | 入学時に、「音楽社会活動実践」履修ノートを手渡す。  |                         |           |     |         |           |           |    |   |   |    |      |    |   |   |          |   |   |    |   |      |                  |    |   |        |                         |    |   |        |                   |    |
| 授業の評価方法        | 2年に渡って上記A、B、Cの3分野での活動合計が、10回以上をもって単位を認定する。   |                         |           |     |         |           |           |    |   |   |    |      |    |   |   |          |   |   |    |   |      |                  |    |   |        |                         |    |   |        |                   |    |
| 授業のサポート体制      | 演奏出演、演奏スタッフ、ボランティアを通じて、本学教員はもちろん、学生が相互にサポートし合う体制になっています。   |                         |           |     |         |           |           |    |   |   |    |      |    |   |   |          |   |   |    |   |      |                  |    |   |        |                         |    |   |        |                   |    |
| 学外の関係機関・団体との連携 | 県内外のコンサート会場やボランティア施設など。  |                         |           |     |         |           |           |    |   |   |    |      |    |   |   |          |   |   |    |   |      |                  |    |   |        |                         |    |   |        |                   |    |
| 今後の授業の継続       | 今後も継続  |                         |           |     |         |           |           |    |   |   |    |      |    |   |   |          |   |   |    |   |      |                  |    |   |        |                         |    |   |        |                   |    |

## ○ 南山短期大学

|                |  |              |                       |
|----------------|--|--------------|-----------------------|
| 授業科目名          | 国際協力入門A  |              |                       |
| 担当教員（学内又は学外）   | 学内教員   | 授業期間         | 半期                    |
| 担当教員の専門分野      | 異文化間コミュニケーション、多文化教育  | 共通・専門等の別     | 専門                    |
| 開設学部（学科）及び年次   | 英語科2年次   | 授業のレベル       | その他(授業のレベルを特定しておりません) |
| 平成20年度履修者数     | 計75名（男子学生0名 女子学生75名）   | 授業区分         | 講義                    |
| 単位数            | 1  | ボランティア体験の時間数 |                       |
| 必修・選択の別        | 選択   |              |                       |
| 授業目的           | 環境・開発・貧困・人権・平和など国際社会が抱える様々な課題への問題意識を持ち、問題解決型の行動力を養成することをねらいとしています。   |              |                       |
| 授業内容           | この授業では、講義形式での知識導入は最小限にして、受講者自身が聞き、調べ、話し合い、参加し、発表する、という形で授業をすすめ、身近なレベルで問題解決につながる「国際協力」にどのようなかかわりができるのかを考えます。  |              |                       |
| 教科書            | 田中優・櫻田秀樹・マエキタミヤコ編(2006)『世界から貧しさをなくす30の方法』合同出版  |              |                       |
| 授業の工夫点         | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション:「国際協力」ってなに?</li> <li>2. 1本のバナナから考える</li> <li>3. エビの履歴書から考える</li> <li>4. 「ダーウィンの悪夢」から見える地球規模の構造的暴力に気づこう</li> <li>5. 児童労働:働く子どもたちの実態を知ろう</li> <li>6. No Action, No Change: できることから、やってみよう</li> <li>7. フェアトレード: 買い物から国際協力</li> <li>8. 地域の国際化: 広がるNGO・NPO活動</li> <li>9. ケーススタディ「ボランティア2名を採用するなら」: あなたなら、誰を選ぶ?</li> <li>10. やってみたいボランティア! : 自分のボランティア体験を発表しよう①</li> <li>11. やってみたいボランティア! : 自分のボランティア体験を発表しよう②</li> <li>12. やってみたいボランティア! : 自分のボランティア体験を発表しよう③</li> <li>13. やってみたいボランティア! : 自分のボランティア体験を発表しよう④</li> <li>14. やってみたいボランティア! : 自分のボランティア体験を発表しよう⑤</li> <li>15. 総括</li> </ol> |              |                       |
| 授業の評価方法        | 出席、振り返りシート、プレゼンの総合評価   |              |                       |
| 授業のサポート体制      | ない   |              |                       |
| 学外の関係機関・団体との連携 | ない   |              |                       |
| 今後の授業の継続       | 今後も継続  |              |                       |

|                |  |              |                      |
|----------------|--|--------------|----------------------|
| 授業科目名          | 国際協力入門   |              |                      |
| 担当教員(学内又は学外)   | 学内教員   | 授業期間         | 半期                   |
| 担当教員の専門分野      | 異文化間コミュニケーション、多文化教育  | 共通・専門等の別     | 専門                   |
| 開設学部(学科)及び年次   | 英語科2年次   | 授業のレベル       | その他(授業のレベルを特定していません) |
| 平成20年度履修者数     | 計51名(男子学生0名 女子学生51名)   | 授業区分         | 講義                   |
| 単位数            | 1  | ボランティア体験の時間数 |                      |
| 必修・選択の別        | 選択   |              |                      |
| 授業目的           | 環境・開発・貧困・人権・平和など国際社会が抱える様々な課題への問題意識を持ち、問題解決型の行動力を養成することをねらいとしています。   |              |                      |
| 授業内容           | この授業では、講義形式での知識導入は最小限にして、受講者自身が聞き、調べ、話し合い、参加し、発表する、という形で授業をすすめ、身近なレベルで問題解決につながる「国際協力」にどのようなかわりができるのかを考えます。   |              |                      |
| 教科書            | 田中優・櫻田秀樹・マエキタミヤコ編(2006)『世界から貧しさをなくす30の方法』合同出版  |              |                      |
| 授業の工夫点         | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション:なぜ、国際協力なのか</li> <li>2. 1本のバナナから考える</li> <li>3. エビの履歴書から考える</li> <li>4. ダーウィンの悪夢から見える地球規模の構造的暴力に気づこう</li> <li>5. 児童労働:働く子どもたちの実態を知ろう</li> <li>6. No Action, No Change: できることから、やってみよう</li> <li>7. フェアトレード: 買い物から国際協力</li> <li>8. Advocacy vs. Aids : ホワイトバンドを通して考えてみよう</li> <li>9. 地域の国際化: 広がるNGO・NPO活動</li> <li>10. NGO/NPO活動に携わる実践者に学ぼう</li> <li>11. ケーススタディ「ボランティア2名を採用するなら」: あなたなら、誰を選ぶ?</li> <li>12. やってみたいボランティア! : 自分のボランティア体験を発表しよう①</li> <li>13. やってみたいボランティア! : 自分のボランティア体験を発表しよう②</li> <li>14. やってみたいボランティア! : 自分のボランティア体験を発表しよう③</li> <li>15. 統括</li> </ol> |              |                      |
| 授業の評価方法        | 出席、振り返りシート、宿題、プレゼンの総合評価  |              |                      |
| 授業のサポート体制      | ない   |              |                      |
| 学外の関係機関・団体との連携 | ない   |              |                      |
| 今後の授業の継続       | 今後も継続  |              |                      |

|                |  |              |                      |
|----------------|--|--------------|----------------------|
| 授業科目名          | 国際協力フィールドワークA  |              |                      |
| 担当教員(学内又は学外)   | 学内教員   | 授業期間         | その他(半期及び通年)          |
| 担当教員の専門分野      | 異文化間コミュニケーション、多文化教育  | 共通・専門等の別     | 専門                   |
| 開設学部(学科)及び年次   | 英語科1・2年次   | 授業のレベル       | その他(授業のレベルを特定していません) |
| 平成20年度履修者数     | 計25名(男子学生0名 女子学生25名)   | 授業区分         | 講義、実習                |
| 単位数            | 2  | ボランティア体験の時間数 | 90時間                 |
| 必修・選択の別        | 選択   |              |                      |
| 授業目的           | 身近なところから自分にできる「国際協力」ボランティアを自発的に実践することをめざします。   |              |                      |
| 授業内容           | 国内にある国際NGO/NPO団体(例:国際協力NGO「プランジャパン」@東京、「PHD協会」@神戸)での職場体験や、東海地域に暮らす多文化な子どもたちへの学習支援・日本語ボランティアなど、各自でボランティア・フィールドワークを計画し、実行し、報告会で活動成果を発表します。単位認定に必要な最低活動時間数は通算90時間で、活動時期により履修登録の時期が異なります。<br>① 集中型ボランティア(1年次終了後の春休みに活動)→ 1年秋学期に履修登録<br>② 通年型ボランティア(2年次の1年間を通して活動)→ 2年春学期に履修登録  |              |                      |
| 教科書            | 指定なし   |              |                      |
| 授業の工夫点         | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション: ボランティアとは?・国内プログラムを通して身につけたいもの</li> <li>2. ボランティア計画書作成(Plan)<br/>希望する活動先に連絡し、活動内容・活動時間を確認の上、ボランティア計画書を作成・提出</li> <li>3. フィールドワーク活動開始(Do・Check・Action)<br/>毎回、活動(Do)後に活動記録をジャーナルに記入し、活動内容・活動時間・当日の目標達成度をふりかえり(Check)、次回の活動改善(Action)につなげる。活動報告ジャーナルは記入後に必ず受け入れ先の担当者の方に確認印かサインをもらう</li> <li>4. フィールドワーク報告発表(Presentation)<br/>「国際協力フィールドワーク報告会」でパワーポイントによるプレゼンテーション</li> <li>5. 最終レポート作成(Final Report)<br/>通算90時間の活動を終えた段階で、フィールドワーク全体を改めて振り返り、最終レポート作成</li> <li>6. 全ての活動記録(下記5点)を1冊のファイルにまとめて提出<br/>①ボランティア計画書②活動報告ジャーナル用紙③最終レポート④受け入れ先情報(あれば受け入れ先の紹介パンフレットなども)⑤報告会のパワーポイント印刷資料</li> <li>7. 受け入れ先にお礼状と最終レポートのコピーを送付して、フィールドワーク終了</li> </ol> |              |                      |
| 授業の評価方法        | 提出物を基に、Pass(合格)・Fail(不合格)の二段階評価  |              |                      |
| 授業のサポート体制      | ガイダンスの実施、報告会の準備  |              |                      |
| 学外の関係機関・団体との連携 | 各種団体へ依頼・お礼状を送付   |              |                      |
| 今後の授業の継続       | 今後も継続  |              |                      |

|                |   |              |                      |
|----------------|---|--------------|----------------------|
| 授業科目名          | 国際協力フィールドワークB   |              |                      |
| 担当教員(学内又は学外)   | 学内教員  | 授業期間         | その他(半期及び通年)          |
| 担当教員の専門分野      | 英語教育  | 共通・専門等の別     | 専門                   |
| 開設学部(学科)及び年次   | 英語科1・2年次  | 授業のレベル       | その他(授業のレベルを特定していません) |
| 平成20年度履修者数     | 計11名(男子学生0名 女子学生11名)  | 授業区分         | 講義、実習                |
| 単位数            | 3   | ボランティア体験の時間数 | 2~3週間                |
| 必修・選択の別        | 選択  |              |                      |
| 授業目的           | Give students practical, hands-on experience in international cooperation   |              |                      |
| 授業内容           | Volunteer service in a country of the student's own choosing will give her insight into other cultures, an area requiring volunteer service, and how an international group of students can work together to solve problems.  |              |                      |
| 教科書            | Teacher-generated materials   |              |                      |
| 授業の工夫点         | A) As many preparation sessions as necessary to prepare the student for travel, the volunteer service to be done, and how to better work with in an international group.<br>B) 2-3 weeks of volunteer service in a foreign country<br>C) Follow up activities to help students reflect on their experience.<br>D) Presentation about the volunteer service experience to other students |              |                      |
| 授業の評価方法        | Grade of P (pass) or F (fail) will be based on participation and successful completion of overseas service, attendance at all pre- and post- volunteer service program meeting, successful completion of all reflection activities during service and after, and the presentation to students.  |              |                      |
| 授業のサポート体制      | ガイダンスの実施、報告会の準備   |              |                      |
| 学外の関係機関・団体との連携 | 主催団体であるCIEEとの連絡・連携  |              |                      |
| 今後の授業の継続       | 今後も継続   |              |                      |

| 授業科目名          | 国際協力フィールドワークC   |  |                      |      |       |         |       |              |                  |       |                   |                                  |        |               |                          |        |                |                           |        |                 |                                    |       |                |                                |        |               |                         |        |               |               |        |                |            |       |                    |          |        |                     |          |       |                 |  |       |             |                               |              |           |  |       |            |                              |
|----------------|---|--|----------------------|------|-------|---------|-------|--------------|------------------|-------|-------------------|----------------------------------|--------|---------------|--------------------------|--------|----------------|---------------------------|--------|-----------------|------------------------------------|-------|----------------|--------------------------------|--------|---------------|-------------------------|--------|---------------|---------------|--------|----------------|------------|-------|--------------------|----------|--------|---------------------|----------|-------|-----------------|--|-------|-------------|-------------------------------|--------------|-----------|--|-------|------------|------------------------------|
| 担当教員(学内又は学外)   | 学内教員  | 授業期間   | 集中授業                 |      |       |         |       |              |                  |       |                   |                                  |        |               |                          |        |                |                           |        |                 |                                    |       |                |                                |        |               |                         |        |               |               |        |                |            |       |                    |          |        |                     |          |       |                 |  |       |             |                               |              |           |  |       |            |                              |
| 担当教員の専門分野      | 国際協力  | 共通・専門等の別                                     | 専門                   |      |       |         |       |              |                  |       |                   |                                  |        |               |                          |        |                |                           |        |                 |                                    |       |                |                                |        |               |                         |        |               |               |        |                |            |       |                    |          |        |                     |          |       |                 |  |       |             |                               |              |           |  |       |            |                              |
| 開設学部(学科)及び年次   | 英語科1年次  | 授業のレベル                                       | その他(授業のレベルを特定していません) |      |       |         |       |              |                  |       |                   |                                  |        |               |                          |        |                |                           |        |                 |                                    |       |                |                                |        |               |                         |        |               |               |        |                |            |       |                    |          |        |                     |          |       |                 |  |       |             |                               |              |           |  |       |            |                              |
| 平成20年度履修者数     | 計24名(男子学生0名 女子学生24名)  | 授業区分   | 講義、実習                |      |       |         |       |              |                  |       |                   |                                  |        |               |                          |        |                |                           |        |                 |                                    |       |                |                                |        |               |                         |        |               |               |        |                |            |       |                    |          |        |                     |          |       |                 |  |       |             |                               |              |           |  |       |            |                              |
| 単位数            | 4   | ボランティア体験の時間数                                 | 3週間                  |      |       |         |       |              |                  |       |                   |                                  |        |               |                          |        |                |                           |        |                 |                                    |       |                |                                |        |               |                         |        |               |               |        |                |            |       |                    |          |        |                     |          |       |                 |  |       |             |                               |              |           |  |       |            |                              |
| 必修・選択の別        | 選択  |  |                      |      |       |         |       |              |                  |       |                   |                                  |        |               |                          |        |                |                           |        |                 |                                    |       |                |                                |        |               |                         |        |               |               |        |                |            |       |                    |          |        |                     |          |       |                 |  |       |             |                               |              |           |  |       |            |                              |
| 授業目的           | Cebu Volunteer Fieldwork Programme (Philippines)  |  |                      |      |       |         |       |              |                  |       |                   |                                  |        |               |                          |        |                |                           |        |                 |                                    |       |                |                                |        |               |                         |        |               |               |        |                |            |       |                    |          |        |                     |          |       |                 |  |       |             |                               |              |           |  |       |            |                              |
| 授業内容           | In line with the new curriculum in the International Cooperation Section, the objectives of the Volunteer Fieldwork Programme as a "Service Learning Programme," are as follows:<br>1. To provide opportunities for Nanzan junior College students to experience in a cross-cultural setting volunteer fieldwork in their day-care centre activities as well as provide assistance in their family livelihood projects among selected urban communities, in partnership with the University of San Carlos, in Cebu City, Philippines.<br>2. To enhance their English oral communication skills in their travels abroad and during their training workshop and actual volunteer service-learning activities and in learning of the Philippines culture as well as the local language, the Cebuano.<br>3. To encourage and promote cross-cultural exchange their weekend home stay experience with their Filipino host families and during eco-cultural tour and visit to the community extension projects of the USC as well as show-case some significant Japanese cultural practice and traditions in their farewell Sayonara presentation.  |  |                      |      |       |         |       |              |                  |       |                   |                                  |        |               |                          |        |                |                           |        |                 |                                    |       |                |                                |        |               |                         |        |               |               |        |                |            |       |                    |          |        |                     |          |       |                 |  |       |             |                               |              |           |  |       |            |                              |
| 教科書            |   |  |                      |      |       |         |       |              |                  |       |                   |                                  |        |               |                          |        |                |                           |        |                 |                                    |       |                |                                |        |               |                         |        |               |               |        |                |            |       |                    |          |        |                     |          |       |                 |  |       |             |                               |              |           |  |       |            |                              |
| 授業の工夫点         | <table border="1"> <thead> <tr> <th>Date</th> <th>Title</th> <th>Details</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>Sep 5</td> <td>Introduction</td> <td>Service Learning</td> </tr> <tr> <td>Oct 3</td> <td>Culture Sharing I</td> <td>Teaching Japanese culture, album</td> </tr> <tr> <td>Oct 10</td> <td>Philippines I</td> <td>History, people, culture</td> </tr> <tr> <td>Oct 17</td> <td>Philippines II</td> <td>Realities, poverty issues</td> </tr> <tr> <td>Oct 24</td> <td>Philippines III</td> <td>Cebuano and urban poor communities</td> </tr> <tr> <td>Nov 7</td> <td>Philippines IV</td> <td>Values, family life, home-stay</td> </tr> <tr> <td>Nov 14</td> <td>Team-Building</td> <td>Betania House overnight</td> </tr> <tr> <td>Nov 21</td> <td>Philippines V</td> <td>Going to Mass</td> </tr> <tr> <td>Nov 28</td> <td>Philippines VI</td> <td>Conclusion</td> </tr> <tr> <td>Dec 5</td> <td>Culture Sharing II</td> <td>Practice</td> </tr> <tr> <td>Dec 12</td> <td>Culture Sharing III</td> <td>Practice</td> </tr> <tr> <td>Jan 9</td> <td>Site Assignment</td> <td>Assignment of Host Families, Site and duties</td> </tr> <tr> <td>Jan16</td> <td>Expectation</td> <td>Discussion/Travel Requirement</td> </tr> <tr> <td>Feb 11-Mar 3</td> <td>Fieldwork</td> <td></td> </tr> <tr> <td>May 6</td> <td>Reflection</td> <td>Memory book, written reports</td> </tr> </tbody> </table> |  |                      | Date | Title | Details | Sep 5 | Introduction | Service Learning | Oct 3 | Culture Sharing I | Teaching Japanese culture, album | Oct 10 | Philippines I | History, people, culture | Oct 17 | Philippines II | Realities, poverty issues | Oct 24 | Philippines III | Cebuano and urban poor communities | Nov 7 | Philippines IV | Values, family life, home-stay | Nov 14 | Team-Building | Betania House overnight | Nov 21 | Philippines V | Going to Mass | Nov 28 | Philippines VI | Conclusion | Dec 5 | Culture Sharing II | Practice | Dec 12 | Culture Sharing III | Practice | Jan 9 | Site Assignment | Assignment of Host Families, Site and duties | Jan16 | Expectation | Discussion/Travel Requirement | Feb 11-Mar 3 | Fieldwork |  | May 6 | Reflection | Memory book, written reports |
| Date           | Title   | Details                                      |                      |      |       |         |       |              |                  |       |                   |                                  |        |               |                          |        |                |                           |        |                 |                                    |       |                |                                |        |               |                         |        |               |               |        |                |            |       |                    |          |        |                     |          |       |                 |  |       |             |                               |              |           |  |       |            |                              |
| Sep 5          | Introduction  | Service Learning                             |                      |      |       |         |       |              |                  |       |                   |                                  |        |               |                          |        |                |                           |        |                 |                                    |       |                |                                |        |               |                         |        |               |               |        |                |            |       |                    |          |        |                     |          |       |                 |  |       |             |                               |              |           |  |       |            |                              |
| Oct 3          | Culture Sharing I   | Teaching Japanese culture, album             |                      |      |       |         |       |              |                  |       |                   |                                  |        |               |                          |        |                |                           |        |                 |                                    |       |                |                                |        |               |                         |        |               |               |        |                |            |       |                    |          |        |                     |          |       |                 |  |       |             |                               |              |           |  |       |            |                              |
| Oct 10         | Philippines I   | History, people, culture                     |                      |      |       |         |       |              |                  |       |                   |                                  |        |               |                          |        |                |                           |        |                 |                                    |       |                |                                |        |               |                         |        |               |               |        |                |            |       |                    |          |        |                     |          |       |                 |  |       |             |                               |              |           |  |       |            |                              |
| Oct 17         | Philippines II  | Realities, poverty issues                    |                      |      |       |         |       |              |                  |       |                   |                                  |        |               |                          |        |                |                           |        |                 |                                    |       |                |                                |        |               |                         |        |               |               |        |                |            |       |                    |          |        |                     |          |       |                 |  |       |             |                               |              |           |  |       |            |                              |
| Oct 24         | Philippines III   | Cebuano and urban poor communities           |                      |      |       |         |       |              |                  |       |                   |                                  |        |               |                          |        |                |                           |        |                 |                                    |       |                |                                |        |               |                         |        |               |               |        |                |            |       |                    |          |        |                     |          |       |                 |  |       |             |                               |              |           |  |       |            |                              |
| Nov 7          | Philippines IV  | Values, family life, home-stay               |                      |      |       |         |       |              |                  |       |                   |                                  |        |               |                          |        |                |                           |        |                 |                                    |       |                |                                |        |               |                         |        |               |               |        |                |            |       |                    |          |        |                     |          |       |                 |  |       |             |                               |              |           |  |       |            |                              |
| Nov 14         | Team-Building   | Betania House overnight                      |                      |      |       |         |       |              |                  |       |                   |                                  |        |               |                          |        |                |                           |        |                 |                                    |       |                |                                |        |               |                         |        |               |               |        |                |            |       |                    |          |        |                     |          |       |                 |  |       |             |                               |              |           |  |       |            |                              |
| Nov 21         | Philippines V   | Going to Mass                                |                      |      |       |         |       |              |                  |       |                   |                                  |        |               |                          |        |                |                           |        |                 |                                    |       |                |                                |        |               |                         |        |               |               |        |                |            |       |                    |          |        |                     |          |       |                 |  |       |             |                               |              |           |  |       |            |                              |
| Nov 28         | Philippines VI  | Conclusion                                   |                      |      |       |         |       |              |                  |       |                   |                                  |        |               |                          |        |                |                           |        |                 |                                    |       |                |                                |        |               |                         |        |               |               |        |                |            |       |                    |          |        |                     |          |       |                 |  |       |             |                               |              |           |  |       |            |                              |
| Dec 5          | Culture Sharing II  | Practice                                     |                      |      |       |         |       |              |                  |       |                   |                                  |        |               |                          |        |                |                           |        |                 |                                    |       |                |                                |        |               |                         |        |               |               |        |                |            |       |                    |          |        |                     |          |       |                 |  |       |             |                               |              |           |  |       |            |                              |
| Dec 12         | Culture Sharing III   | Practice                                     |                      |      |       |         |       |              |                  |       |                   |                                  |        |               |                          |        |                |                           |        |                 |                                    |       |                |                                |        |               |                         |        |               |               |        |                |            |       |                    |          |        |                     |          |       |                 |  |       |             |                               |              |           |  |       |            |                              |
| Jan 9          | Site Assignment   | Assignment of Host Families, Site and duties |                      |      |       |         |       |              |                  |       |                   |                                  |        |               |                          |        |                |                           |        |                 |                                    |       |                |                                |        |               |                         |        |               |               |        |                |            |       |                    |          |        |                     |          |       |                 |  |       |             |                               |              |           |  |       |            |                              |
| Jan16          | Expectation   | Discussion/Travel Requirement                |                      |      |       |         |       |              |                  |       |                   |                                  |        |               |                          |        |                |                           |        |                 |                                    |       |                |                                |        |               |                         |        |               |               |        |                |            |       |                    |          |        |                     |          |       |                 |  |       |             |                               |              |           |  |       |            |                              |
| Feb 11-Mar 3   | Fieldwork   |  |                      |      |       |         |       |              |                  |       |                   |                                  |        |               |                          |        |                |                           |        |                 |                                    |       |                |                                |        |               |                         |        |               |               |        |                |            |       |                    |          |        |                     |          |       |                 |  |       |             |                               |              |           |  |       |            |                              |
| May 6          | Reflection  | Memory book, written reports                 |                      |      |       |         |       |              |                  |       |                   |                                  |        |               |                          |        |                |                           |        |                 |                                    |       |                |                                |        |               |                         |        |               |               |        |                |            |       |                    |          |        |                     |          |       |                 |  |       |             |                               |              |           |  |       |            |                              |
| 授業の評価方法        |   |  |                      |      |       |         |       |              |                  |       |                   |                                  |        |               |                          |        |                |                           |        |                 |                                    |       |                |                                |        |               |                         |        |               |               |        |                |            |       |                    |          |        |                     |          |       |                 |  |       |             |                               |              |           |  |       |            |                              |
| 授業のサポート体制      | ガイダンスの実施、報告会の準備   |  |                      |      |       |         |       |              |                  |       |                   |                                  |        |               |                          |        |                |                           |        |                 |                                    |       |                |                                |        |               |                         |        |               |               |        |                |            |       |                    |          |        |                     |          |       |                 |  |       |             |                               |              |           |  |       |            |                              |
| 学外の関係機関・団体との連携 | フィリピンの各種団体・大学との連絡・連携  |  |                      |      |       |         |       |              |                  |       |                   |                                  |        |               |                          |        |                |                           |        |                 |                                    |       |                |                                |        |               |                         |        |               |               |        |                |            |       |                    |          |        |                     |          |       |                 |  |       |             |                               |              |           |  |       |            |                              |
| 今後の授業の継続       | 今後も継続   |  |                      |      |       |         |       |              |                  |       |                   |                                  |        |               |                          |        |                |                           |        |                 |                                    |       |                |                                |        |               |                         |        |               |               |        |                |            |       |                    |          |        |                     |          |       |                 |  |       |             |                               |              |           |  |       |            |                              |

## ○ 敦賀短期大学

|                |   |              |       |
|----------------|---|--------------|-------|
| 授業科目名          | 社会貢献  |              |       |
| 担当教員（学内又は学外）   | 学内教員  | 授業期間         | 集中授業  |
| 担当教員の専門分野      | 教育心理学   | 共通・専門等の別     | 共通    |
| 開設学部（学科）及び年次   | 地域総合科学科1年次  | 授業のレベル       | 初級・入門 |
| 平成20年度履修者数     | 計14名（男子学生4名 女子学生10名）  | 授業区分         | 実習    |
| 単位数            | 1   | ボランティア体験の時間数 | 30時間  |
| 必修・選択の別        | 選択  |              |       |
| 授業目的           | 学生自身が、学外でのボランティア活動に参加し、ボランティアの意義を感じ取り、今後の社会を担う市民性・社会性を身につけることを目的とする。  |              |       |
| 授業内容           | <p>わが国で、ボランティアの意義や機能があらためて認識されたのは、1995年1月17日の「阪神淡路大震災」での避難者の援助であった。その後も、福井県での重油流出事故、新潟県・福井県などでの豪雨災害、新潟県の中越地震、中越沖地震などで、いわゆる「防災ボランティア」は大きな役割を果たした。</p> <p>もちろん、ボランティアは災害や非常事態での援助に限るわけではない。日常的な地道なボランティアも多い。例えば、「児童自立支援施設」での家庭教師、小学生の合宿通学での補助、あるいは養護学校の諸行事への参加、病院、障害者授産所での行事参加などである。また、町の美化運動への参加、観光案内など、この2、3年でボランティアの活動分野は大きく広がった。行政も、「ボランティア養成講座」「生涯学習指導員養成講座」を開催し、ボランティア意識の啓発を進めている。このよう講座に参加することも、また「ボランティア」である。</p> <p>この科目は、学外での体験であるから、毎週「講義」があるわけではない。学生自身が自主的にボランティア団体やボランティア募集、講座の情報を集めて、参加してくれることを期待する。もちろん、本学も、ボランティアに関する情報を頻りに提供するので（掲示板、メール連絡など）参考にしてもらいたい。</p> <p>ボランティアの内容や期間に関しては、原則として制限はない。自分のしたい活動が「ボランティア」に相当するかどうか、その他の疑問点は担当教員（福永）に確認してほしい。</p> |              |       |
| 教科書            |   |              |       |
| 授業の工夫点         |   |              |       |
| 授業の評価方法        | 原則として、ボランティア団体や企画主体者の参加証明をもって単位を認定する。ただし、本学教員が同行するボランティア、また「証明」の難しいボランティアも当然あるのでその点は考慮する。なるべく担当教員に確認してほしい。1日程度以上の時間を費やすことが望ましいが、これも準備期間などを必要とする場合があるので、必要時間数についても事前に担当教員まで確認してほしい。短時間のボランティアに数回参加して単位とすることも、もちろん可能である。参加者はボランティア後に担当教員まで感想文を提出することで、単位を取得できる。   |              |       |
| 授業のサポート体制      | 教務課員がサポートとしてボランティアに同行   |              |       |
| 学外の関係機関・団体との連携 | 敦賀市行政機関のボランティア活動の内容や企画を協議   |              |       |
| 今後の授業の継続       | 今後も継続   |              |       |

|                |   |              |       |
|----------------|---|--------------|-------|
| 授業科目名          | ボランティア体験  |              |       |
| 担当教員（学内又は学外）   | 学内教員  | 授業期間         | 集中授業  |
| 担当教員の専門分野      | 教育心理学   | 共通・専門等の別     | 共通    |
| 開設学部（学科）及び年次   | 地域総合科学科2年次  | 授業のレベル       | 初級・入門 |
| 平成20年度履修者数     | 計16名（男子学生10名 女子学生6名）  | 授業区分         | 実習    |
| 単位数            | 1   | ボランティア体験の時間数 | 30時間  |
| 必修・選択の別        | 選択  |              |       |
| 授業目的           | 学生自身が、学外でのボランティア活動に参加し、ボランティアの意義を感じ取り、今後の社会を担う市民性・社会性を身につけることを目的とする。  |              |       |
| 授業内容           | <p>わが国で、ボランティアの意義や機能があらためて認識されたのは、1995年1月17日の「阪神淡路大震災」での避難者の援助であった。その後も、福井県での重油流出事故、新潟県・福井県などでの豪雨災害、新潟県の中越地震、中越沖地震などで、いわゆる「防災ボランティア」は大きな役割を果たした。</p> <p>もちろん、ボランティアは災害や非常事態での援助に限るわけではない。日常的な地道なボランティアも多い。例えば、「児童自立支援施設」での家庭教師、小学生の合宿通学での補助、あるいは養護学校の諸行事への参加、病院、障害者授産所での行事参加などである。また、町の美化運動への参加、観光案内など、この2、3年でボランティアの活動分野は大きく広がった。行政も、「ボランティア養成講座」「生涯学習指導員養成講座」を開催し、ボランティア意識の啓発を進めている。このよう講座に参加することも、また「ボランティア」である。</p> <p>この科目は、学外での体験であるから、毎週「講義」があるわけではない。学生自身が自主的にボランティア団体やボランティア募集、講座の情報を集めて、参加してくれることを期待する。もちろん、本学も、ボランティアに関する情報を頻りに提供するので（掲示板、メール連絡など）参考にしてもらいたい。</p> <p>ボランティアの内容や期間に関しては、原則として制限はない。自分のしたい活動が「ボランティア」に相当するかどうか、その他の疑問点は担当教員（福永）に確認してほしい。</p> |              |       |
| 教科書            |   |              |       |
| 授業の工夫点         |   |              |       |
| 授業の評価方法        | 原則として、ボランティア団体や企画主体者の参加証明をもって単位を認定する。ただし、本学教員が同行するボランティア、また「証明」の難しいボランティアも当然あるのでその点は考慮する。なるべく担当教員に確認してほしい。1日程度以上の時間を費やすことが望ましいが、これも準備期間などを必要とする場合があるので、必要時間数についても事前に担当教員まで確認してほしい。短時間のボランティアに数回参加して単位とすることも、もちろん可能である。参加者はボランティア後に担当教員まで感想文を提出することで、単位を取得できる。   |              |       |
| 授業のサポート体制      | 教務課員がサポートとしてボランティアに同行   |              |       |
| 学外の関係機関・団体との連携 | 敦賀市行政機関のボランティア活動の内容や企画を協議   |              |       |
| 今後の授業の継続       | 今後も継続   |              |       |

## ○ 富山福祉短期大学

| 授業科目名          |  | ボランティア論      |                                     |
|----------------|--|--------------|-------------------------------------|
| 担当教員（学内又は学外）   | 学外教員   | 授業期間         | 半期                                  |
| 担当教員の専門分野      | ボランティア   | 共通・専門等の別     | 専門                                  |
| 開設学部（学科）及び年次   | 社会福祉学科介護福祉専攻2年前期、<br>社会福祉専攻2年前期  | 授業のレベル       | 初級・入門                               |
| 平成20年度履修者数     |  | 授業区分         | 講義                                  |
| 単位数            | 2  | ボランティア体験の時間数 | 授業時間としては設けていないが、3回以上のボランティア実施を前提に履修 |
| 必修・選択の別        | 選択   |              |                                     |
| 授業目的           | ボランティア（活動）の歴史・理念や日本《富山》におけるボランティア（活動）の現状や課題について学ぶ（体験を含む）ことを通してボランティア（活動）についての理解を深める。   |              |                                     |
| 授業内容           | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2. ボランティア活動の歴史</li> <li>3. ボランティア（活動）の現状と課題</li> <li>4. ボランティア政策の動向</li> <li>5. 自分の町のボランティア活動</li> <li>6. ボランティアセンターとボランティアコーディネーター</li> <li>7. 中間まとめ</li> <li>8. ボランティア活動の実態①</li> <li>9. ボランティア活動の実態②</li> <li>10. 大学生（短大生）とボランティア活動</li> <li>11. 大学生（短大生）とボランティア活動</li> <li>12. 福祉教育とボランティア活動</li> <li>13. 地域福祉活動とボランティア活動</li> <li>14. NPOとボランティア活動</li> <li>15. まとめ</li> </ol> |              |                                     |
| 教科書            | 『基礎から学ぶボランティアの理論と実際』中央法規出版   |              |                                     |
| 授業の工夫点         |  |              |                                     |
| 授業の評価方法        | レポート20%、発表30%、出席・態度20%   |              |                                     |
| 授業のサポート体制      |  |              |                                     |
| 学外の関係機関・団体との連携 |  |              |                                     |
| 今後の授業の継続       | 今後も継続  |              |                                     |

| 授業科目名          |  | NPO論         |       |
|----------------|--|--------------|-------|
| 担当教員（学内又は学外）   | 学外教員   | 授業期間         | 半期    |
| 担当教員の専門分野      | ボランティア   | 共通・専門等の別     | 専門    |
| 開設学部（学科）及び年次   | 社会福祉学科介護福祉専攻2年後期、<br>社会福祉専攻2年後期  | 授業のレベル       | 初級・入門 |
| 平成20年度履修者数     |  | 授業区分         | 講義    |
| 単位数            | 2  | ボランティア体験の時間数 |       |
| 必修・選択の別        | 選択   |              |       |
| 授業目的           | NPOの歴史や理念、存在意義や富山県内のNPOの活動の現状と課題について学ぶことを通して、NPOについて理解を深める。  |              |       |
| 授業内容           | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2. NPOの存在意義</li> <li>3. 日本と世界のNPO①</li> <li>4. 日本と世界のNPO②</li> <li>5. NPOと法律①</li> <li>6. NPOと法律②</li> <li>7. 中間まとめ</li> <li>8. NPOとボランティア</li> <li>9. NPOと地域福祉</li> <li>10. 自分の町のNPO</li> <li>11. NPO活動の実際①</li> <li>12. NPO活動の実際②</li> <li>13. NPOを作ってみよう①</li> <li>14. NPOを作ってみよう②</li> <li>15. まとめ</li> </ol> |              |       |
| 教科書            | 『ボランティア・NPO用語辞典』中央法規出版   |              |       |
| 授業の工夫点         |  |              |       |
| 授業の評価方法        | テスト50%、発表20%、出席・態度20%  |              |       |
| 授業のサポート体制      |  |              |       |
| 学外の関係機関・団体との連携 |  |              |       |
| 今後の授業の継続       | 今後も継続  |              |       |



## ○ 愛知医療学院短期大学

|                |   |              |       |
|----------------|---|--------------|-------|
| 授業科目名          | 地域理学療法学   |              |       |
| 担当教員（学内又は学外）   | 学内教員  | 授業期間         | 半期    |
| 担当教員の専門分野      | 理学療法学   | 共通・専門等の別     | 専門    |
| 開設学部（学科）及び年次   | リハビリテーション学科・理学療法学専攻   | 授業のレベル       | 中級・応用 |
| 平成20年度履修者数     | 計0名（男子学生0名 女子学生0名）  | 授業区分         | 講義、演習 |
| 単位数            | 2   | ボランティア体験の時間数 | 8時間   |
| 必修・選択の別        | 必修  |              |       |
| 授業目的           | <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域リハビリテーション、地域理学療法についての概念を理解する。</li> <li>・障害を持つ人や高齢者を取り巻く社会資源や制度について学ぶ。</li> <li>・介護保険の基本的な制度について学ぶ。</li> <li>・高齢者の身体機能の特徴や疾患の特徴について学ぶ。</li> <li>・在宅生活を支える他職種やそのチームアプローチについて考える。</li> <li>・地域リハビリテーションの中での理学療法士の役割に付いて考え、理解する。</li> </ul> |              |       |
| 授業内容           | 教科書と、適宜配布する資料に沿って講義中心に行う。適宜グループワークを行う。  |              |       |
| 教科書            | 「理学療法MOOK10 高齢者の理学療法」 黒川 幸雄 他編 三輪書店<br>「標準理学療法学 専門分野 地域理学療法学」 牧田 光代 編 医学書院  |              |       |
| 授業の工夫点         |   |              |       |
| 授業の評価方法        | 単位認定は、ペーパー試験、レポート、出席状況、受講態度により評価する。   |              |       |
| 授業のサポート体制      | ある  |              |       |
| 学外の関係機関・団体との連携 | 実際に老人保健施設等を訪問し、ボランティアの体験をする。  |              |       |
| 今後の授業の継続       | 今後も継続   |              |       |

|                |  |              |       |
|----------------|--|--------------|-------|
| 授業科目名          | 地域作業療法学  |              |       |
| 担当教員（学内又は学外）   | 学内教員   | 授業期間         | 半期    |
| 担当教員の専門分野      | 作業療法学  | 共通・専門等の別     | 専門    |
| 開設学部（学科）及び年次   | リハビリテーション学科・作業療法学専攻  | 授業のレベル       | 中級・応用 |
| 平成20年度履修者数     | 計0名（男子学生0名 女子学生0名）   | 授業区分         | 講義、演習 |
| 単位数            | 2  | ボランティア体験の時間数 | 8時間   |
| 必修・選択の別        | 必修   |              |       |
| 授業目的           | <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域リハビリテーション、地域作業療法についての概念を学ぶ。</li> <li>・障害を持つ人や高齢者を取り巻く社会資源や制度について知る。</li> <li>・社会資源に関わる専門職種について理解し、チームアプローチを考える。</li> <li>・地域で求められる作業療法士の役割について理解する。</li> </ul> |              |       |
| 授業内容           | 講義と、施設見学、レクリエーション実習で進める。   |              |       |
| 教科書            | 「地域リハビリテーション論」 大田 仁史 編著 三輪書店   |              |       |
| 授業の工夫点         |  |              |       |
| 授業の評価方法        | レポート課題と筆記試験にて評価する。   |              |       |
| 授業のサポート体制      | ある   |              |       |
| 学外の関係機関・団体との連携 | 実際に老人保健施設等を訪問し、ボランティアの体験をする。   |              |       |
| 今後の授業の継続       | 今後も継続  |              |       |

## ○ 京都文教短期大学

|                |  |              |       |
|----------------|--|--------------|-------|
| 授業科目名          | ボランティア論  |              |       |
| 担当教員（学内又は学外）   | 学外教員   | 授業期間         | 半期    |
| 担当教員の専門分野      | 社会生活環境   | 共通・専門等の別     | 専門    |
| 開設学部（学科）及び年次   | 家政学科人間生活専攻1年次  | 授業のレベル       | 初級・入門 |
| 平成20年度履修者数     | 計58名（男子学生0名 女子学生58名）   | 授業区分         | 講義    |
| 単位数            | 2  | ボランティア体験の時間数 | 0時間   |
| 必修・選択の別        | 選択   |              |       |
| 授業目的           | <ul style="list-style-type: none"> <li>・さまざまなボランティア活動について学ぶ。</li> <li>・ボランティアの意義と課題を理解し、自ら考え実践的に取り組む力を養う。</li> </ul>                       |              |       |
| 授業内容           | ボランティアが現代社会で果たす意義を理解する。その上でさまざまなボランティア活動の事例を学ぶとともに、ボランティアにたずさわるとボランティアを受ける側の双方の意識について考える。15回の講義をとおし、「常識」にとらわれずにボランティアに携わることができる能力を身につけていく。 |              |       |
| 教科書            | なし   |              |       |
| 授業の工夫点         | 毎授業時に各自にリアクション・ペーパーを課すことで実践力を養う。   |              |       |
| 授業の評価方法        | 毎授業時のリアクション・ペーパー、後期末レポート   |              |       |
| 授業のサポート体制      | ない   |              |       |
| 学外の関係機関・団体との連携 | ない   |              |       |
| 今後の授業の継続       | 今後も継続  |              |       |

|                |   |              |       |
|----------------|---|--------------|-------|
| 授業科目名          | ケア論   |              |       |
| 担当教員（学内又は学外）   | 学内教員  | 授業期間         | 半期    |
| 担当教員の専門分野      | 人間関係  | 共通・専門等の別     | 専門    |
| 開設学部（学科）及び年次   | 家政学科人間生活専攻2年次   | 授業のレベル       | 初級・入門 |
| 平成20年度履修者数     | 計2名（男子学生0名 女子学生2名）  | 授業区分         | 講義、演習 |
| 単位数            | 2   | ボランティア体験の時間数 | 7時間程度 |
| 必修・選択の別        | 選択  |              |       |
| 授業目的           | 各自がケアの営みを省みる中で、ケアとは他人に生きる力を与えることだけではなく、他人から生きる力を与えてもらう相互性を持った関わりであることに気付く。  |              |       |
| 授業内容           | 「ケア」という言葉は、これまで「医療・福祉」の分野で「看護」「介護」と言った、より特定された文脈である行為をしめすものとして用いられてきた。本科目では、そうした医療や福祉等の文脈に論を絞り込むのではなく、学生一人ひとりのケアの体験とその省察から、実践に裏付けられたケアの知を探り、「人間にとってケアとは何か」を考える。 |              |       |
| 教科書            | 『ケアを問いなおす』（広井良典・著）  |              |       |
| 授業の工夫点         |   |              |       |
| 授業の評価方法        | ケアの営みへの参加、授業への取り組み、事例研究・レポート  |              |       |
| 授業のサポート体制      | ない  |              |       |
| 学外の関係機関・団体との連携 | ない  |              |       |
| 今後の授業の継続       | 今後も継続   |              |       |

|                |  |              |       |
|----------------|--|--------------|-------|
| 授業科目名          | 子育て支援  |              |       |
| 担当教員（学内又は学外）   | 学外教員   | 授業期間         | 半期    |
| 担当教員の専門分野      | 臨床心理   | 共通・専門等の別     | 専門    |
| 開設学部（学科）及び年次   | 児童教育学科1年次  | 授業のレベル       | 初級・入門 |
| 平成20年度履修者数     | 計35名（男子学生0名 女子学生35名）   | 授業区分         | 演習    |
| 単位数            | 2  | ボランティア体験の時間数 | 0時間   |
| 必修・選択の別        | 選択   |              |       |
| 授業目的           | <ul style="list-style-type: none"> <li>・「子育て」をめぐる今の日本と世界の現状をマクロな視点から理解すること</li> <li>・それを踏まえて身近な“地域（コミュニティ）”の中でメゾレベルで行動しながらどのような支援ができるのかを考え、学ぶこと</li> <li>・そう遠くない将来自分も「親になりうる」という自分自身の問題としてミクロレベルの視点で「子育て」と「子育て支援」を考え、学ぶこと</li> </ul> |              |       |
| 授業内容           | 「子育て」をめぐるさまざまな問題の背景を踏まえながら、いつか親になる当事者としての視点と、親子の育ちを支援する支援者としての視点の両方から学びを進める。   |              |       |
| 教科書            | なし   |              |       |
| 授業の工夫点         |  |              |       |
| 授業の評価方法        | 出席日数、授業への参加態度、グループワーク及びディスカッションへの参加度、毎時間毎の小レポートの内容、試験  |              |       |
| 授業のサポート体制      | ない   |              |       |
| 学外の関係機関・団体との連携 | ない   |              |       |
| 今後の授業の継続       | 今後も継続  |              |       |

|                |  |              |       |
|----------------|--|--------------|-------|
| 授業科目名          | 子育て支援活動  |              |       |
| 担当教員（学内又は学外）   | 学外教員   | 授業期間         | 集中授業  |
| 担当教員の専門分野      | 臨床心理   | 共通・専門等の別     | 専門    |
| 開設学部（学科）及び年次   | 児童教育学科2年次  | 授業のレベル       | 初級・入門 |
| 平成20年度履修者数     | 計22名（男子学生0名 女子学生22名）   | 授業区分         | 演習    |
| 単位数            | 2  | ボランティア体験の時間数 | 30時間  |
| 必修・選択の別        | 選択   |              |       |
| 授業目的           | <ul style="list-style-type: none"> <li>・実際の現場で、親子への関わりを身をもって学ぶこと</li> <li>・既に支援をしている人たちから、支援のあり方を身をもって学ぶこと</li> <li>・さまざまな支援のあり方があることを、身をもって学ぶこと</li> <li>・お互いに経験してきたことをグループワークで討議して仲間と体験をシェアすること</li> </ul> |              |       |
| 授業内容           | 前年度の「子育て支援」で学んだことを下に、2年次では1年間を通じて実際の子育て支援の現場へ支援活動に出かける。数ヶ所の子育てのひろばへ出かけて体験的に学ぶ。   |              |       |
| 教科書            | なし   |              |       |
| 授業の工夫点         |  |              |       |
| 授業の評価方法        | 施設での支援活動への参加率、支援活動及びグループワーク等の授業への参加態度・報告記録の内容、定期的に課す小レポートの内容、年度末の総合レポート  |              |       |
| 授業のサポート体制      | 専任教員3名のグループ  |              |       |
| 学外の関係機関・団体との連携 | 宇治市、NPO法人働きたいおんなたちのネットワーク  |              |       |
| 今後の授業の継続       | 今後も継続  |              |       |

## ○ 京都西山短期大学

|                |   |              |       |
|----------------|---|--------------|-------|
| 授業科目名          | ボランティア論ⅠⅡ   |              |       |
| 担当教員(学内又は学外)   | 学内教員  | 授業期間         | 通年    |
| 担当教員の専門分野      | 障害児保育   | 共通・専門等の別     | 専門    |
| 開設学部(学科)及び年次   | 仏教学科仏教学専攻福祉コース1年次   | 授業のレベル       | 初級・入門 |
| 平成20年度履修者数     | 計7名(男子学生4名 女子学生3名)  | 授業区分         | 講義    |
| 単位数            | 4   | ボランティア体験の時間数 | 13時間  |
| 必修・選択の別        | 選択  |              |       |
| 授業目的           | 21世紀は福祉の社会と言われています。一人ひとりが自分の意志をしっかりと持ち共に、互いにその持てる力を生かして支え合う社会です。本講ではボランティア活動について事例を含めて学習を行い、その技術や課題についての理解も深めます。  |              |       |
| 授業内容           | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2. ボランティア活動の理論と役割</li> <li>3. ボランティアとは</li> <li>4. ボランティアに期待される社会的役割</li> <li>5. ボランティア活動の基本的性格</li> <li>6. ボランティア活動の定義</li> <li>7. ボランティア活動を始めるには①</li> <li>8. ボランティア活動を始めるには②</li> <li>9. 事例研究①</li> <li>10. 事例研究②</li> <li>11. 事例研究③</li> <li>12. 発表</li> <li>13. 授業のまとめ①</li> <li>14. 授業のまとめ②</li> <li>15. 試験</li> </ol> |              |       |
| 教科書            | なし(適宜資料配布)  |              |       |
| 授業の工夫点         |   |              |       |
| 授業の評価方法        | 出席・受講態度・レポートを総合的に評価します。   |              |       |
| 授業のサポート体制      | ない  |              |       |
| 学外の関係機関・団体との連携 | ない  |              |       |
| 今後の授業の継続       | 今後も継続   |              |       |

## ○ プール学院大学短期大学部

|                |   |              |         |
|----------------|---|--------------|---------|
| 授業科目名          | 社会福祉  |              |         |
| 担当教員(学内又は学外)   | 学内教員  | 授業期間         | 半期      |
| 担当教員の専門分野      | 社会福祉  | 共通・専門等の別     | 専門      |
| 開設学部(学科)及び年次   | 幼児教育保育学科1年次   | 授業のレベル       | その他(概要) |
| 平成20年度履修者数     | 計59名(女子学生59名)   | 授業区分         | 講義      |
| 単位数            | 2   | ボランティア体験の時間数 | なし      |
| 必修・選択の別        | 必修  |              |         |
| 授業目的           | 社会福祉の意義・理念・法的制度の概要理解  |              |         |
| 授業内容           | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 現代社会と社会福祉の意義             <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 社会福祉の理念と概念(2) 社会福祉の対象と主体(3) 社会福祉ニーズの変容(4) 社会福祉の発展</li> </ol> </li> <li>2. 社会福祉の法体系と実施体系             <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 社会福祉法制の体系(2) 社会福祉のサービス実施体系(3) 社会福祉サービスの評価と情報提供(4) 社会福祉の財政と費用負担(5) 社会福祉サービスにおける公私の役割(6) 社会保障及び関連制度の概要</li> </ol> </li> <li>3. 社会福祉援助技術の概要             <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 社会福祉援助技術の発展経緯(2) 社会福祉援助技術の形態と方法(3) 社会福祉援助活動の動向</li> </ol> </li> <li>4. 社会福祉専門職             <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 社会福祉従事者の概要(2) 社会福祉従事者の専門性と倫理(3) 保健・医療関係分野の専門職との連携</li> </ol> </li> <li>5. 社会福祉の動向             <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 少子高齢社会への対応(2) 在宅福祉・地域福祉の推進(3) 社会福祉基礎構造改革の進展(4) ボランティア活動の推進(5) 諸外国の動向</li> </ol> </li> <li>6. 利用者保護制度の概要             <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 第三者評価(2) 苦情解決(3) 権利擁護(4) 情報提供</li> </ol> </li> </ol> |              |         |
| 教科書            | 『はじめて出会う社会福祉』相川書房2005年  |              |         |
| 授業の工夫点         |   |              |         |
| 授業の評価方法        | 定期試験70%、課題提出10%、学習態度10%、出席状況10%   |              |         |
| 授業のサポート体制      | ない  |              |         |
| 学外の関係機関・団体との連携 | ない  |              |         |
| 今後の授業の継続       | 今後も継続   |              |         |

|                |  |              |       |
|----------------|--|--------------|-------|
| 授業科目名          | ボランティア活動論  |              |       |
| 担当教員（学内又は学外）   | 学内教員   | 授業期間         | 半期    |
| 担当教員の専門分野      | 福祉社会学  | 共通・専門等の別     | 共通    |
| 開設学部（学科）及び年次   | 秘書科1年次生、幼児教育保育学科2年次生   | 授業のレベル       | 初級・入門 |
| 平成20年度履修者数     | 計73名（女子学生73名）  | 授業区分         | 講義    |
| 単位数            | 2  | ボランティア体験の時間数 | なし    |
| 必修・選択の別        | 選択   |              |       |
| 授業目的           | ボランティア活動の社会的な役割理解、ボランティア活動への動機づけ   |              |       |
| 授業内容           | 第1回 はじめに／第2回 ボランティア活動とは何か／第3回 ボランティア、NPO、NGO／第4回 ボランティアマネジメントとは何か／第5回 ロール・プレイ／第6回 バリアフリー・チェック(1)／第7回 バリアフリー・チェック(2)／第8回 地域通貨とボランティア／第9回 環境問題とボランティア(1)／第10回 環境問題とボランティア(2)／第11回 国際協力とボランティア／第12回 ボランティアの組織化(1)／第13回 ボランティアの組織化(2)／第14回 まとめ |              |       |
| 教科書            | 必要に応じて資料(プリント)を配布します。  |              |       |
| 授業の工夫点         | 授業内容にワークショップを含む。   |              |       |
| 授業の評価方法        | 中間レポート・学期末の試験各40%、毎回の課題提出20%   |              |       |
| 授業のサポート体制      | ない   |              |       |
| 学外の関係機関・団体との連携 | ない   |              |       |
| 今後の授業の継続       | その他(2010年度より科目廃止予定)  |              |       |

## ○ 神戸山手短期大学

|                |  |              |                     |
|----------------|--|--------------|---------------------|
| 授業科目名          | 福祉とボランティア  |              |                     |
| 担当教員（学内又は学外）   | 学外教員   | 授業期間         | その他(前・後期各1コマ)       |
| 担当教員の専門分野      | 社会福祉   | 共通・専門等の別     | その他(学科により共通・専門が異なる) |
| 開設学部（学科）及び年次   | 全学科1・2年次対象   | 授業のレベル       | 初級・入門               |
| 平成20年度履修者数     | 計14名（男子学生1名 女子学生13名）   | 授業区分         | 講義                  |
| 単位数            | 2  | ボランティア体験の時間数 | 8時間                 |
| 必修・選択の別        | 選択   |              |                     |
| 授業目的           | 社会福祉施設の体系を学習し、実際に高齢者又は障害者施設で2日間の福祉施設体験学習を通じ、利用者とのふれあい、交流、施設の運営を理解する。   |              |                     |
| 授業内容           | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 社会福祉施設とは、ボランティアとは</li> <li>2. 高齢者の施設</li> <li>3. 児童福祉・障害児にかかわる施設</li> <li>4. 障害者(知的、身体、精神障害)にかかわる施設</li> <li>5. 生活保護施設及び地域福祉の内容</li> <li>6. 介護体験にあたってのQ&amp;A、車椅子介助実習、福祉体験学習の心構え</li> <li>7. グループ単位で受け入れ施設オリエンテーション</li> </ol> <p>上記7回の教室講義の後、2日間の福祉施設体験学習を行う。前期の講義開始日は5月下旬、福祉体験学習は7月下旬で、後期の講義開始日は11月下旬、福祉体験学習は2月初旬。体験学習は必須であり休休以外の欠席は認められない。また、授業中の受講態度の不適格な者は、実習受講を認めない。</p> |              |                     |
| 教科書            | 新版<br>よくわかる社会福祉施設—教員免許志願者のためのガイドブック—   |              |                     |
| 授業の工夫点         | 学内における車椅子介助実習  |              |                     |
| 授業の評価方法        | 課題レポート、福祉体験日誌、福祉体験感想文  |              |                     |
| 授業のサポート体制      | ない   |              |                     |
| 学外の関係機関・団体との連携 | 社会福祉施設、数力所   |              |                     |
| 今後の授業の継続       | 今後も継続  |              |                     |

## ○ 園田学園女子大学短期大学部

|                |   |              |       |
|----------------|---|--------------|-------|
| 授業科目名          | ボランティア活動理論と方法   |              |       |
| 担当教員(学内又は学外)   | 学外教員  | 授業期間         | 集中授業  |
| 担当教員の専門分野      |   | 共通・専門等の別     | 共通    |
| 開設学部(学科)及び年次   | 全学部1年次  | 授業のレベル       | 初級・入門 |
| 平成20年度履修者数     | 計5名(男子学生0名 女子学生5名)  | 授業区分         | 講義    |
| 単位数            | 2   | ボランティア体験の時間数 | なし    |
| 必修・選択の別        | 選択  |              |       |
| 授業目的           | ボランティアやNPOに関する基本的な概念や理論の理解を促すとともに、必要に応じてゲストスピーカーを招いてボランティア活動の多様性や学生としての参加の可能性などを紹介する。受講者はボランティアに関する知識の習得のみを目指すのではなく、ボランティアやNPOについて学ぶことを通じて市民社会や地域社会に関心を持つとともにボランティアやNPOを含む社会の文化的・社会経済的背景に目を向けて欲しい。授業を通して、ボランティアを身近に感じ、自分自身でも何かを始めてみようと感じてもらえれば、本講義の目的は達成される。  |              |       |
| 授業内容           | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. イントロダクションー講義の進め方ーボランティア活動を学ぶことの意義</li> <li>2. ボランティアとは？</li> <li>3. ゲストスピーカーによるミニ講演</li> <li>4. 市民活動の諸相</li> <li>5. NPOとは？</li> <li>6. 災害救援とボランティア①</li> <li>7. 災害救援とボランティア②</li> <li>8. ゲストスピーカーによるミニ講演②</li> <li>9. 市民活動と資金</li> <li>10. わが国のNPO事情・アメリカ社会のNPO事情</li> <li>11. 実践事例①</li> <li>12. 実践事例②</li> <li>13. ボランティア活動の多様性の理解</li> <li>14. 講義のまとめ</li> <li>15. 試験</li> </ol> |              |       |
| 教科書            | 適宜資料配布  |              |       |
| 授業の工夫点         | ゲストスピーカーを取り入れている。   |              |       |
| 授業の評価方法        | 筆記試験、出席点、授業態度   |              |       |
| 授業のサポート体制      | ない  |              |       |
| 学外の関係機関・団体との連携 | ない  |              |       |
| 今後の授業の継続       | 今後も継続   |              |       |

## ○ 武庫川女子大学短期大学部

|                |   |              |    |
|----------------|---|--------------|----|
| 授業科目名          | 生きがい探しのボランティア論  |              |    |
| 担当教員(学内又は学外)   | 学外教員  | 授業期間         | 半期 |
| 担当教員の専門分野      |   | 共通・専門等の別     | 共通 |
| 開設学部(学科)及び年次   | 共通教育(全学部、全学科、全学年)   | 授業のレベル       |    |
| 平成20年度履修者数     | 計71名(男子学生0名 女子学生71名)  | 授業区分         | 講義 |
| 単位数            | 2   | ボランティア体験の時間数 |    |
| 必修・選択の別        | 選択  |              |    |
| 授業目的           | 生きがいとは、本来自分自身で見つけるものです。他人に強制されるものではありません。人生の入り口にいる若い皆さんが、ボランティアという行為を通じて少しでも自分自身の長所に気づき他者への温かい眼差しが持て、また自分で考え行動できる人になれることを望んでいます。  |              |    |
| 授業内容           | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 生きがいとは？ー生きることの意味について</li> <li>2. 社会福祉とは？</li> <li>3. ボランティアの歴史と意義</li> <li>4. ボランティアの活動の場と範囲(平常時と非常時の対応ー阪神・淡路大震災を例に)</li> <li>5. ボランティアの心構えーマナーとエチケットー</li> <li>6. グループワーク～自己覚知ー自分を知らうー</li> <li>7. グループワーク～コミュニケーションスキル①ー</li> <li>8. グループワーク～コミュニケーションスキル②ー</li> <li>9. ボランティアに行く前にー障害を持つ人とどう付き合えばいいの</li> <li>10. ネパールで学校を建てた身体障害者の人がいる</li> <li>11. ボランティア実践論①</li> <li>12. ボランティア実践論②</li> <li>13. グループワーク～振り返りの授業(まとめ)</li> </ol> |              |    |
| 教科書            | [福祉キーワードシリーズ]ボランティア・NPO(雨宮孝子・山谷直道・和田敏明)   |              |    |
| 授業の工夫点         |   |              |    |
| 授業の評価方法        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・レポート[作品含む](50点)</li> <li>・平常点等(50点) 配点内訳: 毎回の講義終了時に出席票を兼ね、感想と質問を書かせる。</li> <li>・レポートは、最終講義日に課題を提示、後日に提出。</li> </ul>   |              |    |
| 授業のサポート体制      |   |              |    |
| 学外の関係機関・団体との連携 |   |              |    |
| 今後の授業の継続       | 今後も継続   |              |    |

|                |   |              |    |
|----------------|---|--------------|----|
| 授業科目名          | ボランティア論   |              |    |
| 担当教員(学内又は学外)   | 学外教員  | 授業期間         | 半期 |
| 担当教員の専門分野      |   | 共通・専門等の別     | 専門 |
| 開設学部(学科)及び年次   | 文学部(心理・社会福祉学科2年次)   | 授業のレベル       |    |
| 平成20年度履修者数     | 計125名(男子学生0名 女子学生125名)  | 授業区分         | 講義 |
| 単位数            | 2   | ボランティア体験の時間数 |    |
| 必修・選択の別        | 選択  |              |    |
| 授業目的           | ボランティアに関する基本的な知識を深めながら、「福祉」という枠にとらわれず、さまざまな主体によるボランタリーな活動を構造的にとらえ、自己、他者、社会への理解を深める。また、ボランティア活動(市民活動)を組織する立場に立ってボランティア活動の可能性を考察する。   |              |    |
| 授業内容           | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ボランティア活動についての基本理解 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 自己理解ーボランティアリズムを探る</li> <li>(2) 人間理解ー利己的か利他的か</li> <li>(3) 地域理解ー多様な主体を探る</li> </ol> </li> <li>2. ボランティア活動の展開 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 地域の課題を発見する</li> <li>(2) 多様なボランティア活動を知る</li> <li>(3) ボランティア活動の始め方</li> <li>(4) ボランティア活動の課題</li> <li>(5) ボランティア活動と教育とのかかわり</li> <li>(6) 国際ボランティアとNGO</li> </ol> </li> <li>3. ボランティア活動を組織する <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) ボランティアマネジメント</li> <li>(2) ボランティアコーディネーター</li> <li>(3) 市民社会と新たな公共</li> </ol> </li> </ol> |              |    |
| 教科書            | 学生のためのボランティア論(岡本榮一・菅井直也・妻鹿ふみ子)  |              |    |
| 授業の工夫点         |   |              |    |
| 授業の評価方法        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・試験期間中に試験を実施(20点)</li> <li>・レポート[作品含む](50点)</li> <li>・平常点等(30点) 配点内訳:出席状況とクラス参加状況</li> <li>・レポートは、個人課題とグループ課題を設ける。</li> </ul>  |              |    |
| 授業のサポート体制      |   |              |    |
| 学外の関係機関・団体との連携 |   |              |    |
| 今後の授業の継続       | 未定  |              |    |

|                |   |              |    |
|----------------|---|--------------|----|
| 授業科目名          | ボランティア論   |              |    |
| 担当教員(学内又は学外)   | 学外教員  | 授業期間         | 半期 |
| 担当教員の専門分野      |   | 共通・専門等の別     | 専門 |
| 開設学部(学科)及び年次   | 短期大学部(人間関係学科2年次)  | 授業のレベル       |    |
| 平成20年度履修者数     | 計75名(男子学生0名 女子学生75名)  | 授業区分         | 講義 |
| 単位数            | 2   | ボランティア体験の時間数 |    |
| 必修・選択の別        | 選択  |              |    |
| 授業目的           | 誰もが安心して暮らすことのできる『まちづくり』のために、地域住民としてのボランティアへの参加が求められている。しかし、ともすれば知識と理屈の先行するボランティアにならないためにどうあるべきかを考える機会とする。   |              |    |
| 授業内容           | <ol style="list-style-type: none"> <li>1 ボランティアに関わる青年像</li> <li>2 点字ブロックは誰のため?</li> <li>3 手話歌は先入観が...</li> <li>4 ボランティアと国際理解</li> <li>5 プルタブ・ベルマーク・古切手...どこへ行くの?</li> <li>6 いきいきサロンと認知症予防</li> <li>7 自然災害とボランティア</li> <li>8 学校教育でのボランティア学習 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 子どもたちにこそ知ってほしいボランティア</li> <li>(2) 子どもたちへの、ボランティアかるたをつくろう!(2回)</li> </ol> </li> <li>9 児童館などでの子育てボランティア</li> <li>10 こうのとりのプラチナと地域おこし</li> <li>11 NPOって何だろう?</li> <li>12 ボランティアによる『まちづくり』</li> <li>13 ボランティア社会の将来</li> </ol> |              |    |
| 教科書            | ボランティア みんな知ってる?[ジュニア版](全国社会福祉協議会)   |              |    |
| 授業の工夫点         |   |              |    |
| 授業の評価方法        | <ul style="list-style-type: none"> <li>・レポート[作品含む](40点)</li> <li>・平常点等(60点) 配点内訳:授業中に実施する小テスト(2回、各20点)、出席点・課題(20点)</li> </ul>   |              |    |
| 授業のサポート体制      |   |              |    |
| 学外の関係機関・団体との連携 |   |              |    |
| 今後の授業の継続       | 未定  |              |    |

## ○ 甲子園短期大学

| 授業科目名          | 保育総合表現   |              |       |
|----------------|--|--------------|-------|
| 担当教員(学内又は学外)   | 学内教員   | 授業期間         | 半期    |
| 担当教員の専門分野      | レクリエーション   | 共通・専門等の別     | 専門    |
| 開設学部(学科)及び年次   | 幼児教育保育学科1年   | 授業のレベル       | 中級・応用 |
| 平成20年度履修者数     | 計44名(女子学生44名)  | 授業区分         | 演習    |
| 単位数            | 1  | ボランティア体験の時間数 | 9時間   |
| 必修・選択の別        | 必修   |              |       |
| 授業目的           | レクリエーション計画の作成能力を習得向上とレクリエーション活動の実践能力を習得向上し、支援者としての役割を理解する。 |              |       |
| 授業内容           | レクリエーションインストラクター ■取得の必修科目                                  |              |       |
| 教科書            | 「レクリエーション支援の基礎」  |              |       |
| 授業の工夫点         |  |              |       |
| 授業の評価方法        | レポート、出席状況、実技の習得状況  |              |       |
| 授業のサポート体制      | ない   |              |       |
| 学外の関係機関・団体との連携 | 県レクリエーション協会  |              |       |
| 今後の授業の継続       | 今後も継続  |              |       |

| 授業科目名          | レクリエーション演習A   |              |       |
|----------------|---|--------------|-------|
| 担当教員(学内又は学外)   | 学内教員  | 授業期間         | 半期    |
| 担当教員の専門分野      | レクリエーション  | 共通・専門等の別     | 専門    |
| 開設学部(学科)及び年次   | 幼児教育保育学科1年  | 授業のレベル       | 初級・入門 |
| 平成20年度履修者数     | 計37名(女子学生37名)   | 授業区分         | 演習    |
| 単位数            | 1   | ボランティア体験の時間数 | 9時間   |
| 必修・選択の別        | 選択  |              |       |
| 授業目的           | レクリエーション計画の作成能力を習得向上とレクリエーション活動の実践能力を習得向上し、支援者としての役割を理解する。対人援助の基礎を学ぶ。 |              |       |
| 授業内容           | レクリエーション計画の作成能力を習得向上とレクリエーション活動の実践能力を習得向上し、支援者としての役割を理解する。対人援助の基礎を学ぶ。 |              |       |
| 教科書            | 「楽しい盛り上がるレクリエーション・ゲーム集107」  |              |       |
| 授業の工夫点         |   |              |       |
| 授業の評価方法        | レポート、出席状況、実技の習得状況   |              |       |
| 授業のサポート体制      | ない  |              |       |
| 学外の関係機関・団体との連携 | 県レクリエーション協会   |              |       |
| 今後の授業の継続       | 今後も継続   |              |       |

| 授業科目名          | レクリエーション活動援助法   |              |       |
|----------------|---|--------------|-------|
| 担当教員(学内又は学外)   | 学内教員  | 授業期間         | 通年    |
| 担当教員の専門分野      | レクリエーション  | 共通・専門等の別     | 専門    |
| 開設学部(学科)及び年次   | 家政学科1年  | 授業のレベル       | 初級・入門 |
| 平成20年度履修者数     | 計14名(男子学生名 女子学生14名)   | 授業区分         | 演習    |
| 単位数            | 1   | ボランティア体験の時間数 | 9時間   |
| 必修・選択の別        | 必修  |              |       |
| 授業目的           | レクリエーション計画の作成能力を習得向上とレクリエーション活動の実践能力を習得向上し、支援者としての役割を理解する。対人援助の基礎を学ぶ。 |              |       |
| 授業内容           | 福祉現場におけるレクリエーション計画の作成能力の習得向上と実践援助能力を習得向上をめざす。                         |              |       |
| 教科書            | 「やさしいレクリエーション・ゲーム」  |              |       |
| 授業の工夫点         |   |              |       |
| 授業の評価方法        | レポート、出席状況、実技の習得状況   |              |       |
| 授業のサポート体制      | ない  |              |       |
| 学外の関係機関・団体との連携 | 県レクリエーション協会   |              |       |
| 今後の授業の継続       | 今後も継続   |              |       |

|                |   |              |       |
|----------------|---|--------------|-------|
| 授業科目名          | レクリエーション概論  |              |       |
| 担当教員（学内又は学外）   | 学内教員  | 授業期間         | 半期    |
| 担当教員の専門分野      | レクリエーション  | 共通・専門等の別     | 共通    |
| 開設学部(学科)及び年次   | 家政学科、幼児教育保育学科、文化情報学科  | 授業のレベル       | 初級・入門 |
| 平成20年度履修者数     | 計40名（男子学生名 女子学生40名）   | 授業区分         | 講義    |
| 単位数            | 2   | ボランティア体験の時間数 | 9時間   |
| 必修・選択の別        | 選択  |              |       |
| 授業目的           | レクリエーション活動の社会的意義について理解する。レクリエーション活動の支援者としての役割について理解する。                              |              |       |
| 授業内容           | レクリエーション・インストラクター ■取得の必修科目、レクリエーション活動の普及・推進をめざす、人々の生きる喜びを生み出す「レクリエーション支援」に商店をあてている。 |              |       |
| 教科書            |   |              |       |
| 授業の工夫点         |   |              |       |
| 授業の評価方法        | レポート、出席状況、実技の習得状況   |              |       |
| 授業のサポート体制      |   |              |       |
| 学外の関係機関・団体との連携 |   |              |       |
| 今後の授業の継続       |   |              |       |

|                |  |              |       |
|----------------|--|--------------|-------|
| 授業科目名          | 救急と介護  |              |       |
| 担当教員（学内又は学外）   | 学内教員   | 授業期間         | 半期    |
| 担当教員の専門分野      | 介護福祉   | 共通・専門等の別     | 共通    |
| 開設学部(学科)及び年次   | 家政学科1年   | 授業のレベル       | 初級・入門 |
| 平成20年度履修者数     | 計14名（男子学生名 女子学生14名）  | 授業区分         | 実習    |
| 単位数            | 1  | ボランティア体験の時間数 | 6時間   |
| 必修・選択の別        | 選択   |              |       |
| 授業目的           | 緊急時における応急手当の方法を正しく理解し、実践できる知識と技術を習得する。要介護者における基本的な介護の知識と技術を習得する。                               |              |       |
| 授業内容           | 移動、移乗、食事当の身体介護技術と環境整備等の生活援助技術を習得する。緊急時に必要な応急手当の基礎知識と基礎実技を習得する。ボランティア活動により要介護者の生活と心身の状況の理解に勤める。 |              |       |
| 教科書            |  |              |       |
| 授業の工夫点         | 学生自らがボランティアの選択、交渉を行い実践しレポートする。   |              |       |
| 授業の評価方法        | レポート、出席状況、実技の習得状況  |              |       |
| 授業のサポート体制      | ある   |              |       |
| 学外の関係機関・団体との連携 | ない   |              |       |
| 今後の授業の継続       | 今後も継続  |              |       |

## ○ 東大阪大学短期大学部

|                |  |              |       |
|----------------|--|--------------|-------|
| 授業科目名          | ボランティア演習   |              |       |
| 担当教員（学内又は学外）   | 学内教員   | 授業期間         | 半期    |
| 担当教員の専門分野      | 生活福祉   | 共通・専門等の別     | 専門    |
| 開設学部(学科)及び年次   | 健康福祉学科2年次生   | 授業のレベル       | 初級・入門 |
| 平成20年度履修者数     | 計1名（女子学生1名）  | 授業区分         | 演習    |
| 単位数            | 2  | ボランティア体験の時間数 | 6時間   |
| 必修・選択の別        | 選択   |              |       |
| 授業目的           | ボランティア活動について理解し、活動を通して社会性や豊かな人間性を育む  |              |       |
| 授業内容           | ボランティアの思想と歴史、地域社会におけるボランティア活動の意義と役割を理解する。市民と協働による福祉の向上を目指し、支援を必要とするさまざまな対象への総合支援の実現をめざす。 |              |       |
| 教科書            | レジュメ・資料等   |              |       |
| 授業の工夫点         | 特になし   |              |       |
| 授業の評価方法        | 出席状況・受講態度・計画・報告書提出、発表・レポートの総合評価  |              |       |
| 授業のサポート体制      | ない   |              |       |
| 学外の関係機関・団体との連携 | 社会福祉施設   |              |       |
| 今後の授業の継続       | 今後も継続  |              |       |



## ○ 近畿大学豊岡短期大学

|                |  |              |                                   |
|----------------|--|--------------|-----------------------------------|
| 授業科目名          | ボランティア(実習)   |              |                                   |
| 担当教員(学内又は学外)   | 学内教員   | 授業期間         | その他(2年通年(事前事後指導15週+ボランティア実習45時間)) |
| 担当教員の専門分野      | 子ども学 音楽  | 共通・専門等の別     | 専門                                |
| 開設学部(学科)及び年次   | 子ども学科 1・2年次対象  | 授業のレベル       | 初級・入門                             |
| 平成20年度履修者数     | 計54名(男子学生9名 女子学生45名)   | 授業区分         | 実習                                |
| 単位数            |  | ボランティア体験の時間数 | 45時間                              |
| 必修・選択の別        |  |              |                                   |
| 授業目的           | 本学ではこれまで、地域交流や社会福祉施設等における多種多様な学生のボランティア活動を積極的に奨励してきました。学生の努力に報いるために、こうした活動を単位として認定し、一層の推進を図ります。  |              |                                   |
| 授業内容           | 各種団体・企業等において、45時間以上のボランティア実習を行います。はじめに1年前期の事前指導で留意事項、プライバシー・個人情報への配慮事項について説明します。活動は様々ですので、自分が参加したいと思う場所や日時などを決め、本学の担当者に事前申請した上で、実際に活動を行います。実習日には必ず所定の実習日誌を作成し、確認印を受けて提出してください。その後、2年後期に事後指導を受けながら実習の成果や課題について考察し、実習報告書を本学に提出した上で、最終的に2年後期の終了時に単位認定します。 |              |                                   |
| 教科書            |  |              |                                   |
| 授業の工夫点         | 事前シミュレーションによる予備知識の取得   |              |                                   |
| 授業の評価方法        | 実習日誌と実習報告書の内容により評価を行います。   |              |                                   |
| 授業のサポート体制      | ない   |              |                                   |
| 学外の関係機関・団体との連携 | 豊岡市の保育所との連携による保育ボランティア等  |              |                                   |
| 今後の授業の継続       | 今後も継続  |              |                                   |

## ○ 京都嵯峨芸術大学短期大学部

|                |   |              |           |
|----------------|---|--------------|-----------|
| 授業科目名          | 総合プロジェクト(ボランティア)  |              |           |
| 担当教員(学内又は学外)   | 学外教員  | 授業期間         | 半期        |
| 担当教員の専門分野      | 教育社会学   | 共通・専門等の別     | 共通        |
| 開設学部(学科)及び年次   | 美術学科1~2年次   | 授業のレベル       | 初級・入門     |
| 平成20年度履修者数     | 計6名(男子学生0名 女子学生6名)  | 授業区分         | 演習        |
| 単位数            | 2   | ボランティア体験の時間数 | 個人によって異なる |
| 必修・選択の別        | 選択  |              |           |
| 授業目的           | <p>1995年1月17日に起きた阪神大震災は、ボランティアによる救援活動の重要性を広く一般に認識させるきっかけとなった。行政の機能が麻痺状態となった時に、ボランティアなしには復興活動ができなかったからである。この災害の年は、のちに「ボランティア元年」ともいわれるようになり、以後、とりわけ若者を中心にボランティアへの積極的な参加・関心が集まってきたのである。こうした変化は「ボランティア革命」とも呼ばれている。</p> <p>本講では、こうしたボランティア活動の理念を解説し、ボランティアへの理解を深めた上で、各受講生の自主的な計画に基づき、担当者と相談しながら受講者自らがボランティア活動をし、これを学習することを目的とする。</p> <p>本プロジェクトは、講義が中心なのではなく、受講生が自らボランティア活動を実践することを前提としたものであるため、全員に集合してもらうことは初回をふくめて最小限にとどめ、その後は必要に応じてメールや報告書を通して受講生への指導・援助をおこなうものとする。</p> |              |           |
| 授業内容           | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. イントロダクション</li> <li>2. ボランティア領域の現在</li> <li>3. 現代社会におけるボランティアの位置</li> <li>4. ボランティア活動の設定・計画</li> <li>5. ボランティア活動の実施と報告</li> <li>6. まとめと反省</li> </ol>   |              |           |
| 教科書            | 使用しない   |              |           |
| 授業の工夫点         | 身近な、ちょっとしたボランティア活動でもかまわない。本プロジェクトがそのきっかけ作りとなればよいと思っている。実際にボランティア活動をおこなうため、積極的な参加姿勢が求められる。ボランティアの情報提供も適宜おこなうが、その内容は身近な活動から芸術大学生の特性を生かしたもので、幅広い活動としてとらえて欲しい。  |              |           |
| 授業の評価方法        | ボランティア活動中に提出する中間報告と、終了後に提出する事後報告書(レポート)によって評価する。  |              |           |
| 授業のサポート体制      | ない  |              |           |
| 学外の関係機関・団体との連携 | ない  |              |           |
| 今後の授業の継続       | 今後も継続   |              |           |

## ○ 京都経済短期大学

|                |   |              |          |
|----------------|---|--------------|----------|
| 授業科目名          | 社会活動単位認定制度  |              |          |
| 担当教員（学内又は学外）   | 学内教員  | 授業期間         | その他（前後期） |
| 担当教員の専門分野      | 経営学   | 共通・専門等の別     | 共通       |
| 開設学部（学科）及び年次   | 経営情報学科1・2年次   | 授業のレベル       | 初級・入門    |
| 平成20年度履修者数     | 計76名（男子学生49名 女子学生27名）   | 授業区分         | 実習       |
| 単位数            | 2   | ボランティア体験の時間数 | 20時間     |
| 必修・選択の別        | 選択  |              |          |
| 授業目的           | 地域でのボランティア活動を通じて多様な価値観の人々と交流することによって、学生自身の社会性の向上を目指す。同時に、活動を通じて「地域社会の一員として活動することの大切さ」を実践的に学んでいく。  |              |          |
| 授業内容           | 1. 事前勉強会①<br>洛西地域とは？ボランティア活動とは？<br>2. 事前勉強会②<br>地域での活動実践（前年度の事例紹介）<br>3. 活動実践（実習）<br>「活動計画書」を提出して活動開始<br>4～14. 活動実践（実習）<br>15. 「活動報告書」の提出 |              |          |
| 教科書            | なし  |              |          |
| 授業の工夫点         | 実践だけでなく、事前勉強会を実施することにより、学生自身のボランティアや社会活動に対する意識を高める。   |              |          |
| 授業の評価方法        | ①「事前勉強会」への参加、②「活動記録書」の提出をすべて満たすことによって評価の対象となる。評価は上記①～④を元にして総合的に評価する（必要に応じて課題の提出を求めることがある）。期末試験は実施しない。                                     |              |          |
| 授業のサポート体制      | ない  |              |          |
| 学外の関係機関・団体との連携 | ボランティア活動の学生への紹介   |              |          |
| 今後の授業の継続       | 今後も継続   |              |          |

## ○ 白鳳女子短期大学

|                |                      |              |       |
|----------------|----------------------|--------------|-------|
| 授業科目名          | ボランティア実習Ⅰ、Ⅱ          |              |       |
| 担当教員（学内又は学外）   | 学内教員                 | 授業期間         | 集中授業  |
| 担当教員の専門分野      | スポーツおよびキャリアアップ       | 共通・専門等の別     | 共通    |
| 開設学部（学科）及び年次   | 全学科 1・2年             | 授業のレベル       | 初級・入門 |
| 平成20年度履修者数     | 計80名（男子学生0名 女子学生80名） | 授業区分         | 実習    |
| 単位数            | 2                    | ボランティア体験の時間数 |       |
| 必修・選択の別        | 選択                   |              |       |
| 授業目的           |                      |              |       |
| 授業内容           |                      |              |       |
| 教科書            |                      |              |       |
| 授業の工夫点         |                      |              |       |
| 授業の評価方法        |                      |              |       |
| 授業のサポート体制      |                      |              |       |
| 学外の関係機関・団体との連携 |                      |              |       |
| 今後の授業の継続       | 今後も継続                |              |       |

## ○ 鈴峯女子短期大学

|                |   |              |       |
|----------------|---|--------------|-------|
| 授業科目名          | ボランティア学習  |              |       |
| 担当教員（学内又は学外）   | 学内教員  | 授業期間         | 半期    |
| 担当教員の専門分野      | 社会福祉  | 共通・専門等の別     | 共通    |
| 開設学部（学科）及び年次   | 食物栄養学科・言語文化情報学科・保育学科<br>各1・2年   | 授業のレベル       | 初級・入門 |
| 平成20年度履修者数     | 計7名（男子学生0名 女子学生7名）  | 授業区分         | 講義    |
| 単位数            | 2   | ボランティア体験の時間数 | 15時間  |
| 必修・選択の別        | 選択  |              |       |
| 授業目的           | この授業では、“ボランティア活動のための準備学習”として、この社会を担うボランティアとしての基礎的知識、技術を習得します。また、“ボランティア活動を通じての学習”として学習者の人権意識を高めることや人間関係能力の向上、社会連帯についての理解などを目指します。 |              |       |
| 授業内容           | ・ボランティア論、ボランティアの心構え・ルール、援助関係論、社会福祉の基礎知識<br>・ボランティア活動体験学習<br>・ボランティア活動体験学習のふりかえり、個別指導  |              |       |
| 教科書            | 巡 静一・早瀬昇編著「基礎から学ぶボランティアの理論と実際」(中央法規出版)  |              |       |
| 授業の工夫点         | 個別指導の時間を十分にとり、それぞれの学生の学習到達度に応じた指導を実施している。   |              |       |
| 授業の評価方法        | 講義の出席・・・40%、体験学習（報告書提出を含む）・・・50%、期末レポート・・・10%   |              |       |
| 授業のサポート体制      | ない  |              |       |
| 学外の関係機関・団体との連携 | ない  |              |       |
| 今後の授業の継続       | 今後も継続   |              |       |

## ○ 安田女子短期大学

|                |   |              |    |
|----------------|---|--------------|----|
| 授業科目名          | 学校等支援活動   |              |    |
| 担当教員(学内又は学外)   | 学内教員  | 授業期間         | 半期 |
| 担当教員の専門分野      | 国語教育基礎論研究<br>国語科教育の実践的研究  | 共通・専門等の別     | 専門 |
| 開設学部(学科)及び年次   | 保育科   | 授業のレベル       |    |
| 平成20年度履修者数     | 未定  | 授業区分         | 実習 |
| 単位数            | 1   | ボランティア体験の時間数 |    |
| 必修・選択の別        | 選択  |              |    |
| 授業目的           | 学校等支援活動とは、本学と学校等(幼稚園、小学校・中学校・高等学校、特別支援学校)及び保育所、並びにその所管官庁との協定に基づき、本学の学生が行う保育・教育支援活動である。<br>活動に参加する学生は、学校等に大学から派遣され、学校等の校長や指導教員等の指導・助言を受けて、学校等の教育活動の支援を行う。この活動を通して、学校等の教育活動が活性化することが期待されるとともに、将来、教員や保育士を目指す学生の資質・能力が向上するよう願われている。<br>なお、詳細は『免許・資格の手引』(大学)または『履修の手引』(短大)を参照すること。 |              |    |
| 授業内容           | 活動校の計画に従う。  |              |    |
| 教科書            |   |              |    |
| 授業の工夫点         |   |              |    |
| 授業の評価方法        | 活動の記録及び活動校からの成績により評価を行う。  |              |    |
| 授業のサポート体制      |   |              |    |
| 学外の関係機関・団体との連携 | ある  |              |    |
| 今後の授業の継続       | 今後も継続   |              |    |

## ○ 広島文化短期大学

|                |  |              |       |
|----------------|--|--------------|-------|
| 授業科目名          | ボランティア論  |              |       |
| 担当教員(学内又は学外)   | 学内教員   | 授業期間         | 半期    |
| 担当教員の専門分野      | コミュニティ論、ボランティア論  | 共通・専門等の別     | 専門    |
| 開設学部(学科)及び年次   | コミュニティ生活学科1年、音楽学科1年  | 授業のレベル       | 初級・入門 |
| 平成20年度履修者数     | 計31名(男子学生1名 女子学生30名)   | 授業区分         | 講義    |
| 単位数            | 2  | ボランティア体験の時間数 | 10時間  |
| 必修・選択の別        | 選択   |              |       |
| 授業目的           | ボランティアが社会に果たす役割は、年々大きくなってきています。本講義では、ボランティアとはいかなるものか、ボランティアの基本的な理念や意義、歴史、現状や課題、身近な地域社会におけるボランティアや世界の国々のボランティアの実態、及び実際のボランティア実践を通してボランティアに関する知識と技能、社会に参加する能力を獲得することをめざします。  |              |       |
| 授業内容           | 1.ボランティアとは何か<br>2.地域福祉とボランティア<br>3.障害者福祉とボランティア<br>4.高齢者福祉とボランティア<br>5.ボランティア実践の前に<br>6.ボランティアの実践Ⅰ<br>7.ボランティアの実践Ⅱ<br>8.ボランティアの実践Ⅲ<br>9.ボランティアの実践Ⅳ<br>10.ボランティアの実践Ⅴ<br>11.ボランティア実践の評価<br>12.ボランティア各国事情<br>13.ボランティアの今日的課題<br>14.まとめ<br>15.試験 |              |       |
| 教科書            | 特になし。重要なものはプリントにまとめ配布している。   |              |       |
| 授業の工夫点         | 授業では、講義に加え、実際に地元町内会が毎年一回行っている川清掃活動に地域の住民の方々と一緒に参加したり、社会福祉施設での障害者介助ボランティア活動を取り入れ、ボランティアに関する知識・技能を深めている。   |              |       |
| 授業の評価方法        | 出席状況・ボランティア実践への取組・試験の総合評価。特に、実際のボランティア活動における意欲や貢献度を重視する。   |              |       |
| 授業のサポート体制      | ない   |              |       |
| 学外の関係機関・団体との連携 | 広島市中区社会福祉協議会が月1回開催している土曜教室に学生も介助ボランティアとして参加している。   |              |       |
| 今後の授業の継続       | 今後も継続  |              |       |

## ○ 比治山大学短期大学

| 授業科目名          |  |              |       |
|----------------|--|--------------|-------|
| 担当教員（学内又は学外）   | 学内教員、学外教員  | 授業期間         | 半期    |
| 担当教員の専門分野      | 乳幼児期の音楽教育、リトミック教育  | 共通・専門等の別     | 共通    |
| 開設学部（学科）及び年次   | 幼児教育科、総合生活デザイン学科、美術科<br>1年次  | 授業のレベル       | 初級・入門 |
| 平成20年度履修者数     | 計56名（男子学生6名 女子学生50名）   | 授業区分         | 演習    |
| 単位数            | 1  | ボランティア体験の時間数 | なし    |
| 必修・選択の別        | 選択必修   |              |       |
| 授業目的           | (1) ボランティア活動に関心を持ち、活動の意義・役割を理解すること。(2) ボランティア活動を実施するにあたって必要な事項を理解すること。   |              |       |
| 授業内容           | 1: オリエンテーション<br>2: 平和をつくる～広島市民の国際ボランティア活動の意義～<br>3: イントロダクション「どうしてボランティアするん？」<br>4: 私からはじめるあったかな街づくりPart I<br>5: 私からはじめるあったかな街づくりPart II<br>6: 広島市まちづくり市民交流プラザで学習<br>7: 企業の貢献について～広島企業の貢献～<br>8: ボランティア活動と仏教の教え(1) 国際交流をとらえて見た日本、あれこれ<br>9: ボランティア活動と仏教の教え(2) 誰のためのボランティア<br>10: ボランティア実践(1)～共感から行動へ～<br>11: ボランティア実践(2)～命のボランティア～<br>12: 広島における環境NPOの活動事例<br>13: 各地で行われている環境ボランティアの紹介<br>14: 市民活動、ボランティア活動(環境編)の視点<br>15: まとめ及びボランティアワークⅡのオリエンテーション |              |       |
| 教科書            | 講師作成プリント   |              |       |
| 授業の工夫点         | 学外講師を招き、具体的な事例や、様々な視点からボランティアについて知識を深め「ボランティアワークⅡ」へ繋げていく。  |              |       |
| 授業の評価方法        | 授業態度(20点)、出席状況(30点)、課題提出状況(50点)を総合して評価する。  |              |       |
| 授業のサポート体制      | ない   |              |       |
| 学外の関係機関・団体との連携 | 外部講師による講義  |              |       |
| 今後の授業の継続       | 今後も継続  |              |       |

| 授業科目名          |  |              |       |
|----------------|--|--------------|-------|
| 担当教員（学内又は学外）   | 学内教員   | 授業期間         | 集中授業  |
| 担当教員の専門分野      | 乳幼児期の音楽教育、リトミック教育  | 共通・専門等の別     | 共通    |
| 開設学部（学科）及び年次   | 幼児教育科、総合生活デザイン学科、美術科<br>1～2年次  | 授業のレベル       | 中級・応用 |
| 平成20年度履修者数     | 計48名（男子学生7名 女子学生41名）   | 授業区分         | 演習    |
| 単位数            | 1  | ボランティア体験の時間数 | 30時間  |
| 必修・選択の別        | 選択必修   |              |       |
| 授業目的           | (1) 私たちの社会とボランティア活動のかかわりについて、体験学習を通して理解すること。(2) 学んだもの、身に付けたものを広く社会に活かし自己実現を図ること。                         |              |       |
| 授業内容           | (1) 実際にボランティア活動を30時間行います。<br>(2) ボランティア活動は指示に従って実施してください。<br>(3) 「ボランティアワークⅡ」のオリエンテーションは、前期15回目の授業で行います。 |              |       |
| 教科書            | なし   |              |       |
| 授業の工夫点         | 「ボランティアワークⅠ」で学んだ知識を実際のボランティアを体験することにより、技術を高める。実際に社会に貢献できる。   |              |       |
| 授業の評価方法        | 活動状況(50点)、課題提出状況(50点)を総合的に評価する。  |              |       |
| 授業のサポート体制      | ない   |              |       |
| 学外の関係機関・団体との連携 | 受入施設、団体との連携  |              |       |
| 今後の授業の継続       | 今後も継続  |              |       |

## ○ 山陽学園短期大学

| 授業科目名          | ボランティア論   |              |       |
|----------------|---|--------------|-------|
| 担当教員(学内又は学外)   | 学内教員、学外教員   | 授業期間         | 半期    |
| 担当教員の専門分野      | 建築・医療・福祉  | 共通・専門等の別     | 専門    |
| 開設学部(学科)及び年次   | キャリアデザイン学科の1、2年次  | 授業のレベル       | 初級・入門 |
| 平成20年度履修者数     | 計46名(男子学生0名 女子学生46名)  | 授業区分         | 講義    |
| 単位数            | 2   | ボランティア体験の時間数 | 6時間   |
| 必修・選択の別        | 選択  |              |       |
| 授業目的           | ボランティアに関する概論  |              |       |
| 授業内容           | 1. シラバスの説明 ボランティアに関する基本事項の説明<br>2. ボランティアに対する考え(目的、役割、将来像)<br>3. ボランティアに対する考え(目的、役割、将来像)<br>4. 実践を通じて(活動を続けるための、人間関係・連絡体制・活動場所・支援制度)<br>5. ボランティアに対する考え(目的、役割、将来像)<br>6. ボランティアに対する考え(目的、役割、将来像)<br>7. 実践を通じて(医療とボランティア)2<br>8. ボランティアに対する考え(目的、役割、将来像)<br>9. 実践を通じて(医療・福祉とボランティア)2<br>10. ボランティアに対する考え(目的、役割、将来像)<br>11. 実践を通じて(福祉用具とボランティア)2<br>12. ボランティアに対する考え(目的、役割、将来像)<br>13. 実践を通じて(ボランティアをする立場と受ける立場)2<br>14. 実践を通じて(活動を続けるための、資金・支援制度を中心に)<br>15. まとめ(最終レポート作成、発表等) |              |       |
| 教科書            | なし  |              |       |
| 授業の工夫点         | 建築・医療・福祉の専門分野の社会人にボランティア活動の具体的に実例をあげて講義をしてもらう。  |              |       |
| 授業の評価方法        | レポート  |              |       |
| 授業のサポート体制      | ない  |              |       |
| 学外の関係機関・団体との連携 | パソコンハウス(障害者へのパソコン利用をすすめている会)  |              |       |
| 今後の授業の継続       | 今後も継続   |              |       |

| 授業科目名          | 住居設計   |              |       |
|----------------|--|--------------|-------|
| 担当教員(学内又は学外)   | 学内教員   | 授業期間         | 半期    |
| 担当教員の専門分野      | 建築   | 共通・専門等の別     | 専門    |
| 開設学部(学科)及び年次   | キャリアデザイン学科の1、2年次   | 授業のレベル       | 初級・入門 |
| 平成20年度履修者数     | 計10名(男子学生0名 女子学生10名)   | 授業区分         | 演習    |
| 単位数            | 2  | ボランティア体験の時間数 | 3時間   |
| 必修・選択の別        | 選択   |              |       |
| 授業目的           | 住居系の演習   |              |       |
| 授業内容           | 1. 実習の進め方とスケジュールについて説明 平面図の読み方・平面記号<br>2. 製図の基礎01 線の引き方 リフォーム計画01 各自が設計する住宅を考え始める<br>3. 製図の基礎02 線の引き方 リフォーム計画02 平井の街をウォッチングし、敷地を決める<br>4. 自分の案を考える<br>5. 自分の案を考える<br>6. 平面の製図(平面図とは住宅の間取りを示す図面です)<br>7. 平面の製図 模型製作の説明(材料と道具の使い方)<br>8. 模型の製作(スチレンボードとキャンソンプール紙を使用し1/100の模型を作ります)<br>9. 模型の作成<br>10. 模型の作成<br>11. 立面図の製図(立面図とは建築の外観を示す図面です)<br>12. 立面図の製図<br>13. 設計要旨(説明文)の作成、写真・地図・タイトルの貼り付け(台紙に必要なものを貼り付け、作品としてまとめます)<br>14. まとめ<br>15. 期末試験(発表会) |              |       |
| 教科書            | 新版 新しい建築製図 学芸出版  |              |       |
| 授業の工夫点         | 2つの小学校を対象にユニバーサルデザイン、安全・安心マップに作成   |              |       |
| 授業の評価方法        | 作品と日常の演習活動   |              |       |
| 授業のサポート体制      | ない   |              |       |
| 学外の関係機関・団体との連携 | 連合町内会・公民館・小学校・幼稚園・保育園・交番   |              |       |
| 今後の授業の継続       | 今後も継続  |              |       |

| 授業科目名          | インテリアデザイン  |              |       |
|----------------|--|--------------|-------|
| 担当教員(学内又は学外)   | 学内教員   | 授業期間         | 半期    |
| 担当教員の専門分野      | 建築   | 共通・専門等の別     | 専門    |
| 開設学部(学科)及び年次   | キャリアデザイン学科の1、2年次   | 授業のレベル       | 中級・応用 |
| 平成20年度履修者数     | 計11名(男子学生0名 女子学生11名)   | 授業区分         | 演習    |
| 単位数            | 2  | ボランティア体験の時間数 | 3時間   |
| 必修・選択の別        | 選択   |              |       |
| 授業目的           | 住居系の演習   |              |       |
| 授業内容           | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実習の目的と進め方の説明 課題の発表</li> <li>2. 計画地の選定・計画案の作成</li> <li>3. 敷地を指すための表町タウンウォッチング</li> <li>4. 計画地の選定・計画案の作成</li> <li>5. 平面図の製図(平面図とは、間取りを示す図面です)</li> <li>6. 平面図の製図</li> <li>7. 平面図の製図</li> <li>8. リビングルームの展開図の製図(展開図とは、室内の4方向を示す、インテリアを決める図面です)</li> <li>9. リビングルームの展開図の製図</li> <li>10. リビングルームの透視図の作成(透視図とは、立体感を持たせた、完成予想図です)</li> <li>11. リビングルームの透視図の作成</li> <li>12. 模型製作</li> <li>13. 模型製作</li> <li>14. まとめ</li> <li>15. 期末試験(個別発表)</li> </ol> |              |       |
| 教科書            | 新版 新しい建築製図 学芸出版  |              |       |
| 授業の工夫点         | 2つの小学校を対象にユニバーサルデザイン、安全・安心マップに作成   |              |       |
| 授業の評価方法        | 作品と日常の演習活動   |              |       |
| 授業のサポート体制      | ない   |              |       |
| 学外の関係機関・団体との連携 | 連合町内会・公民館・小学校・幼稚園・保育園・交番   |              |       |
| 今後の授業の継続       | 今後も継続  |              |       |

| 授業科目名          | ショップデザイン  |              |     |
|----------------|---|--------------|-----|
| 担当教員(学内又は学外)   | 学内教員  | 授業期間         | 半期  |
| 担当教員の専門分野      | 建築  | 共通・専門等の別     | 専門  |
| 開設学部(学科)及び年次   | キャリアデザイン学科の1、2年次  | 授業のレベル       | 上級  |
| 平成20年度履修者数     | 計9名(男子学生0名 女子学生9名)  | 授業区分         | 演習  |
| 単位数            | 2   | ボランティア体験の時間数 | 3時間 |
| 必修・選択の別        | 選択  |              |     |
| 授業目的           | 住居系の演習  |              |     |
| 授業内容           | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. シラバスの説明 ②課題「岡山市内の店舗」発表</li> <li>2. ①解説(売り場づくりの重要性) ②岡山市内の店舗に現状調べ ③短計図の練習</li> <li>3. ①解説(レイアウトの基本) ②タウンウォッチングによる敷地選定 ③短計図の練習</li> <li>4. ①解説(陳列のポイント) ②岡山市内の店舗のスキース ③短計図の練習</li> <li>5. ①解説(ビジュアルマーチャンダイジング) ②岡山市内の店舗のスキース ③短計図の練習</li> <li>6. ②岡山市内の店舗のスキース</li> <li>7. ②岡山市内の店舗のスキース</li> <li>8. ②岡山市内の店舗の平面図</li> <li>9. ②岡山市内の店舗の平面図</li> <li>10. ②岡山市内の店舗の平面図</li> <li>11. ②岡山市内の店舗の模型</li> <li>12. ②岡山市内の店舗の模型</li> <li>13. ②岡山市内の店舗の模型</li> <li>14. ②岡山市内の店舗のとりまとめ</li> <li>15. ②岡山市内の店舗の発表</li> </ol> |              |     |
| 教科書            | 新版 新しい建築製図 学芸出版   |              |     |
| 授業の工夫点         | 2つの小学校を対象にユニバーサルデザイン、安全・安心マップに作成  |              |     |
| 授業の評価方法        | 作品と日常の演習活動  |              |     |
| 授業のサポート体制      | ない  |              |     |
| 学外の関係機関・団体との連携 | 連合町内会・公民館・小学校・幼稚園・保育園・交番  |              |     |
| 今後の授業の継続       | 今後も継続   |              |     |

## ○ 川崎医療短期大学

|                |   |              |             |
|----------------|---|--------------|-------------|
| 授業科目名          | ボランティアワーク   |              |             |
| 担当教員（学内又は学外）   | 学外教員  | 授業期間         | 半期          |
| 担当教員の専門分野      | 地域福祉論   | 共通・専門等の別     | その他（関連基礎分野） |
| 開設学部（学科）及び年次   | 介護福祉科1年次  | 授業のレベル       | 中級・応用       |
| 平成20年度履修者数     | 計27名（男子学生1名 女子学生26名）  | 授業区分         | 演習          |
| 単位数            | 2   | ボランティア体験の時間数 | 6時間         |
| 必修・選択の別        | 選択  |              |             |
| 授業目的           | ボランティアの理念を学び実践とのコーディネート能力を課させる。   |              |             |
| 授業内容           | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ボランティアの思想</li> <li>2. ボランティアの原則とボランティアの役割</li> <li>3. ボランティア活動の心構え</li> <li>4. ボランティア活動における留意点</li> <li>5. 施設での活動</li> <li>6. コミュニティでの活動</li> <li>7. 政策の動向とサービスラーニング</li> <li>8. 教育現場での活動（体験学習）</li> <li>9. 障害のある人への支援活動（知識）</li> <li>10. 障害のある人への支援活動（技術）</li> <li>11. ボランティア活動の課題</li> <li>12. ボランティアコーディネート</li> <li>13. アドボカシーとボランティアコーディネート</li> <li>14. 災害支援におけるボランティア活動</li> <li>15. 演習</li> </ol> |              |             |
| 教科書            | 適宜資料を配布する。  |              |             |
| 授業の工夫点         |   |              |             |
| 授業の評価方法        | 出席とテストによる   |              |             |
| 授業のサポート体制      | ない  |              |             |
| 学外の関係機関・団体との連携 | 倉敷市社会福祉協議会、ボランティアグループ   |              |             |
| 今後の授業の継続       | 今年度のみ   |              |             |

## ○ 高松短期大学

|                |   |              |       |
|----------------|---|--------------|-------|
| 授業科目名          | ボランティア  |              |       |
| 担当教員（学内又は学外）   | 学内教員  | 授業期間         | 半期    |
| 担当教員の専門分野      | 福祉  | 共通・専門等の別     | 共通    |
| 開設学部（学科）及び年次   | 全学科1～2年次対象  | 授業のレベル       | 初級・入門 |
| 平成20年度履修者数     | 計0名（男子学生0名 女子学生0名）  | 授業区分         | 演習    |
| 単位数            | 2   | ボランティア体験の時間数 | 30時間  |
| 必修・選択の別        | 選択  |              |       |
| 授業目的           | ボランティア活動は人間性の発露であり、愛の実践です。現代社会において人々を再び結び合わせる人材の育成を目指す。   |              |       |
| 授業内容           | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2. 3. ボランティア活動の基礎</li> <li>4. 5. 現代社会とボランティア</li> <li>6. 7. 社会福祉のボランティア1</li> <li>8. 9. 社会福祉のボランティア2</li> <li>10. 11. 社会福祉のボランティア3</li> <li>11. 12. ボランティア論1</li> <li>13. ボランティア論2</li> <li>14. ボランティア活動の発表会</li> <li>15. テスト</li> </ol> |              |       |
| 教科書            |   |              |       |
| 授業の工夫点         |   |              |       |
| 授業の評価方法        | 期末試験40%、出席状況・受講態度・レポート内容60%で評価  |              |       |
| 授業のサポート体制      | ない  |              |       |
| 学外の関係機関・団体との連携 | ない  |              |       |
| 今後の授業の継続       | 今後も継続   |              |       |

## ○ 西南女学院大学短期大学部

|                |   |              |       |
|----------------|---|--------------|-------|
| 授業科目名          | ボランティア論   |              |       |
| 担当教員（学内又は学外）   | 学外教員  | 授業期間         | 半期    |
| 担当教員の専門分野      | 地域福祉  | 共通・専門等の別     | 共通    |
| 開設学部（学科）及び年次   | 生活創造学科2年次   | 授業のレベル       | 初級・入門 |
| 平成20年度履修者数     | 計39名（男子学生0名 女子学生39名）  | 授業区分         | 講義    |
| 単位数            | 2   | ボランティア体験の時間数 | 20時間  |
| 必修・選択の別        | 必修  |              |       |
| 授業目的           | 私たちが自らの生活の質を高めるためには、社会の関わり、自らの世界を広めることが大切である。生きることの意味とボランティア活動の諸相を重ね合わせることで、豊かな人生を目指すことを考えていく展開にする。 |              |       |
| 授業内容           |   |              |       |
| 教科書            |   |              |       |
| 授業の工夫点         | 学外において様々なボランティア活動を行う。   |              |       |
| 授業の評価方法        | 1. 出席点（講義内容の把握のレベルを確認するため、講義終了時に毎回見レポートを提出）<br>2. 期末レポート（1. と2. の総合評価）                              |              |       |
| 授業のサポート体制      | ない  |              |       |
| 学外の関係機関・団体との連携 | ある  |              |       |
| 今後の授業の継続       | 今後も継続   |              |       |

|                |  |              |       |
|----------------|--|--------------|-------|
| 授業科目名          | ボランティア演習   |              |       |
| 担当教員（学内又は学外）   | 学内教員   | 授業期間         | 通年    |
| 担当教員の専門分野      | 地域福祉   | 共通・専門等の別     | 共通    |
| 開設学部（学科）及び年次   | 生活創造学科2年次  | 授業のレベル       | 初級・入門 |
| 平成20年度履修者数     | 計77名（男子学生0名 女子学生77名）   | 授業区分         | 演習    |
| 単位数            | 1  | ボランティア体験の時間数 | 20時間  |
| 必修・選択の別        | 必修   |              |       |
| 授業目的           | <p>「人はひとりで生きていくことは出来ない。人は生まれながらにして隣人を必要としている。即ち、人は互いに思いやり助け合い、共に生きていくのである。」と云われる。</p> <p>ボランティア活動とは、現代社会が抱えている様々な課題と関わりながら「助け合う」ことを通して社会に貢献し、「ミットレーベン＝共に生きる」社会を創りあげていくことを目指すものである。</p> <p>同時に、ボランティア活動は自分が隣人から必要とされていることに気づき、そのことで自分を再発見・再認識することが出来る貴重な機会を持つことにも繋がる。主体的な意識を持って参加することを期待する。</p> |              |       |
| 授業内容           | <p>1. 2年次生全員の参加となる「地域貢献活動A」を基本として、地域への認知及び貢献、そして社会参加に対する意識を高める。</p> <p>2. さらに、1. と並行して、2年生が6グループに分かれて「グループ別ボランティア活動B」を行う。</p>  |              |       |
| 教科書            |  |              |       |
| 授業の工夫点         | 学外において様々なボランティア活動を行う。  |              |       |
| 授業の評価方法        | 左記活動への参加状況とレポート提出により評価する。  |              |       |
| 授業のサポート体制      | ない   |              |       |
| 学外の関係機関・団体との連携 | ある   |              |       |
| 今後の授業の継続       | 今後も継続  |              |       |

## ○ 佐賀短期大学

|                |                                   |              |    |
|----------------|-----------------------------------|--------------|----|
| 授業科目名          | ボランティア入門                          |              |    |
| 担当教員（学内又は学外）   | 学内教員                              | 授業期間         | 通年 |
| 担当教員の専門分野      | ボランティア                            | 共通・専門等の別     |    |
| 開設学部（学科）及び年次   | 幼児保育学科                            | 授業のレベル       |    |
| 平成20年度履修者数     | 計78名                              | 授業区分         | 講義 |
| 単位数            | 2                                 | ボランティア体験の時間数 |    |
| 必修・選択の別        | 選択                                |              |    |
| 授業目的           | 活動に参画するために必要な能力や視点を獲得することを目的とする。  |              |    |
| 授業内容           | 意義と概念、歴史的変遷活動と取り巻く現状、奉仕活動とボランティア等 |              |    |
| 教科書            |                                   |              |    |
| 授業の工夫点         |                                   |              |    |
| 授業の評価方法        |                                   |              |    |
| 授業のサポート体制      |                                   |              |    |
| 学外の関係機関・団体との連携 | ない                                |              |    |
| 今後の授業の継続       | 今後も継続                             |              |    |



|                |   |              |    |
|----------------|---|--------------|----|
| 授業科目名          | ボランティア活動  |              |    |
| 担当教員（学内又は学外）   | 学内教員  | 授業期間         | 通年 |
| 担当教員の専門分野      | ボランティア  | 共通・専門等の別     |    |
| 開設学部（学科）及び年次   |   | 授業のレベル       |    |
| 平成20年度履修者数     | 計31名  | 授業区分         |    |
| 単位数            | 2   | ボランティア体験の時間数 |    |
| 必修・選択の別        | 選択  |              |    |
| 授業目的           | 社会の仕組みや多くの人々と交流することにより、活動の楽しさを知る。また、自己表現を目指すことを目的とする。 |              |    |
| 授業内容           |   |              |    |
| 教科書            |   |              |    |
| 授業の工夫点         |   |              |    |
| 授業の評価方法        |   |              |    |
| 授業のサポート体制      |   |              |    |
| 学外の関係機関・団体との連携 | ない  |              |    |
| 今後の授業の継続       | 今後も継続   |              |    |

## ○ 尚綱大学短期大学部

|                |  |              |                |
|----------------|--|--------------|----------------|
| 授業科目名          | 現代社会とボランティア  |              |                |
| 担当教員（学内又は学外）   | 学内教員   | 授業期間         | 半期             |
| 担当教員の専門分野      | 社会学、社会福祉   | 共通・専門等の別     | その他（特定学科の教養教育） |
| 開設学部（学科）及び年次   | 幼児教育学科1年次  | 授業のレベル       | 初級・入門          |
| 平成20年度履修者数     | 計45名（女子学生45名）  | 授業区分         | 講義             |
| 単位数            | 2  | ボランティア体験の時間数 | なし             |
| 必修・選択の別        | 選択   |              |                |
| 授業目的           | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ボランティア活動の基礎的な理論を修得すること</li> <li>・ボランティア活動の社会的な意義と役割を理解すること</li> <li>・共に学び、共に生きる姿勢を理解すること</li> </ul>  |              |                |
| 授業内容           | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ボランティア活動の定義（ボランティアとNPO・NGO）</li> <li>2. 私にとってのボランティア（世界のボランティア活動の歩み）</li> <li>3. 私にとってのボランティア（日本のボランティア活動の歩み）</li> <li>4. 人はなぜボランティアをするのか（自ら選択する生き方）</li> <li>5. ボランティアが創り出す新たな価値（公と私）</li> <li>6. ボランティアが創り出す新たな価値（地域の課題発見）</li> <li>7. ボランティア活動と社会福祉（地域福祉の担い手として）</li> <li>8. ボランティア活動と社会福祉（児童と高齢者とのかわり）</li> <li>9. ボランティア活動と社会福祉（障害者とのかわり）</li> <li>10. ボランティア活動と環境（地球環境とのかわり）</li> <li>11. ボランティア活動と地球市民（市民の視点から探る）</li> <li>12. ボランティア活動と教育（新たな地域の再生と創造）</li> <li>13. 国際ボランティアNGO活動（開発途上国の事例研究）</li> <li>14. ボランティアセンターとマネジメント</li> <li>15. まとめ</li> </ol> |              |                |
| 教科書            | 「学生のためのボランティア論」（発行 大阪ボランティア協会）   |              |                |
| 授業の工夫点         | 特になし   |              |                |
| 授業の評価方法        | 定期試験、レポート提出、実践活動   |              |                |
| 授業のサポート体制      | ない   |              |                |
| 学外の関係機関・団体との連携 | ない   |              |                |
| 今後の授業の継続       | 今後も継続  |              |                |

## ○ 鹿児島純心女子短期大学

|                |                                |              |       |
|----------------|--------------------------------|--------------|-------|
| 授業科目名          | こども学フィールドワーク                   |              |       |
| 担当教員（学内又は学外）   | 学内教員                           | 授業期間         | 通年    |
| 担当教員の専門分野      | 教育学                            | 共通・専門等の別     | 専門    |
| 開設学部（学科）及び年次   | 生活学科こども学専攻1年次                  | 授業のレベル       | 初級・入門 |
| 平成20年度履修者数     | 計46名（男子学生0名 女子学生46名）           | 授業区分         | 演習    |
| 単位数            | 1                              | ボランティア体験の時間数 | 32時間  |
| 必修・選択の別        | 選択                             |              |       |
| 授業目的           | 子育て支援に対するソフト・ハード両面の環境を体験し調査する。 |              |       |
| 授業内容           |                                |              |       |
| 教科書            | なし                             |              |       |
| 授業の工夫点         |                                |              |       |
| 授業の評価方法        | 実習ノート、レポート、発表、出席等              |              |       |
| 授業のサポート体制      |                                |              |       |
| 学外の関係機関・団体との連携 | ボランティア研修生として「生命と環境の学習館」など      |              |       |
| 今後の授業の継続       | 今後も継続                          |              |       |

## ○ 別府溝部学園短期大学

|                |                                   |              |       |
|----------------|-----------------------------------|--------------|-------|
| 授業科目名          | 「ボランティア」概論・実習                     |              |       |
| 担当教員（学内又は学外）   | 学内教員                              | 授業期間         | 通年    |
| 担当教員の専門分野      | 介護                                | 共通・専門等の別     | 専門    |
| 開設学部（学科）及び年次   | 介護福祉学科 2年次生                       | 授業のレベル       | 初級・入門 |
| 平成20年度履修者数     | 計40名（男子学生15名 女子学生25名）             | 授業区分         | 講義    |
| 単位数            | 3                                 | ボランティア体験の時間数 | 64時間  |
| 必修・選択の別        | 選択                                |              |       |
| 授業目的           | 「主体性」「自主性」を育むとともに、地域社会への貢献を目的とする。 |              |       |
| 授業内容           | 老人施設ボランティア等                       |              |       |
| 教科書            |                                   |              |       |
| 授業の工夫点         | サービスマーケティング                       |              |       |
| 授業の評価方法        | 総合評価（レポート等）                       |              |       |
| 授業のサポート体制      | ある                                |              |       |
| 学外の関係機関・団体との連携 | ある                                |              |       |
| 今後の授業の継続       | 今後も継続                             |              |       |

## ○ 宮崎学園短期大学

|                |   |              |       |
|----------------|---|--------------|-------|
| 授業科目名          | 「地域共生Ⅰ」「地域共生Ⅱ」  |              |       |
| 担当教員（学内又は学外）   | 学内教員  | 授業期間         | 半期    |
| 担当教員の専門分野      |   | 共通・専門等の別     | 共通    |
| 開設学部（学科）及び年次   | 全学科   | 授業のレベル       | 初級・入門 |
| 平成20年度履修者数     | 計105名   | 授業区分         | 演習    |
| 単位数            | 各1  | ボランティア体験の時間数 | 各15時間 |
| 必修・選択の別        | 選択  |              |       |
| 授業目的           | 様々な人々と交流することで、コミュニケーション能力を高め、自ら清武町に貢献することを体験し、社会に通用する人材として育つ。   |              |       |
| 授業内容           | ボランティアでも実習でもない、学生自身が主体的に活動を行う。清武町内の関係機関が行う活動に学生が参加する活動と本学教員が町民向けに行う講座の準備や助手を行う活動、更に関係機関の活動に自分たちの考えを提案し活動する3つの形態がある。 |              |       |
| 教科書            |   |              |       |
| 授業の工夫点         | 3つの形態を体験できるよう配慮されている。   |              |       |
| 授業の評価方法        | 活動記録簿の提出によって評価する。   |              |       |
| 授業のサポート体制      | 3名の教員が交流中巡回指導する。  |              |       |
| 学外の関係機関・団体との連携 | 清武町   |              |       |
| 今後の授業の継続       | 今後も継続   |              |       |

## ○ 近畿大学九州短期大学

|                |   |              |       |
|----------------|---|--------------|-------|
| 授業科目名          | 介護体験Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ   |              |       |
| 担当教員(学内又は学外)   | 学内教員  | 授業期間         | 集中授業  |
| 担当教員の専門分野      | 福祉  | 共通・専門等の別     | 専門    |
| 開設学部(学科)及び年次   | 生活福祉情報学科1年次対象   | 授業のレベル       | 中級・応用 |
| 平成20年度履修者数     | 計4名(男子学生2名 女子学生2名)  | 授業区分         | 実習    |
| 単位数            | 1   | ボランティア体験の時間数 | 120時間 |
| 必修・選択の別        | 選択  |              |       |
| 授業目的           | 卒業後、介護職の即戦力を養う。   |              |       |
| 授業内容           | 介護福祉施設等において、いわゆる介護実習ではなく現場での実践を行うことで、卒業後に介護職の即戦力として活躍することができるように、できるだけ介護現場での経験を積むことを目的とします。 |              |       |
| 教科書            | 「ホームヘルパー養成研修テキスト2級課程」   |              |       |
| 授業の工夫点         |   |              |       |
| 授業の評価方法        | (1)日誌・報告書等(70%) (2)グループ発表(30%)  |              |       |
| 授業のサポート体制      | ない  |              |       |
| 学外の関係機関・団体との連携 | ない  |              |       |
| 今後の授業の継続       | 今後も継続   |              |       |

## ○ 佐賀女子短期大学

|                |   |              |       |
|----------------|---|--------------|-------|
| 授業科目名          | ボランティア論   |              |       |
| 担当教員(学内又は学外)   | 学外教員  | 授業期間         | 半期    |
| 担当教員の専門分野      | 社会福祉  | 共通・専門等の別     | 共通    |
| 開設学部(学科)及び年次   | 全学科1年次対象  | 授業のレベル       | 初級・入門 |
| 平成20年度履修者数     | 計25名(男子学生0名 女子学生25名)  | 授業区分         | 講義    |
| 単位数            | 2   | ボランティア体験の時間数 | 未定    |
| 必修・選択の別        | 選択必修  |              |       |
| 授業目的           | ボランティアの意味と役割について学ぶ。また、ボランティア活動の現状を知り、自らが体験することを通して、ボランティアの必要性を理解する。   |              |       |
| 授業内容           | <p>ボランティアの歴史や概念に関する講義と、ボランティア活動(市民活動)の実践者の講義を展開する。また、実際に地域清掃活動(美化活動)を行う。</p> <p>[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]</p> <p>コマ数</p> <p>1 はじめに(教員紹介、授業の概要・展開・評価方法等の説明)</p> <p>2 ボランティアの歴史を学ぶ</p> <p>3 ボランティアの意味と役割を学ぶ</p> <p>4 地域清掃活動を行う</p> <p>5 市民活動団体の実践者の講義①</p> <p>6 市民活動団体の実践者の講義②</p> <p>7 市民活動団体の実践者の講義③</p> <p>8 市民活動団体の実践者の講義④</p> <p>9 市民活動団体の実践者の講義⑤</p> <p>10 市民活動団体の実践者の講義⑥</p> <p>11 市民活動団体の実践者の講義⑦</p> <p>12 骨髄バンクの活動について学ぶ</p> <p>13 ホームレス状態の人びとの支援活動について学ぶ</p> <p>14 市民活動団体の実践者の講義⑧(行政との協働の視点から)</p> <p>15 おわりに(まとめ)</p> |              |       |
| 教科書            | さが市民活動サポートセンター作成委員会編『ボランティアハンドブック—心と心をつなぐ—』(佐賀市、2002)   |              |       |
| 授業の工夫点         |   |              |       |
| 授業の評価方法        | ①出席状況(何らかのボランティア活動に参加した場合は、報告書等の提出で出席に振替えることができる)。②地域清掃活動に参加すること(参加を希望しない場合は、レポートの提出とする)。③最終授業で講義の全体を通じた感想等の提出をすること。①～③の状況によって評価する。   |              |       |
| 授業のサポート体制      | ない  |              |       |
| 学外の関係機関・団体との連携 | ない  |              |       |
| 今後の授業の継続       | 今後も継続   |              |       |

## ○ 久留米信愛女学院短期大学

|                |   |              |       |
|----------------|---|--------------|-------|
| 授業科目名          | 信愛教育  |              |       |
| 担当教員(学内又は学外)   | 学内教員  | 授業期間         | 通年    |
| 担当教員の専門分野      |   | 共通・専門等の別     | 共通    |
| 開設学部(学科)及び年次   | 全学科   | 授業のレベル       | 初級・入門 |
| 平成20年度履修者数     | 計326名(男子学生0名 女子学生326名)  | 授業区分         | 講義    |
| 単位数            | 1   | ボランティア体験の時間数 | なし    |
| 必修・選択の別        | 必修  |              |       |
| 授業目的           | 「キリスト教の教えに基づいた真の価値観を持ち、女性として豊かな心を持って社会の建設に貢献する人間を育成する」という本学の建学の精神を实践し、浸透させていくことを目的とする。そのために学長講話、学内外の専門家による講話および各種行事や、クラスミーティング、清掃など学生と教職員が共に参加することによって実現していく。 |              |       |
| 授業内容           | ・ボランティアの実践活動に向けて考え、準備・計画を行う。<br>・ボランティアの実践とそのふりかえりを行う。  |              |       |
| 教科書            |   |              |       |
| 授業の工夫点         |   |              |       |
| 授業の評価方法        | 出席・ノート・レポートを合わせて総合的に評価する。毎回、積極的に参加し、ノートを提出することが求められている。   |              |       |
| 授業のサポート体制      | ない  |              |       |
| 学外の関係機関・団体との連携 | ない  |              |       |
| 今後の授業の継続       | 今後も継続   |              |       |

## ○ 沖縄キリスト教短期大学

|                |  |              |       |
|----------------|--|--------------|-------|
| 授業科目名          | ボランティア   |              |       |
| 担当教員(学内又は学外)   | 学内教員   | 授業期間         | 半期    |
| 担当教員の専門分野      | 日本語学、日本語教育、朗読学   | 共通・専門等の別     | 共通    |
| 開設学部(学科)及び年次   | 英語科、保育科全学年   | 授業のレベル       | 中級・応用 |
| 平成20年度履修者数     | 計0名(男子学生0名 女子学生0名)   | 授業区分         | 演習    |
| 単位数            | 1  | ボランティア体験の時間数 | 30時間  |
| 必修・選択の別        | 選択   |              |       |
| 授業目的           | 多文化共生時代を生きる「私」は、今、社会に対して何ができるのか。<br>真のボランティア精神育成のため、自分にできる社会奉仕を探し、実践することで、自分をみつめ、学びのきっかけを得ることを目的とする。 |              |       |
| 授業内容           | 30時間のボランティア活動を各自で行う。<br>*学期、学年、種別を問わない。  |              |       |
| 教科書            | 個別指示。  |              |       |
| 授業の工夫点         |  |              |       |
| 授業の評価方法        | 在学中に行った30時間分のボランティア活動の活動証明と、レポートを添えて、認定申請用紙と合わせて、オーガナイザーに提出。   |              |       |
| 授業のサポート体制      | ない   |              |       |
| 学外の関係機関・団体との連携 | ない   |              |       |
| 今後の授業の継続       | 今後も継続  |              |       |

|                |   |              |       |
|----------------|---|--------------|-------|
| 授業科目名          | 要約筆記(ノートテイキング)  |              |       |
| 担当教員(学内又は学外)   | 学外教員  | 授業期間         | 半期    |
| 担当教員の専門分野      | 要約筆記  | 共通・専門等の別     | 共通    |
| 開設学部(学科)及び年次   | 英語科、保育科全学年  | 授業のレベル       | 初級・入門 |
| 平成20年度履修者数     | 計19名(男子学生1名 女子学生18名)  | 授業区分         | 講義    |
| 単位数            | 2   | ボランティア体験の時間数 | 0時間   |
| 必修・選択の別        | 選択  |              |       |
| 授業目的           | 要約筆記の中の「大学ノートテイク」は、聴覚障がい学生の講義参加を可能とする環境の一つであり、その方法を演習し、大学内でノートテイクとして活動できる人材を育てることを目的とする。  |              |       |
| 授業内容           | <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 要約筆記の目的</li> <li>2. 要約筆記の三原則 表記</li> <li>3. 読めるように書く</li> <li>4. 聞きながら書く①</li> <li>5. 聞きながら書く②</li> <li>6. 大学ノートテイクのチームワーク</li> <li>7. 話しことばの特徴とそぎ落とし</li> <li>8. 同時性の考え方</li> <li>9. 短く表現する技術</li> <li>10. 共有情報を活用する</li> <li>11. 聴覚障害者に関する基礎知識</li> <li>12. 中途失聴者の現状と課題</li> <li>13. 大学ノートテイクのマナー</li> <li>14. 沖縄県の聴覚障害者福祉の概要</li> <li>15. 期末テスト</li> </ol> |              |       |
| 教科書            | 不使用   |              |       |
| 授業の工夫点         | 難聴者をゲストに迎え、体験談を語ってもらう時間がある。   |              |       |
| 授業の評価方法        | 期末試験60%、レポート20%、出席20%   |              |       |
| 授業のサポート体制      | ない  |              |       |
| 学外の関係機関・団体との連携 | 沖縄大学、沖縄県難聴・中途失聴者協会  |              |       |
| 今後の授業の継続       | 今後も継続   |              |       |

## ○ 福岡こども短期大学

|                |  |              |       |
|----------------|--|--------------|-------|
| 授業科目名          | 子ども教育研究会   |              |       |
| 担当教員(学内又は学外)   | 学内教員、学外教員  | 授業期間         | 通年    |
| 担当教員の専門分野      | 各分野に及ぶ   | 共通・専門等の別     | 専門    |
| 開設学部(学科)及び年次   | 子ども教育学科(1・2年次)   | 授業のレベル       | 基礎～応用 |
| 平成20年度履修者数     | 計447名(男子学生70名 女子学生377名)  | 授業区分         | 演習    |
| 単位数            | 4  | ボランティア体験の時間数 |       |
| 必修・選択の別        | 必修   |              |       |
| 授業目的           | こどもとの関わりを通じて、豊かな保育活動をするための技術・技能と展開の方法を身に付ける。   |              |       |
| 授業内容           | 幼児音楽、幼児体育、幼児美術を中心に26の研究会からなり、各々の研究会を通じて幼児に対する技術技能を高め、個性を生かした課題に取り組み、その成果を公演等により、地域(ボランティア)活動に貢献する。 |              |       |
| 教科書            |  |              |       |
| 授業の工夫点         |  |              |       |
| 授業の評価方法        | 各研究会独自の評価によるほか、一般的には、出席状況、受講態度・熱意及び筆記試験等による。   |              |       |
| 授業のサポート体制      | 各研究会に担当指導教員をおく。  |              |       |
| 学外の関係機関・団体との連携 | 附属幼稚園等   |              |       |
| 今後の授業の継続       | 今後も継続  |              |       |

|                |  |              |           |
|----------------|--|--------------|-----------|
| 授業科目名          | 社会奉仕演習   |              |           |
| 担当教員(学内又は学外)   | 学内教員   | 授業期間         | その他(2年後期) |
| 担当教員の専門分野      | 社会福祉概論他  | 共通・専門等の別     | 共通        |
| 開設学部(学科)及び年次   | 子ども教育学科(1・2年次)   | 授業のレベル       | 基礎～応用     |
| 平成20年度履修者数     |  | 授業区分         | 演習        |
| 単位数            | 2  | ボランティア体験の時間数 | 45～90時間   |
| 必修・選択の別        | 選択   |              |           |
| 授業目的           | こども教育研究会主体による地域子育てボランティア   |              |           |
| 授業内容           | 1年生、2年生専門科目として、「こども教育研究Ⅰ・Ⅱ」という授業科目を開講し、各々の研究会が地域の子育て支援、保育文化に関するボランティア活動を実施しており、その成果として、上記の科目について、単位認定を行っている。 |              |           |
| 教科書            |  |              |           |
| 授業の工夫点         |  |              |           |
| 授業の評価方法        | 参加の頻度や提出される活動報告書などをもとに評価する。  |              |           |
| 授業のサポート体制      | ない   |              |           |
| 学外の関係機関・団体との連携 | ない   |              |           |
| 今後の授業の継続       | 今後も継続  |              |           |

## ○ 東海大学福岡短期大学

|                |  |              |       |
|----------------|--|--------------|-------|
| 授業科目名          | 地域社会とボランティア  |              |       |
| 担当教員（学内又は学外）   | 学内教員   | 授業期間         | 半期    |
| 担当教員の専門分野      | 地域交流   | 共通・専門等の別     | 共通    |
| 開設学部（学科）及び年次   | 情報処理学科、国際文化学科  | 授業のレベル       | 初級・入門 |
| 平成20年度履修者数     | 計65名（男子学生43名 女子学生22名）  | 授業区分         | 講義    |
| 単位数            | 2  | ボランティア体験の時間数 |       |
| 必修・選択の別        | 選択   |              |       |
| 授業目的           | <p>高まりつつあるボランティアへの期待、広がりつつあるボランティアの活動領域。一般的に「ボランティア」という言葉ばかりが先行し、その本質部分が曖昧になっている。しかし、地域も学校もボランティア活動を積極的に行っている状況にある。さらには、近年「企業の社会的貢献(CSR)」が重視されるようになり、今後実社会に出て行く学生諸君にとって、就職先でもボランティア活動を行なうことが必須となりつつある。つまり、地域社会との関わりは必要不可欠なのである。</p> <p>そこで、「ボランティアとは」、「ボランティア活動とは何か」といった本質的な部分を理解するために、学生諸君にとって身近な地域社会を題材にそれらのあり方について学修し、地域コミュニティでのボランティア活動、社会貢献について考究する。本講義概要として、ボランティア団体の活動目的や活動内容の基本について学び、活動における現状や課題について理解を深める。このことを踏まえ、実践的に地域コミュニティでボランティア活動を行なうための手法について学ぶ。その過程から地域コミュニティやボランティア活動における諸問題について理解を深める機会としたい。なお、本講義を受講することにより、その後の学生生活、社会生活、職業生活の中で豊かな心やたくましく生きる力を培うと共に、ボランティア活動に入っていき素地を培うことも狙いとしている。</p> |              |       |
| 授業内容           | <ol style="list-style-type: none"> <li>1.授業概要説明・ボランティアとは</li> <li>2.ボランティアは、なぜ必要か！</li> <li>3.ボランティアの歴史1</li> <li>4.ボランティアの歴史2</li> <li>5.ボランティア活動の形態と分野</li> <li>6.地域社会に関わるために1</li> <li>7.地域社会に関わるために2</li> <li>8.ボランティアの現状1</li> <li>9.ボランティアの現状2</li> <li>10.ボランティアの現状3</li> <li>11.ボランティアの現状4</li> <li>12.ボランティア活動計画作成1</li> <li>13.ボランティア活動計画作成2</li> <li>14.ボランティア活動計画作成3</li> <li>15.テスト</li> </ol>  |              |       |
| 教科書            | 特定の教科書は使用しない(必要に応じて、プリントを配布する)。  |              |       |
| 授業の工夫点         | 地域活動、まちづくり、ボランティア活動に関心のある学生の履修を期待する。本講義は、受講生の積極性が求められる。資料を基に講義を行ない、学生諸君が自ら考え、討議し、調査、研究、発表することを中心に講義を行なう。なお、授業の流れに応じて、グループ編成を行なう。   |              |       |
| 授業の評価方法        | 課題提出、試験結果、出席状況、学習態度などを総合的に評価する。  |              |       |
| 授業のサポート体制      | ない   |              |       |
| 学外の関係機関・団体との連携 | ない   |              |       |
| 今後の授業の継続       | 今後も継続  |              |       |

|                |  |              |       |
|----------------|--|--------------|-------|
| 授業科目名          | 地域資源開発I  |              |       |
| 担当教員(学内又は学外)   | 学内教員   | 授業期間         | 半期    |
| 担当教員の専門分野      | 地域交流   | 共通・専門等の別     | 共通    |
| 開設学部(学科)及び年次   | 情報処理科、国際文化学科   | 授業のレベル       | 初級・入門 |
| 平成20年度履修者数     | 計35名(男子学生9名 女子学生26名)   | 授業区分         | 講義    |
| 単位数            | 2  | ボランティア体験の時間数 |       |
| 必修・選択の別        | 選択   |              |       |
| 授業目的           | <p>本講義は、受講生自身が実際に地域(現場)に出て行き、自分自身の目で現地を確かめ、課題を見つけ出し、解決する能力の基礎を養ってもらうことを目的としている。このような講義を行う背景として、多くの企業や行政機関などが、地域で積極的に活動する人材を求めているからである。それゆえにこれからの時代を生き抜く者たちにとってこの能力を持つことは、自分自身を生かす上での武器になるだろう。そこで、この能力を育成する題材として、地域の中に数多く存在する資源に注目し、地域の活性化に寄与する取組を行いたい。それゆえ、地域住民をも巻き込んだ講義を行う予定である。</p> <p>本講義の進め方および概要は、履修した者全員を仮想会社の社員と見立て、個人またはグループで調査を行い、その結果を基に実践活動につなげていく。今年度は「地産地消」に注目する。この地産地消とは、地域で生産されたものを、その地域で消費する取組みである。しかしながら、この取組みは以前から社会的に注目されているものの定着していない。そこで、本講義を通じて、この取組みが定着しない理由を見出す作業を行う。その過程で、履修した学生諸君が企画立案したモニタリングツアー(一般市民を対象としたもの)を実施(企業・行政・市民の協力を得る。下記講義日程参照)し、学生では見出すことが難しい消費者のニーズを探り、生産者と消費者との意識の違いなどについて実体験を基に調査するものである。このような講義の流れを踏まえ、実践的に地域で活動する手法や大人としてのコミュニケーション能力について学び、地域活動における諸問題について理解を深める機会としたい。その上で、今後の取組みとして何が必要なのかを探る。</p> <p>本講義は、両学科それぞれの強み(国際文化学科は「観光分野」、情報処理科は「情報処理技術」)を活かし、実践でなければ体験できない講義展開を行うように努めたい。なお、本講義を受講することにより、その後の学生生活、社会生活、職業生活の中で豊かな心やたくましく生きる力を培うと共に、地域での活動に入っていく素地を培うことも狙いとしている。</p> <p>※履修者数によって、下記の講義日程や上述した講義概要を変更する可能性がある。また、状況に応じて講義日を変更する。</p> |              |       |
| 授業内容           | <ol style="list-style-type: none"> <li>1.授業概要説明</li> <li>2.地域資源と開発</li> <li>3.地産地消とは何か</li> <li>4.地域ブランドとは何か</li> <li>5.行政と地域開発</li> <li>6.消費者と地産地消</li> <li>7.消費者ニーズの探り方1</li> <li>8.消費者ニーズの探り方2</li> <li>9.消費者ニーズの探り方3</li> <li>10.消費者ニーズを探る その1</li> <li>11.消費者ニーズを探る その2</li> <li>12.消費者ニーズを探る その3</li> <li>13.調査報告とは</li> <li>14.調査報告のポイント</li> <li>15.まとめ</li> </ol>   |              |       |
| 教科書            | 特定の教科書は使用しない(必要に応じて、プリントを配布する)。  |              |       |
| 授業の工夫点         | <p>本講義では、学生諸君が自ら考え、討議し、調査、研究、発表することを中心に講義を行なう。そのため、座学中心ではない。事前学習が必要不可欠であることを理解した上で履修して欲しい。それゆえ、本講義を履修する前提条件としては、積極的に講義へ参加する者を基本としている。</p> <p>本講義を履修する者は、「地域資源開発II」を履修すること。</p>   |              |       |
| 授業の評価方法        | 調査・実施報告発表結果(50%)、出席状況・学習態度(50%)などを総合的に評価する。  |              |       |
| 授業のサポート体制      | ない   |              |       |
| 学外の関係機関・団体との連携 | ない   |              |       |
| 今後の授業の継続       | 今後も継続  |              |       |

|                |   |              |       |
|----------------|---|--------------|-------|
| 授業科目名          | 地域資源開発II  |              |       |
| 担当教員(学内又は学外)   | 学内教員  | 授業期間         | 半期    |
| 担当教員の専門分野      | 地域交流  | 共通・専門等の別     | 共通    |
| 開設学部(学科)及び年次   | 情報処理学科、国際文化学科   | 授業のレベル       | 初級・入門 |
| 平成20年度履修者数     | 計31名(男子学生11名 女子学生20名)   | 授業区分         | 講義    |
| 単位数            | 2   | ボランティア体験の時間数 |       |
| 必修・選択の別        | 選択  |              |       |
| 授業目的           | <p>本講義は、受講生自身が実際に地域(現場)に出て行き、自分自身の目で現地を確かめ、課題を見つけ出し、解決する能力の基礎を養ってもらうことを目的としている。このような講義を行う背景として、多くの企業や行政機関などが、地域で積極的に活動する人材を求めているからである。それゆえにこれからの時代を生き抜く者たちにとってこの能力を持つことは、自分自身を生かす上での武器になるだろう。そこで、この能力を育成する題材として、地域の中に数多く存在する資源に注目し、地域の活性化に寄与する取組を行いたい。それゆえ、地域住民をも巻き込んだ講義を行う予定である。</p> <p>本講義の進め方は、基本的に「地域資源開発I」と同じであり、「地域資源開発I」で調査した品物を中心に講義展開を行う。また、本講義は「地域資源開発III」に実施予定である大手スーパー(イオン)および北九州市小倉北区役所と連携した地産地消即売会を題材に企画能力、交渉能力、説得力、実践力の育成を目的に講義を行う。</p> <p>講義概要としては、地域資源開発I(以下、Iという)で示したように「地産地消」について講義を行うが、Iで知り得た消費者ニーズ、消費者と生産者の意識の違いなどを踏まえ、本講義では実際に販売する上での問題点を探り、消費者に定着しない理由などを実践即売会の準備を通じて明らかにしていきたい。その過程で、企業側や生産者の担当者と交渉しながら物事を進めていく。このような講義の流れを踏まえ、実践的に地域で活動する手法や大人としてのコミュニケーション能力について学び、地域活動における諸問題について理解を深める機会としたい。その上で、今後の取組みとして何が必要なのかを探る。</p> <p>なお、本講義を受講することにより、その後の学生生活、社会生活、職業生活の中で豊かな心やたくましく生きる力を培うと共に、地域での活動に入っていく素地を培うことも狙いとしている。</p> <p>※履修者数によって、下記の講義日程や上述した講義概要を変更する可能性がある。また、状況に応じて講義日を変更する。</p> |              |       |
| 授業内容           | <ol style="list-style-type: none"> <li>1.授業概要説明</li> <li>2.消費者サイドの視点</li> <li>3.生産者サイドの視点</li> <li>4.企業サイドの視点</li> <li>5.流通の仕組み1</li> <li>6.流通の仕組み2</li> <li>7.地産地消における流通と課題</li> <li>8.広報計画と実践</li> <li>9.実施活動計画作成1</li> <li>10.実施活動計画作成2</li> <li>11.実施活動計画作成3</li> <li>12.実施活動計画作成4</li> <li>13.実施活動計画作成5</li> <li>14.実施活動計画作成6</li> <li>15.まとめ</li> </ol>   |              |       |
| 教科書            | 特定の教科書は使用しない(必要に応じて、プリントを配布する)。   |              |       |
| 授業の工夫点         | <p>本講義は、学生諸君が自ら考え、討議し、調査、研究、発表することを中心に講義を行なう。そのため、座学中心ではない。事前学習が必要不可欠であることを理解した上で履修して欲しい。</p> <p>この授業は、春semesterでの講義を受けて実施するため、地域資源開発Iを履修した者を対象とした講義である。さらに、秋semesterに開講する地域資源開発IIIと密接に関連しているため、地域資源開発IIIも引き続き履修できる学生を対象にしている。この点を理解した上で、履修してもらいたい。</p>   |              |       |
| 授業の評価方法        | 課題提出・実施報告発表結果(50%)、出席状況・学習態度(50%)などを総合的に評価する。   |              |       |
| 授業のサポート体制      | ない  |              |       |
| 学外の関係機関・団体との連携 | ない  |              |       |
| 今後の授業の継続       | 今後も継続   |              |       |



|                |   |              |       |
|----------------|---|--------------|-------|
| 授業科目名          | 地域資源開発Ⅲ   |              |       |
| 担当教員（学内又は学外）   | 学内教員  | 授業期間         | 半期    |
| 担当教員の専門分野      | 地域交流  | 共通・専門等の別     | 共通    |
| 開設学部（学科）及び年次   | 情報処理科、国際文化学科  | 授業のレベル       | 中級・応用 |
| 平成20年度履修者数     | 計25名（男子学生10名 女子学生15名）   | 授業区分         | 演習    |
| 単位数            | 2   | ボランティア体験の時間数 |       |
| 必修・選択の別        | 選択  |              |       |
| 授業目的           | <p>本講義は、受講生自身が実際に地域（現場）に出て行き、自分自身の目で現地を確かめ、課題を見つけ出し、解決する能力の基礎を養ってもらふことを目的としている。このような講義を行う背景として、多くの企業や行政機関などが、地域で積極的に活動する人材を求めているからである。それゆえにこれからの時代を生き抜く君たちにとってこの能力を持つことは、自分自身を生かす上での武器になるだろう。そこで、この能力を育成する題材として、地域の中に数多く存在する資源に注目し、地域の活性化に寄与する取組を行いたい。それゆえ、地域住民をも巻き込んだ講義を行う予定である。</p> <p>本講義の進め方は、基本的に「地域資源開発ⅠおよびⅡ」と同じであり、「地域資源開発Ⅱ」で行った大手スーパー（イオン）および北九州市小倉北区役所と連携した地産地消即売会実施準備を基に、実際に月2回程度の即売会を行い、地域ブランドの促進に努めたい。その上で、これまで行ってきた講義および調査から知りえた知見をまとめ、広く周知させる取組を行う。</p> <p>講義概要は下記の通りである。地域資源開発Ⅰで示したように「地産地消」について講義を行うが、地域資源開発Ⅰで知り得た消費者ニーズ、消費者と生産者の意識の違いなどを踏まえ、地域資源開発Ⅱでは実際に販売する上での問題点を探り、消費者に定着しない理由などを実践即売会の準備を通じて明らかにした。これらを基に本講義では、実際に実践即売会を開催する。この販売会の結果およびこれまでの行ってきた講義内容・調査結果を報告書という形でまとめ、一年間を通じて関わっていただいた方々を招待しての発表会を行う。</p> <p>このような講義の流れを踏まえ、実践的に地域で活動する手法や大人としてのコミュニケーション能力について学び、地域活動における諸問題について理解を深める機会としたい。その上で、今後の取組みとして何が必要なのかを探る。なお、本講義を受講することにより、その後の学生生活、社会生活、職業生活の中で豊かな心やたくましく生きる力を培うと共に、地域での活動に入っていき素地を培うことも狙いとしている。</p> <p>※履修者数によって、下記の講義日程や上述した講義概要を変更する可能性がある。また、状況に応じて講義日を変更する。</p> |              |       |
| 授業内容           | <ol style="list-style-type: none"> <li>1.授業概要説明</li> <li>2.実施活動1</li> <li>3.実施活動2</li> <li>4.実施活動3</li> <li>5.実施活動4</li> <li>6.実践活動後の処理1</li> <li>7.実践活動後の処理2</li> <li>8.消費者側の課題と実際</li> <li>9.生産者側の課題と実際</li> <li>10.企業側の課題と実際</li> <li>11.広報活動における課題と実際</li> <li>12.地産地消の課題と今後</li> <li>13.報告書とは</li> <li>14.報告書のポイント</li> <li>15.まとめ</li> </ol>  |              |       |
| 教科書            | 特定の教科書は使用しない(必要に応じて、プリントを配布する)。   |              |       |
| 授業の工夫点         | この授業は、地域資源開発ⅠおよびⅡを履修した者を対象とした講義である。そのため履修する場合、注意してもらいたい。その理由として、春semesterでの講義を継続しているためである。  |              |       |
| 授業の評価方法        | 課題提出・実施報告発表結果(50%)、出席状況・学習態度(50%)などを総合的に評価する。   |              |       |
| 授業のサポート体制      | ない  |              |       |
| 学外の関係機関・団体との連携 | ない  |              |       |
| 今後の授業の継続       | 今後も継続   |              |       |

|                |   |              |       |
|----------------|---|--------------|-------|
| 授業科目名          | 地域資源開発Ⅲ   |              |       |
| 担当教員（学内又は学外）   | 学内教員  | 授業期間         | 半期    |
| 担当教員の専門分野      | 地域交流  | 共通・専門等の別     | 共通    |
| 開設学部（学科）及び年次   | 情報処理科、国際文化学科  | 授業のレベル       | 中級・応用 |
| 平成20年度履修者数     | 計25名（男子学生10名 女子学生15名）   | 授業区分         | 演習    |
| 単位数            | 2   | ボランティア体験の時間数 |       |
| 必修・選択の別        | 選択  |              |       |
| 授業目的           | <p>本講義は、受講生自身が実際に地域（現場）に出て行き、自分自身の目で現地を確かめ、課題を見つけ出し、解決する能力の基礎を養ってもらふことを目的としている。このような講義を行う背景として、多くの企業や行政機関などが、地域で積極的に活動する人材を求めているからである。それゆえにこれからの時代を生き抜く君たちにとってこの能力を持つことは、自分自身を生かす上での武器になるだろう。そこで、この能力を育成する題材として、地域の中に数多く存在する資源に注目し、地域の活性化に寄与する取組を行いたい。それゆえ、地域住民をも巻き込んだ講義を行う予定である。</p> <p>本講義の進め方は、基本的に「地域資源開発ⅠおよびⅡ」と同じであり、「地域資源開発Ⅱ」で行った大手スーパー（イオン）および北九州市小倉北区役所と連携した地産地消即売会実施準備を基に、実際に月2回程度の即売会を行い、地域ブランドの促進に努めたい。その上で、これまで行ってきた講義および調査から知りえた知見をまとめ、広く周知させる取組を行う。</p> <p>講義概要は下記の通りである。地域資源開発Ⅰで示したように「地産地消」について講義を行うが、地域資源開発Ⅰで知り得た消費者ニーズ、消費者と生産者の意識の違いなどを踏まえ、地域資源開発Ⅱでは実際に販売する上での問題点を探り、消費者に定着しない理由などを実践即売会の準備を通じて明らかにした。これらを基に本講義では、実際に実践即売会を開催する。この販売会の結果およびこれまでの行ってきた講義内容・調査結果を報告書という形でまとめ、一年間を通じて関わっていただいた方々を招待しての発表会を行う。</p> <p>このような講義の流れを踏まえ、実践的に地域で活動する手法や大人としてのコミュニケーション能力について学び、地域活動における諸問題について理解を深める機会としたい。その上で、今後の取組みとして何が必要なのかを探る。なお、本講義を受講することにより、その後の学生生活、社会生活、職業生活の中で豊かな心やたくましく生きる力を培うと共に、地域での活動に入っていき素地を培うことも狙いとしている。</p> <p>※履修者数によって、下記の講義日程や上述した講義概要を変更する可能性がある。また、状況に応じて講義日を変更する。</p> |              |       |
| 授業内容           | <ol style="list-style-type: none"> <li>1.授業概要説明</li> <li>2.実施活動1</li> <li>3.実施活動2</li> <li>4.実施活動3</li> <li>5.実施活動4</li> <li>6.実践活動後の処理1</li> <li>7.実践活動後の処理2</li> <li>8.消費者側の課題と実際</li> <li>9.生産者側の課題と実際</li> <li>10.企業側の課題と実際</li> <li>11.広報活動における課題と実際</li> <li>12.地産地消の課題と今後</li> <li>13.報告書とは</li> <li>14.報告書のポイント</li> <li>15.まとめ</li> </ol>  |              |       |
| 教科書            | 特定の教科書は使用しない(必要に応じて、プリントを配布する)。   |              |       |
| 授業の工夫点         | この授業は、地域資源開発ⅠおよびⅡを履修した者を対象とした講義である。そのため履修する場合、注意してもらいたい。その理由として、春semesterでの講義を継続しているためである。  |              |       |
| 授業の評価方法        | 課題提出・実施報告発表結果(50%)、出席状況・学習態度(50%)などを総合的に評価する。   |              |       |
| 授業のサポート体制      | ない  |              |       |
| 学外の関係機関・団体との連携 | ない  |              |       |
| 今後の授業の継続       | 今後も継続   |              |       |

|                |   |              |       |
|----------------|---|--------------|-------|
| 授業科目名          | 社会福祉ボランティア論   |              |       |
| 担当教員（学内又は学外）   | 学内教員  | 授業期間         | 半期    |
| 担当教員の専門分野      | 地域交流  | 共通・専門等の別     | 共通    |
| 開設学部（学科）及び年次   | 情報処理学科、国際文化学科   | 授業のレベル       | 初級・入門 |
| 平成20年度履修者数     | 次年度開講   | 授業区分         | 講義    |
| 単位数            | 2   | ボランティア体験の時間数 |       |
| 必修・選択の別        | 選択  |              |       |
| 授業目的           | <p>社会福祉は身近なことであり、生活全般に関わるものであることを理解するのが本講義の目標である。そこで、ボランティア分野を通じて社会福祉の歴史や法体系などについて大きな流れを理解する。同時に社会福祉を取巻く諸状況について自らが考え分析する能力を養うことを目指す。少子高齢化社会の現状を知り、児童福祉をキーワードにして身の回りの社会福祉を中心としたボランティアについて学ぶ。</p> <p>本講義では、毎回のトピックスをテーマにしたディスカッション方式も取入れ、講義による知識の習得と共に自分の考えを人に伝える表現力のトレーニングを行う。お互いの意見の違いを認識して認め合うことは「心のバリア」を取り除く第一歩であり、ノーマライゼーションの理念を認識するための第一歩でもある。このような形式の授業を行う理由として、「社会福祉」の分野は、専門用語が多く、難解なイメージを持っている学生が多い。それゆえに社会福祉の基本原則を認識し、学んだことをグループ発表によって自分の知識として定着させたいからである。同時に自分の町の福祉システムなどについても実情を把握するものである。</p> <p>※履修者数、理解度に応じて、下記の授業内容を変更する可能性がある。</p> |              |       |
| 授業内容           | <ol style="list-style-type: none"> <li>1.授業概要説明</li> <li>2.社会福祉とボランティアの概念</li> <li>3.社会福祉の諸相</li> <li>4.社会保障の仕組みとボランティア</li> <li>5.社会福祉の歴史と思想</li> <li>6.社会福祉の仕組み－制度</li> <li>7.社会福祉の仕組み－財源</li> <li>8.社会福祉の仕組み－人材</li> <li>9.児童福祉分野におけるボランティア1</li> <li>10.児童福祉分野におけるボランティア2</li> <li>11.人口構造の推移と児童に関わる問題とボランティア活動</li> <li>12.社会保障構造改革と社会福祉</li> <li>13.社会福祉ボランティアの展望</li> <li>14.社会福祉の国際的動向とボランティア活動</li> <li>15.定期試験</li> </ol>   |              |       |
| 教科書            | 特定の教科書は使用しない(必要に応じて、プリントを配布する)。   |              |       |
| 授業の工夫点         | 児童や社会問題に関心のある学生の履修を期待する。本講義は、受講生の積極性が求められる。資料を基に講義を行ない、学生諸君が自ら考え、討議し、発表することを中心に講義を行なう。なお、授業の流れに応じて、グループ編成を行なう。  |              |       |
| 授業の評価方法        | 課題提出、試験結果、出席状況、学習態度などを総合的に評価する。   |              |       |
| 授業のサポート体制      | ない  |              |       |
| 学外の関係機関・団体との連携 | ない  |              |       |
| 今後の授業の継続       | 今後も継続   |              |       |

|                |  |              |       |
|----------------|--|--------------|-------|
| 授業科目名          | 地域サービス論  |              |       |
| 担当教員(学内又は学外)   | 学内教員   | 授業期間         | 半期    |
| 担当教員の専門分野      | 地域交流   | 共通・専門等の別     | 共通    |
| 開設学部(学科)及び年次   | 国際文化学科   | 授業のレベル       | 初級・入門 |
| 平成20年度履修者数     | 計28名(男子学生19名 女子学生9名)   | 授業区分         | 講義    |
| 単位数            | 2  | ボランティア体験の時間数 |       |
| 必修・選択の別        | 選択   |              |       |
| 授業目的           | <p>経済状況や財政状況によって市民の意識の変化が著しくなってきた。高齢者や障害者、児童に関わる社会福祉サービスは、もちろんのこと普通に暮らす我々の生活も大きく変容しようとしている。本講義では、官から民の流れの中で成長している地域に注目し、官民の役割分担などについて学ぶこととする。</p> <p>例えば、高齢者福祉分野においては、公的介護保険制度の導入以降、民間企業による介護保険事業への参入が相次ぎ、市場規模は拡大し、サービス競争や価格競争も進んでおり、民間企業の参入の少ない地方においては非営利法人やJA(農協)による相互扶助組織がサービスの支えとなっている。また児童福祉分野においては、従来の社会福祉法人や公的団体だけではなく、保育に民間企業の参入も起こっている。「地域サービス論」では、事例研究を通じて、民の参入の背景と効果、官民の役割の変容について理解を深める。</p> <p>※履修者数、理解度に応じて、下記の授業内容を変更する可能性がある。</p> |              |       |
| 授業内容           | <ol style="list-style-type: none"> <li>1.授業概要説明</li> <li>2.膨らむ借金体質</li> <li>3.社会保障の状況</li> <li>4.社会状況と価値観の変化</li> <li>5.高齢者福祉における事例1</li> <li>6.高齢者福祉における事例2</li> <li>7.障害者福祉における事例1</li> <li>8.障害者福祉における事例2</li> <li>9.児童福祉における事例1</li> <li>10.児童福祉における事例2</li> <li>11.生き残るために1</li> <li>12.生き残るために2</li> <li>13.生き残るために3</li> <li>14.地域サービスの重要性</li> <li>15.定期試験</li> </ol>  |              |       |
| 教科書            | 特定の教科書は使用しない(必要に応じて、プリントを配布する)。  |              |       |
| 授業の工夫点         | 地域や社会問題に関心のある学生の履修を期待する。本講義は、受講生の積極性が求められる。資料を基に講義を行ない、学生諸君が自ら考え、討議し、発表することを中心に講義を行なう。なお、講義の流れに応じて、グループ編成を行なう。   |              |       |
| 授業の評価方法        | 課題提出、試験結果、出席状況、学習態度などを総合的に評価する。  |              |       |
| 授業のサポート体制      | ない   |              |       |
| 学外の関係機関・団体との連携 | ない   |              |       |
| 今後の授業の継続       | 今後も継続  |              |       |

|                |  |              |       |
|----------------|--|--------------|-------|
| 授業科目名          | まちづくりNPO論  |              |       |
| 担当教員（学内又は学外）   | 学内教員   | 授業期間         | 半期    |
| 担当教員の専門分野      | 地域交流   | 共通・専門等の別     | 共通    |
| 開設学部（学科）及び年次   | 国際文化学科   | 授業のレベル       | 初級・入門 |
| 平成20年度履修者数     | 計36名（男子学生20名 女子学生16名）  | 授業区分         | 講義    |
| 単位数            | 2  | ボランティア体験の時間数 |       |
| 必修・選択の別        | 選択   |              |       |
| 授業目的           | <p>自分たちのまちは、自分たちの手で守っていこうという気運が全国各地で高まり、その活動がテレビ番組になってしまうほどの勢いである。このことから明らかなように、市民のまちづくりへの関心が確実に高まっていることがわかる。ところが、一般的に「まちづくり」は、言葉ばかりが先行し、その本質部分が曖昧になっている。その証として「まちづくりって何」と聞かれ、すぐに答えられる人は少ない。ましてや「まちづくりNPO」や「協働」「連携」などの用語にいたっては、なおさらである。たとえ答えが返ってきたとしても、その人によって、解釈内容が広義的解釈であったり、狭義的解釈であったりと十人十色である。</p> <p>そこで本講義概要として、「まちづくり」や「まちづくりNPO」、「協働」「連携」「地域コミュニティ形成支援」などについて基本的な考え方を学生諸君と共有する。その上で、まちづくりNPOとは何か、どのような活動を行っているのかといった本質的な部分を理解するために、学生諸君にとって身近な地域社会を題材にし、文献のみでなく、「まちづくりNPO」の実践活動事例を基に学生諸君がイメージできるように講義を行なう。</p> |              |       |
| 授業内容           | <ol style="list-style-type: none"> <li>1.授業概要説明・NPOとは</li> <li>2.「まちづくり」とは何か</li> <li>3.「NPO」とは何か</li> <li>4.まちづくりNPOの定義</li> <li>5.NPOの存在理由</li> <li>6.制度と組織</li> <li>7.まちづくりNPOの課題</li> <li>8.まちづくりNPOに求められるもの</li> <li>9.既存施設の活用</li> <li>10.福祉のまちづくり</li> <li>11.学校教育とまちづくり</li> <li>12.環境保全とまちづくり</li> <li>13.地域資源の保全と活用</li> <li>14.日本の地域社会－未来展望</li> <li>15.テスト</li> </ol>  |              |       |
| 教科書            | 特定の教科書は使用しない(必要に応じて、プリントを配布する)が、必要な場合後日指定する。   |              |       |
| 授業の工夫点         | 地域活動、まちづくり、NPO活動に関心のある学生の履修を期待する。本講義は、受講生の積極性が求められる。資料を基に講義を行ない、学生諸君が自ら考え、討議し、調査、研究、発表することを中心に講義を行なう。なお、授業の流れに応じて、グループ編成を行なう。  |              |       |
| 授業の評価方法        | 課題提出、試験結果、出席状況、学習態度などを総合的に評価する。<br>授業の進捗状況によって、内容を変更することもある。   |              |       |
| 授業のサポート体制      | ない   |              |       |
| 学外の関係機関・団体との連携 | ない   |              |       |
| 今後の授業の継続       | 今後も継続  |              |       |

|                |   |              |       |
|----------------|---|--------------|-------|
| 授業科目名          | まちづくりNPO論演習   |              |       |
| 担当教員(学内又は学外)   | 学内教員  | 授業期間         | 半期    |
| 担当教員の専門分野      | 地域交流  | 共通・専門等の別     | 共通    |
| 開設学部(学科)及び年次   | 国際文化学科  | 授業のレベル       | 中級・応用 |
| 平成20年度履修者数     | 次年度開講   | 授業区分         | 演習    |
| 単位数            | 2   | ボランティア体験の時間数 |       |
| 必修・選択の別        | 選択  |              |       |
| 授業目的           | <p>本講義は、受講生自身が実際に地域(現場)に出て行き、自分自身の目で現地を確かめ、課題を見つけ出し、解決する能力の基礎を養ってもらふことを目的としている。このような講義を行う背景として、多くの企業や行政機関などが、地域で積極的に活動する人材を求めているからである。それゆえにこれからの時代を生き抜く君たちにとってこの能力を持つことは、自分自身を生かす上での武器になるだろう。そこで、この能力を育成する題材として、地域の中に数多く存在する都市問題に注目し、地域の活性化に寄与する取組を行いたい。それゆえ、地域住民をも巻き込んだ講義を行う予定である。</p> <p>本講義の進め方および概要は、履修した者に対し、個人またはグループで調査を行い、その結果を基に実践活動につなげていく。今年度は、北九州市にある「若戸大橋」に注目する。現在北九州市は、若戸大橋周辺を近隣住民が散策できるミニ観光地化を進めている。しかしながら、周辺施設とのアクセス、近隣住民の関心などが薄い(広報的な周知が足りない)。そこで、この講義では、この課題に対して調査し、その対応策を考え、体外的に提言することを目標に作業を行う。その過程で、履修した学生諸君が企画立案した行事やイベント(一般市民を対象としたもの)を実施し、学生ならではの提案を見出したい。このような講義の流れを踏まえ、実践的に地域で活動する手法や大人としてのコミュニケーション能力について学び、地域活動における諸問題について理解を深める機会としたい。その上で、今後の取組みとして何が必要なのかを探る。</p> <p>※履修者数、理解度に応じて、下記の授業内容を変更する可能性がある。また、状況に応じて講義日を変更する。</p> |              |       |
| 授業内容           | <ol style="list-style-type: none"> <li>1.授業概要説明</li> <li>2.現地の状況を知る1</li> <li>3.現地の状況を知る2</li> <li>4.現場に行ってみよう!</li> <li>5.コンセプトづくり</li> <li>6.基本方針づくり</li> <li>7.具体案づくり</li> <li>8.実践活動1</li> <li>9.実践活動2</li> <li>10.実践活動3</li> <li>11.実践活動後の整理</li> <li>12.報告書の作成1</li> <li>13.報告書の作成2</li> <li>14.報告書の作成3</li> <li>15.まとめ</li> </ol>  |              |       |
| 教科書            | 特定の教科書は使用しない(必要に応じて、プリントを配布する)。   |              |       |
| 授業の工夫点         | 地域活動、まちづくり、ボランティア活動に関心のある学生の履修を期待する。本講義は、受講生の積極性が求められる。資料を基に講義を行ない、学生諸君が自ら考え、討議し、調査、研究、発表することを中心に講義を行なう。なお、授業の流れに応じて、グループ編成を行なう。  |              |       |
| 授業の評価方法        | 課題提出、試験結果、出席状況、学習態度などを総合的に評価する。   |              |       |
| 授業のサポート体制      | ない  |              |       |
| 学外の関係機関・団体との連携 | ない  |              |       |
| 今後の授業の継続       | 今後も継続   |              |       |